NETGEAR®

デュアルバンドWiFiルーター

ユーザーマニュアル

R6350
R6850

2018年6月
202-11906-01

サポート

NETGEAR製品をお選びいただきありがとうございます。 *https://www.netgear.jp/supportInfo/*にアクセスしていただくと、本製品の登録、サポート情報の入手、最新のダウンロードとユーザーマニュアルの入手、弊社コミュニティへの参加を行っていただくことができます。 製品のサポートを受けるためには、ご購入後30日以内の製品登録が必要です。

適合

現在のEU適合宣言については、ネットギアのウェブサイト
(*http://kb.netgear.com/app/answers/detail/a_id/11621*) をご覧ください (英語)。

適合性

各種規格との適合に関する情報については、*http://www.netgear.com/about/regulatory*をご覧ください (英語)。

本製品をお使いになる前に、適合性の情報をお読みください。

商標

© NETGEAR, Inc.、NETGEAR、およびNETGEARのロゴはNETGEAR社の商標です。NETGEAR以外の商標は参照目的のためにのみ使用されています。

目次

第 1 章 ルーターのハードウェアの概要

同梱物の確認.....10
天面パネルのLED.....11
背面のポート、ボタンおよびコネクタ.....12
ルーターのラベル.....13
ルーターの設置.....13
ケーブルの接続.....14
ルーターの壁面への設置.....14

第 2 章 ネットワークへの接続とルーターへのアクセス

ネットワークへの接続.....17
有線接続.....17
無線LAN接続.....17
WPSを使用した無線LAN接続.....17
ログインのタイプ.....18
ウェブブラウザーからルーターへのアクセス.....18
ルーターのセットアップ.....18
ルーター管理者ページ (NETGEAR genie) へのログイン.....19
NETGEAR Nighthawkアプリを使用したルーターのインストールまたは管理....20
言語の変更.....20

第 3 章 インターネット設定

セットアップウィザードの使用.....23
インターネット接続の手動設定.....23
ログインを必要としないインターネット接続の指定.....23
ログインとPPPoEサービスを使用するインターネット接続の指定.....24
ログインとPPTPまたはL2TPサービスを使用するインターネット接続の指定 26
IPv6インターネット接続の指定.....27
IPv6アドレスの入力要件.....28
自動設定を使用したIPv6インターネット接続.....28
自動検出を使用したIPv6インターネット接続.....29
IPv6 6to4トンネルインターネット接続の設定.....30
IPv6 6rdトンネル接続の設定.....31
IPv6 パススルーインターネット接続の設定.....33
IPv6固定インターネット接続の設定.....33
IPv6 DHCPインターネット接続の設定.....34
IPv6 PPPoEインターネット接続の設定.....35
MTUサイズの管理.....37
MTUの概念.....37
MTUサイズの変更.....38

第 4 章 パフォーマンスの最適化

QoSを使用してトラフィックを最適化.....40
デフォルトおよびカスタムQoSルールの管理.....40
サービスまたはアプリケーションのカスタムQoSルールの追加.....40
デバイスのカスタムQoSルールの追加.....42
QoSルールを変更するか、ルールの優先度を変更する.....42
QoSルールの削除.....43
すべてのQoSルールの削除.....44
アップリンク帯域幅制御の管理.....45
Wi-FiマルチメディアのQoSの管理.....45
Universal Plug and Playによるネットワーク接続の改善.....46

第 5 章 基本的なワイヤレスネットワーク設定の管理

メインネットワークの基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティの管理....49
基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティ設定の表示または変更.....49
WEPレガシー無線LANセキュリティの設定.....55
WPA/WPA2エンタープライズ無線LANセキュリティの設定.....56
WPSを使ってワイヤレスネットワークにデバイスを追加する.....58
プッシュボタン方式.....58
PIN方式.....59
ゲストネットワークの基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティの管理....60
無線LANの有効化または無効化.....63

第 6 章 インターネットアクセスの管理

ペアレンタルコントロールの設定.....65
ネットワークへのアクセスの許可または禁止.....65
ネットワークアクセス制御の有効化と管理.....67
ネットワークのアクセス制御リストの管理.....68
許可リストへの機器の追加または許可リストからの機器の削除.....68
禁止リストへのデバイスの追加または禁止リストからのデバイスの削除.....69
キーワードを使用したインターネットサイトのブロック.....70
ブロックの設定.....70
禁止リストからのキーワードまたはドメインの削除.....71
禁止リストからのすべてのキーワードとドメインの削除.....71
信頼できるPCの指定.....72
サービスおよびアプリケーションのシンプルな送信ファイアウォールルールの管理.....73
送信ファイアウォールルールの追加.....73
カスタムサービスまたはアプリケーションの送信ファイアウォールルールの追加.....74
送信ファイアウォールルールの変更.....75
送信ファイアウォールルールの削除.....76
キーワードに基づくブロックと送信ファイアウォールルールのスケジュールの設定.....76
セキュリティイベントのメール通知の設定.....77

第 7 章 ルーターに接続されたUSBストレージドライブの共有

USBドライブの要件.....80
ルーターへのUSBストレージドライブの接続.....80
ルーターに接続されたストレージドライブへのアクセス.....80
ルーターに接続されたストレージドライブへのWindows PCからのアクセス.....81
ルーターに接続されたストレージドライブへのMacからのアクセス.....81
Windowsネットワークドライブへのの USBドライブの割り当て.....82
ReadySHARE Vaultを使用したWindows PCのバックアップ.....82
Time Machineを使用したMacのバックアップ.....83
MacでのUSBハードドライブの設定.....83
大量のデータのバックアップ準備.....84
Time Machineを使用したUSBドライブへのバックアップ.....84
ストレージドライブへのアクセスの管理.....86
ネットワーク内でFTPアクセスを有効にする.....87
ストレージドライブのネットワークフォルダーの表示または変更.....88
USBストレージドライブへのネットワークフォルダーの追加.....89
USBストレージドライブでのネットワークフォルダーの編集.....90
USBストレージドライブの安全な取り外し.....90

第 8 章 ダイナミックDNSを使用したインターネットからのUSBストレージドライブへのアクセス

ダイナミックDNSの設定と管理.....93
インターネットからのFTPアクセスの設定.....93
個人用FTPサーバー.....94
個人用FTPサーバーの設定.....94
新しいダイナミックDNSアカウントの設定.....94
すでに作成したDNSアカウントの指定.....95
ダイナミックDNS設定の変更.....96
インターネットからのUSBストレージドライブへのアクセス.....97

第 9 章 メディアサーバーとしてのルーターの使用

ReadyDLNAメディアサーバーの設定.....99
iTunesサーバーを使用したストレージドライブからの音楽再生.....100
iTunesを使用したルーターのiTunesサーバーの設定.....100
Remoteアプリを使用したルーターのiTunesサーバーの設定.....101

第 10 章 WANおよびLANネットワーク設定の管理

ワイヤレス転送速度の変更.....104
WANセキュリティ設定の管理.....104
デフォルトDMZサーバーの設定.....105
IGMPプロキシの管理.....106
VPNパススルーの管理.....106
NATフィルタリングの管理.....107
SIP Application-Level Gatewayの管理.....107
LAN IPアドレス設定の管理.....108
ルーター情報プロトコル設定の管理.....109

DHCPサーバーアドレスプールの管理.....110
予約LAN IPアドレスの管理.....111
予約IPアドレスの編集.....111
予約IPアドレスエントリの削除.....112
内蔵DHCPサーバーの無効化.....112
ルーター名の変更.....113
カスタムの静的ルートの設定および管理.....113
静的ルートの設定.....114
静的ルートの変更.....115
静的ルートの削除.....116
ポートグループまたはVLANタググループのブリッジの設定.....116
ポートグループのブリッジの設定.....116
VLANタググループのブリッジの設定.....117

第 11 章 ルーターの管理

ルーターファームウェアのアップデート.....120
新しいファームウェアの確認とルーターのアップデート.....120
手動によるルーターへのファームウェアのアップロード.....121
管理者パスワードの変更.....121
管理者パスワードの復元の有効化.....122
管理者パスワードの復元.....123
ルーター設定ファイルの管理.....123
設定のバックアップ.....123
設定の復元.....124
LEDの点滅の有効化/無効化、またはLEDのオフ.....124
ルーターを工場出荷時の設定に戻す.....125
リセットボタンの使用.....125
設定の消去.....126
ルーターのステータスと統計の表示.....127
ルーター、インターネットおよびワイヤレス設定に関する情報の表示.....127
インターネットポート統計の表示.....127
インターネット接続ステータスの確認.....128
アクティビティログの管理.....129
ログの表示、メール送信または消去.....129
ログに記録するアクティビティの指定.....130
ネットワーク上にある機器の表示.....130
インターネットトラフィックの監視および測定.....131
トラフィック容量の制限を使用しないトラフィックメーターの開始.....131
インターネットトラフィックの容量および統計の表示.....132
容量によるインターネットトラフィックの制限.....133
接続時間によるインターネットトラフィックの制限.....134
トラフィックの上限に達した後のトラフィックメーターのブロック解除....135
リモートアクセス.....135
リモート管理の設定.....136
リモートアクセスの使用.....136

第 12 章 高度な無線LAN機能の管理

無線LANスケジュールの設定.....139

WPS設定の管理.....139
高度な無線LAN設定の管理.....141
ルーターによる無線LANクライアントの管理方法の指定.....141
エアタイムフェアネスの管理.....142
インプリシットビームフォーミングの管理.....142
MU-MIMOの管理.....143
ルーターと別のデバイスとの間の無線LANブリッジの設定.....143
無線LANアクセスポイントとしてのみのルーターの使用.....145

第 13 章 VPNを使用したネットワークへのアクセス

VPN接続の設定.....148
ルーターでのVPNサービスの設定.....148
OpenVPNソフトウェアのインストール.....149
Windows PCへのOpenVPNソフトウェアのインストール.....149
MacへのOpenVPNソフトウェアのインストール.....151
iOSデバイスへのOpenVPNソフトウェアのインストール.....151
AndroidデバイスへのOpenVPNソフトウェアのインストール.....152
Windows PCでのVPNトンネルの使用.....153
ルーターのUSB対応機器とメディアへのVPNを使用したアクセス.....154
VPNトンネルを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス.....154
ルーターでのVPNクライアントインターネットアクセスの設定.....155
ルーターでのVPNクライアントインターネットアクセスの禁止.....155
VPNを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス.....156

第 14 章 ポート転送とポートトリガーの管理

サービスとアプリケーションのローカルサーバーへのポート転送の管理.....158
デフォルトのサービスまたはアプリケーションの受信トラフィックの転送.158
カスタムサービスまたはアプリケーションでのポート転送ルールの追加....159
ポート転送ルールの変更.....160
ポート転送ルールの削除.....161
(オプション) ローカルWebサーバーの公開.....161
ルーターでのポート転送ルールの実行方法.....162
サービスとアプリケーションのポートトリガーの管理.....162
ポートトリガールールの追加.....163
ポートトリガールールの変更.....164
ポートトリガールールの削除.....165
ポートトリガーのタイムアウトの指定.....165
ポートトリガーを無効にする.....166
適用例: インターネットリレーチャットのためのポートトリガー.....166

第 15 章 トラブルシューティング

トラブルシューティングのヒント.....169
ネットワークを再起動する手順.....169
LANケーブルの接続の確認.....169
ワイヤレス設定.....169
ネットワーク設定.....169
LEDを使用したトラブルシューティング.....169
ルーターの電源を入れたときのLEDの動作.....170

電源LEDが消灯または点滅している.....170
インターネットまたはLANポートのLEDが消灯している.....170
ルーターにログインできない.....170
インターネットにアクセスできない.....171
インターネット閲覧のトラブルシューティング.....172
変更が保存されない.....173
無線LAN接続のトラブルシューティング.....173
pingユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング.....174
ルーターへのLANのパスのテスト.....174
Windows PCからリモートデバイスへのパスのテスト.....174

付録 A 補足情報

工場出荷時の設定.....177
技術仕様.....180

ルーターのハードウェアの概要

1

この章には次の内容が含まれます。

- *同梱物の確認*
- *天面パネルのLED*
- *背面のポート、ボタンおよびコネクタ*
- *ルーターのラベル*
- *ルーターの設置*
- *ケーブルの接続*
- *ルーターの壁面への設置*

このマニュアルに掲載されている内容の詳細については、サポートウェブサイト (*https://www.netgear.jp/supportInfo/*) を参照してください。

新機能や不具合の修正を含むファームウェアのアップデートは、適宜*www.netgear.com/support/download/*で提供されます。 新しいファームウェアを手動で確認およびダウンロードできます。 製品の機能や動作が本書に記載されている内容と一致しない場合、ファームウェアのアップデートが必要になる場合があります。

同梱物の確認

ルーター、電源アダプタ、LANケーブルが同梱されています。

図 1 : 同梱物の確認

天面パネルのLED

ルーターの天面にはステータスLEDがあります。

表 1 : LEDの説明

LED	説明
電源	**緑点灯:** 電源が入っており、ルーターは動作中です。 **緑点滅:** 起動中またはファームウェアのアップデート中または工場出荷時の状態に初期化中です。 **消灯**: ルーターに電源が入っていません。
インターネット	**緑点灯:** ルーターはインターネットに接続しています。 **緑点滅:** ルーターはインターネット通信中です。 **消灯**: インターネットポートに LAN ケーブルが接続されていません。

表 1 : LEDの説明 (続き)

LED	説明
無線LAN/WPS	**緑点灯:** 無線LANはオンの状態です。 **緑点滅:** 無線LAN 通信中またはWPS 接続中です。 **消灯**: 無線LANはオフの状態です。
USB	**緑点灯:** USBポートにデバイスが接続されています。 **緑点滅:** USB 接続試行中です。 **消灯**: USB ポートにデバイスが接続されていないか、USB機器の安全な取り外しボタンが押されました。

背面のポート、ボタンおよびコネクタ

ルーターの背面には、ポート、ボタン、電源ケーブル差し込み口があります。

図 2 : ルーターの背面

背面パネルには左から順に以下のコンポーネントがあります。

- **USB2.0ポート**: USBプリンターやUSBストレージデバイスを接続します。
- **LANポート**: PCなどの有線デバイスをLANケーブルで接続します。
- **インターネットポート**: ゲートウェイまたはモデム (ONU) を接続します。
- **WPS** ボタン: WPS対応子機を接続します。
- **リセットボタン**:工場出荷時の状態に初期化します。詳細は*ルーターを工場出荷時の設定に戻す*（125ページ）を参照してください。
- **電源ボタン**: 電源をオン/オフにします。
- **電源ケーブル差し込み口**: 電源ケーブルを接続します。

ルーターのラベル

底面のラベルには、ルーターのログイン情報、無線LANのネットワーク名(SSID)とパスワード(ネットワークキー)、シリアル番号およびMACアドレスが記載されています。

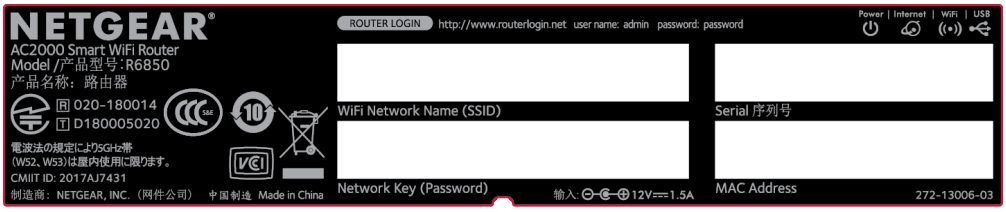


図 3 : ルーター底面のラベル
図はR6350のラベルです。

ルーターの設置

ルーターを使用すると、無線の届く範囲であればどこからでもネットワークにアクセスすることができます。 ただし、電波の届く範囲や信号強度はルーターの設置場所によって大きく異なります。 例えば、厚い壁や複数の壁があると、電波が届きにくくなる場合があります。

また、自宅内や周囲に他の無線LANアクセスポイントがあると、ルーターの信号が影響を受ける場合があります。 無線LANアクセスポイントとは、ルーター、リピーター、ワイヤレスエクステンダー (無線LAN中継機)、およびネットワークアクセス用の無線LAN信号を放出するその他のデバイスのことです。

次のガイドラインに従ってルーターを設置してください。

- PCやその他の無線LANデバイスが動作するエリアの中心近くで、無線LANデバイスから見通しの良い範囲内に、ルーターを設置します。
- 電源コンセントに差し込みやすく、有線で接続する場合はLANケーブルの接続しやすい場所であることを確認します。
- ルーターを高い場所に設置して、ルーターとその他の機器との間にある壁や天井の数をできるだけ少なくします。
- ルーターを次のようなデバイスから離して設置します。
  - 天井のファン
  - ホームセキュリティシステム
  - 電子レンジ
  - PC
  - コードレス電話機の親機
  - 2.4 GHzのコードレス電話機
  - 5 GHzのコードレス電話機
- ルーターを大きな金属面、大きなガラス面、断熱壁、および次のような物から離して設置します。

- 金属製のドア
- アルミニウム製の柱
- 水槽
- 鏡
- レンガ
- コンクリート

近くに別のアクセスポイントがある場合は、別の無線周波数チャンネルを使用して干渉を少なくします。

ケーブルの接続

次の図に、ルーターのケーブル接続の方法を示します。

図 4 : ルーターのケーブル接続

ルーターを接続します。

1. モデムの電源をオフにします。モデムがすでに別のルーターに接続されている場合は、モデムとルーターの間に接続されているLANケーブルを外します。モデムにはインターネットサービスの壁の差し込み口にのみケーブルが接続されているようにします。
2. モデムに電源コードを接続し、電源を入れます。
3. ルーターに同梱の黄色のLANケーブルを使用して、モデムとルーターのインターネットポートを接続します。
4. ルーターに電源コードを接続します。
5. ルーターの背面にある**電源**ボタンを押します。

ルーターの壁面への設置

底面の壁面取り付け用穴を使用して、ルーターを壁面に取り付けます。

図 5 : ルーターの底面

> **注** 直径3.5 mm × 長さ20 mmのなべ頭の木ネジ (欧州)、または 長さ2.54 cmの6番タイプのネジ (米国) を使用することをお勧めします。

ルーターを壁面に設置するには次の手順を実行します。

1. ルーターを設置する壁に穴を開けます。
2. 穴にウォールアンカーを挿入します。
3. ネジをウォールアンカーに挿入し、各ネジの0.5 cmを露出させたままにします。
4. ルーターの壁面取り付け用穴にネジを合わせて、ルーターを取り付けます。

ネットワークへの接続とルーターへのアクセス 2

子機からルーターへLANケーブルを使って有線で接続するか、無線で接続をすることができます。 この章では、接続の方法とルーター管理画面(NETGEAR genie)にアクセスしてログインする方法について説明します。

この章には次の内容が含まれます。

- *ネットワークへの接続*
- *ログインのタイプ*
- *ウェブブラウザーからルーターへのアクセス*
- *NETGEAR Nighthawkアプリを使用したルーターのインストールまたは管理*
- *言語の変更*

ネットワークへの接続

有線または無線でルーターのネットワークに接続することができます。固定IPアドレスを使用するように子機を設定している場合は、DHCPを使用するように設定を変更します。

有線接続

子機とルーターを有線で接続し、ルーターのローカルエリアネットワーク (LAN) に接続することができます。

子機とルーターを有線で接続します。

1. ルーターの電源が入っていること (電源LEDが点灯していること) を確認します。
2. LANケーブルを子機のLANポートに接続します。
3. LANケーブルの他端をルーターのLANポートに接続します。

無線LAN接続

手動で無線LANネットワークを探して接続します。

1. ルーターの電源が入っていること (電源LEDが点灯していること) を確認します。
2. 無線LAN子機のワイヤレスネットワーク接続から、ルーターの無線LANのネットワークを見つけて選択します。
   無線LANネットワーク名は、ルーターのラベルに記載されています。
3. ネットワークキー (パスワード) を入力します。
   ネットワークキー (パスワード) は、ルーターのラベルに記載されています。

WPSを使用した無線LAN接続

WPS対応無線LAN子機をルーターに接続するには、WPS (Wi-Fi Protected Setup) を使用するか、または手動で無線LANネットワークを選択して接続します。

WPSを使用してネットワークに接続します。

1. ルーターの電源が入っていること (電源LEDが点灯していること) を確認します。
2. WPS対応無線LAN子機のWPS手順を確認します。
3. ルーターの**WPS**ボタンを押します。
4. 2分以内に、WPS対応無線LAN子機の**WPS**ボタンを押すか、WPS接続の手順に従います。
   WPS対応無線LAN子機が無線LANネットワークに接続されます。

ログインのタイプ

目的に応じて異なるログインの種類があります。それぞれの違いを理解して、いつどのログインを使用するのかを判断することが重要です。

ルーターのログインの種類

- **プロバイダーログイン**:プロバイダーから郵送などで送られてくるログイン情報を使用して、インターネットサービスにログインします。ログイン情報が見つからない場合は、プロバイダーに直接問い合わせてください。
- **ネットワークキーまたはパスワード**:ルーターには、無線LANアクセスのための固有のネットワーク名(SSID)とパスワードがあらかじめ設定されています。この情報は、ルーターに貼られているラベルに記載されています。
- **ルーターログイン**: 管理者としてウェブブラウザーからルーターの管理者ページ (NETGEAR genie) にログインします。

ウェブブラウザーからルーターへのアクセス

無線LANまたはLANケーブルでネットワークに接続し、Webブラウザーを使用してルーターにアクセスすると、設定の確認や変更を行うことができます。ルーターにアクセスすると、ルーターがインターネットサービスに接続できるかどうかが自動的にチェックされます。

ルーターのセットアップ

ルーターを自動的にセットアップすることも、Webブラウザーを使ってルーターにアクセスして手動でルーターをセットアップすることもできます。セットアップ手順を開始する前に、プロバイダー情報を入手し、ネットワーク上の無線LAN子機がここで説明するとおりの設定であることを確認します。

インターネットサービスを開始するとき、インターネットに接続するために必要なすべての情報は、通常、プロバイダーから提供されます。ルーターをセットアップするために次の情報が必要になることがあります。

- プロバイダーのログイン名とパスワード
- 固定または静的IPアドレス設定 (プロバイダーによりごく稀に必要になります)

この情報が確認できない場合は、プロバイダーにお問い合わせください。インターネット接続が有効であれば、インターネットにアクセスするためにプロバイダーのログインプログラムを起動する必要はなくなります。インターネットアプリケーションを起動すると、ご利用のルーターは自動的にログインします。

インストールおよび基本セットアップは完了するまでに15分程度かかります。

ルーターをセットアップします。

1. ルーターの電源が入っていることを確認します。
2. PCまたはモバイルデバイスがLANケーブル(有線)または無線でルーターに接続されていること、また無線接続の場合、ルーターのラベルに記載されているセキュリティ設定が使用されていることを確認します。

注 ルーターの無線LAN設定を変更する場合は、有線接続を使用してください。これは、新しい無線LAN設定が有効になるときに無線LAN接続が切断されることを避けるためです。

3. Webブラウザーを起動します。
   これまでにルーターにアクセスしたことがあるかどうかによって表示されるページが異なります。
   - ルーターのインターネット接続を初めて設定するときは、自動的に**http://www.routerlogin.net**に移動して、インストールアシスタントが表示されます。
   - インターネット接続の設定が完了している場合は、ブラウザーのアドレス欄に「**http://www.routerlogin.net**」と入力してインストールプロセスを開始します。
4. 画面に表示される指示に従います。
   ルーターがインターネットに接続されます。
5. ブラウザーにNETGEARインストールアシスタントが表示されない場合は、次の操作をします。
   - 無線LAN子機がルーターのLANポートに有線で接続しているか、または無線で接続していることを確認します。
   - ルーターの電源が入っていること、および電源LEDが点灯していることを確認します。
   - ブラウザーを閉じて開き直すか、またはブラウザーのキャッシュをクリアします。
   - ブラウザーのアドレス欄に正しいアドレスが入力されていることを確認します。
   - PCが静的または固定IPアドレスに設定されている場合(稀です)、IPアドレスをルーターから自動的に取得するように変更します。
6. ルーターがインターネットに接続できない場合は、次の操作を行います。
   a. 設定を確認します。 適切なオプションを選択していて、すべてを正しく入力していることを確認します。
   b. プロバイダーに問い合わせて、正しい設定情報を使用していることを確認します。
   c. *インターネットにアクセスできない*（171ページ）を参照します。問題が継続する場合は、NETGEAR製品を登録し、NETGEAR テクニカルサポートをご利用ください。

ルーターがインターネットに接続すると、無料のReadySHARE Vaultアプリをダウンロードしてインストールするように促すメッセージが表示されます。

ルーター管理者ページ (NETGEAR genie) へのログイン

初めてルーターに接続してWebブラウザーを起動すると、ルーターの管理者ページが自動的に表示されます。後でルーターの設定を確認または変更する場合は、ブラウザーを使ってルーターの管理者ページにログインできます。

ルーターにログインします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。

注 「**http://www.routerlogin.com**」または「**http://192.168.1.1**」と入力することもできます。 このマニュアルの手順では、**http://www.routerlogin.net**を使用します。

ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

NETGEAR Nighthawkアプリを使用したルーターのインストールまたは管理

NETGEAR Nighthawkアプリを使用して、ルーターを簡単にインストールして管理することができます。アプリを使えばルーターを最新のファームウェアにアップデートしたり、無線LANネットワークを簡単にカスタマイズしたりできます。

NETGEAR Nighthawkアプリは、iOSおよびAndroidモバイルデバイスで使用できます。

NETGEAR Nighthawkアプリを使用してルーターをインストールします。

1. モバイルデバイスで、アプリストアに移動し、「Nighthawk」と検索してアプリをダウンロードします。
2. モバイルデバイスで、**[設定] > [Wi-Fi]** をタップし、ルーターの無線LANネットワークを見つけて接続します。
   ルーターの無線LANネットワーク名 (SSID) およびネットワークキー (パスワード) はルーターのラベルに記載されています。
3. モバイルデバイスでNETGEAR Nighthawkアプリを起動します。
4. アプリに表示される手順に従って、ルーターをインストールし、インターネットに接続します。

言語の変更

ルーター管理者ページ (NETGEAR genie) の言語を変更することができます。

言語を変更します。

1. ネットワークに接続されているPCや無線LAN子機でウェブブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. 右上隅にあるメニューから言語を選択します。
5. メッセージが表示されたら、**[OK]** ボタンをクリックします。
   選択した言語でページが更新されます。

インターネット設定

3

ルーターでインターネット接続を使用するように設定する場合は一般的に、Webブラウザーで初めてルーターにアクセスするときに、インスタートアシスタントでインターネット接続を自動的に検出する方法が一番簡単です。 また、手動でインターネット設定を行うこともできます。

この章には次の内容が含まれます。

- *セットアップウィザードの使用*
- *インターネット接続の手動設定*
- *IPv6インターネット接続の指定*
- *MTUサイズの管理*

セットアップウィザードの使用

セットアップウィザードを使用してルーターを自動的にセットアップできます。セットアップウィザードは、ルーターに最初に接続してセットアップするときに表示されるインストールアシスタントのページとは異なります。

セットアップウィザードを使用します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セットアップウィザード]** を選択します。
   [セットアップウィザード] ページが表示されます。
5. **[はい]** ラジオボタンを選択します。
   [いいえ] ラジオボタンを選択した場合は、[インターネット設定] ページに移動します (*インターネット接続の手動設定*（23ページ）)。
6. **[次へ]** ボタンをクリックします。
   画面の指示に従って設定を行います。

   ルーターがインターネットに接続されると、無料のデスクトップNETGEAR genieアプリと無料のReadySHARE Vaultアプリをダウンロードしてインストールするように促すメッセージが表示されます。

インターネット接続の手動設定

ルーターのインターネット接続設定を表示または変更することができます。

ログインを必要としないインターネット接続の指定

インターネット接続設定を指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[インターネット]** を選択します。
   [インターネット設定] ページが表示されます。
5. [お使いのインターネット接続はログインを必要としていますか?] セクションで、**[いいえ]** ラジオボタンを選択したままにします。
6. インターネット接続にアカウント名またはホスト名が必要な場合は、[アカウント名 (必要時のみ)] セクションにアカウント名を入力します。
7. インターネット接続にドメイン名が必要な場合は、**[ドメイン名 (必要時のみ)]** の欄に入力します。
   このページの別のセクションは、通常はデフォルトの設定を使用できますが、変更することもできます。
8. [インターネットIPアドレス] のラジオボタンを選択します。
   - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してIPアドレスを割り当てます。 これらのアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
   - **IPアドレスを指定 (固定)**: プロバイダーから割り当てられたIPアドレス、IPサブネットマスク、ゲートウェイIPアドレスを入力します。 ゲートウェイは、お使いのルーターの接続先となるプロバイダーのルーターです。
9. [ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] のラジオボタンを選択します。
   - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
   - **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。
10. [ルーターMACアドレス] のラジオボタンを選択します。
    - **既定のアドレスを使う**: 既定のMACアドレスを使用します。
    - **コンピューターのMACアドレスを使用**: ルーターは、現在使用中のPCのMACアドレスを取得し、使用します。 プロバイダーから許可されたPCを使用する必要があります。
    - **このMACアドレスを使用**: 使用したいMACアドレスを入力します。
11. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。
12. **[テスト]** ボタンをクリックしてインターネット接続をテストします。
    1分以内にNETGEARのWebサイトが表示されない場合は、*インターネットにアクセスできない*（171ページ）を参照してください。

ログインとPPPoEサービスを使用するインターネット接続の指定

ログインする必要があるPPPoEインターネットサービスの接続設定を手動で指定できます。 プロバイダーから提供された情報を使用して、インターネットサービスに接続します。 この情報が見つからない場合は、プロバイダーにお問い合わせください。 誤った情報を入力すると、ルーターがインターネットに接続できなくなる可能性があります。

ログインする必要があるPPPoEインターネットサービスの接続設定を指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[インターネット]** を選択します。
   [インターネット設定] ページが表示されます。
5. [お使いのインターネット接続はログインを必要としていますか] で **[はい]** ラジオボタンを選択します。
   ページの表示が変更されます。
6. **[インターネットサービスプロバイダー]** メニューで、**[PPPoE]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。
7. **[ログイン]** 欄に、プロバイダーから提供されたログイン名を入力します。
   通常、このログイン名はメールアドレスです。
8. **[パスワード]** 欄に、インターネットサービスへのログインに使用するパスワードを入力します。
9. プロバイダーからサービス名を提供された場合は、**[サービス名 (必要時のみ)]** 欄に入力します。
10. **[接続モード]** ドロップダウンリストで、**[常時接続]** 、**[要求に応じダイヤル]** 、または**[手動接続]** を選択します。
11. インターネットのログインがタイムアウトするまでの時間 (分) を変更するには、**[アイドルタイムアウト (分)]** 欄に時間 (分)を入力します。
    これは、ネットワーク上でだれもインターネット接続を使用していないときにルーターがインターネット接続を維持しておく時間です。 0 (ゼロ) の値は、ログアウトしないことを意味します。
12. [インターネットIPアドレス] のラジオボタンを選択します。
    - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してIPアドレスを割り当てます。 これらのアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
    - **IPアドレスを指定 (固定)**: プロバイダーから割り当てられたIPアドレス、IPサブネットマスク、ゲートウェイIPアドレスを入力します。 ゲートウェイは、お使いのルーターの接続先となるプロバイダーのルーターです。
13. [ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] のラジオボタンを選択します。
    - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
    - **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。
14. [ルーターMACアドレス] のラジオボタンを選択します。

- **デフォルトのアドレスを使う**: 既定のMACアドレスを使用します。
- **コンピューターのMACアドレスを使用**:ルーターは、現在使用中のPCのMACアドレスを取得し、使用します。 プロバイダーから許可されたPCを使用する必要があります。
- **このMACアドレスを使用**: 使用したいMACアドレスを入力します。

15. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

16. **[テスト]** ボタンをクリックしてインターネット接続をテストします。

ログインとPPTPまたはL2TPサービスを使用するインターネット接続の指定

ログインする必要があるPPTPまたはL2TPインターネットサービスの接続設定を手動で指定できます。 プロバイダーから提供された情報を使用して、インターネットサービスに接続します。 この情報が見つからない場合は、プロバイダーにお問い合わせください。 誤った情報を入力すると、ルーターがインターネットに接続できなくなる可能性があります。

ログインする必要があるPPTPまたはL2TPインターネットサービスの接続設定を指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[インターネット]** を選択します。
   [インターネット設定] ページが表示されます。
5. [お使いのインターネット接続はログインを必要としていますか] で **[はい]** ラジオボタンを選択します。
   ページの表示が変更されます。
6. **[インターネットサービスプロバイダー]** メニューで、カプセル化の方法として **[PPTP]** または **[L2TP]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。
7. **[ログイン]** 欄に、プロバイダーから提供されたログイン名を入力します。
   通常、このログイン名はメールアドレスです。
8. **[パスワード]** 欄に、インターネットサービスへのログインに使用するパスワードを入力します。
9. **[接続モード]** ドロップダウンリストで、**[常時接続]** 、**[要求に応じダイヤル]** 、または**[手動接続]** を選択します。
10. インターネットのログインがタイムアウトするまでの時間 (分) を変更するには、**[アイドルタイムアウト (分)]** 欄に時間 (分)を入力します。

これは、ネットワーク上でだれもインターネット接続を使用していないときにルーターがインターネット接続を維持しておく時間です。 0 (ゼロ) の値は、ログアウトしないことを意味します。

11. プロバイダーから固定IPアドレスと接続IDまたは名前が提供されている場合は、**[IPアドレス]**、**[サブネットマスク]**、**[サーバーアドレス]**、**[ゲートウェイIPアドレス]** および **[接続ID/名前]** の各欄に入力します。

    プロバイダーからIPアドレス、接続IDまたは名前が提供されていない場合は、これらの欄を空白のままにします。 接続IDまたは名前は、PPTPサービスにのみ適用されます。

12. [ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] のラジオボタンを選択します。
    - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
    - **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

13. [ルーターMACアドレス] のラジオボタンを選択します。
    - **既定のアドレスを使う**: デフォルトのMACアドレスを使用します。
    - **コンピューターのMACアドレスを使用**:ルーターは、現在使用中のPCのMACアドレスを取得し、使用します。 プロバイダーから許可されたPCを使用する必要があります。
    - **このMACアドレスを使用**: 使用したいMACアドレスを入力します。

14. **[適用]** ボタンをクリックします。

    設定が保存されます。

15. **[テスト]** ボタンをクリックしてインターネット接続をテストします。

IPv6インターネット接続の指定

ルーターでIPv6インターネット接続が自動的に検出されない場合は、これを設定することができます。

IPv6インターネット接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。
5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、IPv6の接続タイプを選択します。

   - 不明な場合は、**[自動検出]** を選択するとルーターが使用中のIPv6タイプを検出します。
   - インターネット接続でPPPoEまたはDHCPを使用しない、またはインターネット接続が固定されていないが、IPv6である場合は、**[自動設定]** を選択します。

この情報はご利用のプロバイダーから提供してもらうことができます。

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

IPv6アドレスの入力要件

IPv6アドレスは、4つの16進数を一組とした8つのグループをコロンで区切って表されます。 IPv6アドレス内の4桁がゼロのグループは、1つのゼロにまとめたり、すべて省略したりできます。 次のエラーがあるとIPv6アドレスは無効になります。

- 4桁の16進数のグループが9つ以上ある
- 1つのグループに16進数の英数字が5つ以上ある
- 1行にコロンが3つ以上ある

自動設定を使用したIPv6インターネット接続

自動設定を使用してIPv6インターネット接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。
5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[自動設定]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。

   以下の項目の情報がルーターによって自動的に検出されます。

   - **ルーターのIPv6アドレス (WAN側)**: この欄には、ルーターのWAN (またはインターネット) インターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン (_) によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
   - **ルーターのIPv6アドレス (LAN側)**: この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン (_) によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
6. (オプション) **[DHCPユーザークラス (必要時のみ)]** 欄に、ホスト名を入力します。
   ほとんどの場合、この欄は空白のままにできますが、プロバイダーから特定のホスト名を提供された場合はここに入力します。

7. (オプション) **[DHCPドメイン名 (必要時のみ)]** 欄に、ドメイン名を入力します。
   ご利用のIPv6プロバイダーのドメイン名を入力できます。 ここにはIPv4プロバイダーのドメイン名を入力しないでください。 例えば、ご利用のプロバイダーのメールサーバーがmail.xxx.yyy.zzzである場合は、「xxx.yyy.zzz」をドメイン名として入力します。 プロバイダーからドメイン名を提供されている場合は、それをこの欄に入力します。 例えば、Earthlink Cableではホームのホスト名が必要であり、Comcastではドメイン名が提供されることがあります。

8. [IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] のラジオボタンを選択します。

   - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
   - **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

9. [IPアドレスの割当て] のラジオボタンを選択します。

   - **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上の機器に詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
   - **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

   この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。

10. (オプション) **[このインターフェイスIDを使う]** チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。
    ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。

11. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

自動検出を使用したIPv6インターネット接続

自動検出を使用してIPv6インターネット接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。
5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[自動検出]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。

以下の項目の情報がルーターによって自動的に検出されます。

- **接続タイプ**: この欄は、検出された接続タイプを示します。
- **ルーターのIPv6アドレス (WAN側)**: この欄には、ルーターのWAN (またはインターネット) インターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン (_) によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
- **ルーターのIPv6アドレス (LAN側)**: この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン (_) によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. [IPアドレスの割当て] のラジオボタンを選択します。
   - **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上の機器に詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
   - **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

   この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。

7. (オプション) **[このインターフェイスIDを使う]** チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。
   ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

IPv6 6to4トンネルインターネット接続の設定

リモートリレールーターとは、ルーターによる6to4トンネルの作成先となるルーターです。 IPv6接続に6to4トンネル設定を適用する前に、IPv4インターネット接続が機能していることを確認します。

6to4トンネルを使用してIPv6インターネット接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。
5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[6to4トンネル]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。

ルーターは、[ルーターのIPv6アドレス (LAN側)] 欄の情報を自動的に検出します。 この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン(_)によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. [リモート6to4リレールーター] のラジオボタンを選択します。
   - **自動**: ルーターはインターネット上で利用可能な任意のリモートリレールーターを使用します。 これはデフォルトの設定です。
   - **静的IPアドレス**: リモートリレールーターの静的IPv4アドレスを入力します。 このアドレスは通常、IPv6プロバイダーから提供されます。
7. **[IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス]** のラジオボタンを選択します。
   - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
   - **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。
8. [IPアドレスの割当て] のラジオボタンを選択します。
   - **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上のデバイスに詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
   - **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

   この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。
9. (オプション) **[このインターフェイスIDを使う]** チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。

   ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。
10. **[適用]** ボタンをクリックします。

    設定が保存されます。

IPv6 6rdトンネル接続の設定

6rdプロトコルを使うと、サービスプロバイダーのIPv4ネットワークを使用するサイトにIPv6を導入することができます。 6rdでは、サービスプロバイダー独自のIPv6アドレスプレフィックスを使用します。 このため、6rdの運用範囲はサービスプロバイダーのネットワークに限定され、サービスプロバイダーの直接的な管理下に置かれます。 提供されるIPv6サービスはネイティブのIPv6と同じです。

6rdのメカニズムは、サービスプロバイダーのネットワーク内で使用するように割り当てられるIPv6アドレスとIPv4アドレスの間のアルゴリズムマッピングに依存しています。 このマッピングにより、IPv6プレフィックスからIPv4のトンネルエンドポイントを自動的に判別することが可能になり、6rdのステートレスな運用ができます。

IPv6 6rdトンネル接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。

   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。

   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。

5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[6rdトンネル]** を選択します。

   ページの表示が変更されます。

   ルーターは、[ルーターのIPv6アドレス (LAN側)] 欄の情報を自動的に検出します。 この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン(_)によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. [6rdの設定] セクションで、6rdの設定を構成します。

   - **6rdプレフィックス**: プロバイダーから与えられたIPv6プレフィックスを入力します。
   - **6rdプレフィックス長**: プロバイダーから与えられたIPv6プレフィックス長を入力します。
   - **6rd Border Relayアドレス**: プロバイダーから与えられたボーダールーターのIPv4アドレスを入力します。
   - **6rdアドレスマスク長**: プロバイダーから与えられたIPv4マスク長を入力します。

7. [IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] のラジオボタンを選択します。

   - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
   - **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

8. [IPアドレスの割当て] のラジオボタンを選択します。

   - **DHCPサーバーを使う**:この方法では、LAN上の機器に詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
   - **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

   この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。

9. (オプション) **[このインターフェイスIDを使う]** チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。

   ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。

10. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

IPv6 パススルーインターネット接続の設定

パススルーモードでは、ルーターは、IPv6パケット用の2つのポート (LANポートとWANポート) を搭載したレイヤー2スイッチとして機能します。 ルーターは、IPv6ヘッダーパケットを処理しません。IPv6 IPoE (ネイティブ方式) 接続の場合は、このオプションを選択してください。

IPv6 パススルーインターネット接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。
5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[パススルー]** を選択します。
   ページの表示が変更されますが、追加の欄は表示されません。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

IPv6固定インターネット接続の設定

IPv6 固定インターネット接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。
5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[固定]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。
6. WAN接続の固定IPv6アドレスを設定します。

- **IPv6アドレス/プレフィックス長**: ルーターのWANインターフェイスのIPv6アドレスとプレフィックス長です。
- **デフォルトIPv6ゲートウェイ**: ルーターのWANインターフェイスのデフォルトIPv6ゲートウェイのIPv6アドレスです。
- **プライマリDNS**: ルーターのIPv6ドメイン名レコードを解決するプライマリDNSサーバーです。
- **セカンダリDNS**: ルーターのIPv6ドメイン名レコードを解決するセカンダリDNSサーバーです。

注 DNSサーバーを指定しない場合、ルーターは、[インターネット設定] ページでIPv4インターネット接続用に設定されているDNSサーバーを使用します。(*インターネット接続の手動設定*（23ページ）を参照してください)。

7. [IPアドレスの割当て] のラジオボタンを選択します。
   - **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上の機器に詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
   - **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

   この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。

8. **[IPv6アドレス/プレフィックス長]** 欄で、ルーターのLANインターフェイスの静的IPv6アドレスとプレフィックス長を指定します。
   ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。

9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

IPv6 DHCPインターネット接続の設定

DHCPサーバーを使用してIPv6インターネット接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。

5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[DHCP]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。

   以下の項目の情報がルーターによって自動的に検出されます。

- **ルーターのIPv6アドレス (WAN側)**: この欄には、ルーターのWAN (またはインターネット) インターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン (_) によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
- **ルーターのIPv6アドレス (LAN側)**: この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン (_) によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. (オプション) **[DHCPユーザークラス (必要時のみ)]** 欄に、ホスト名を入力します。

   ほとんどの場合、この欄は空白のままにできますが、プロバイダーから特定のホスト名を提供された場合はここに入力します。

7. (オプション) **[DHCPドメイン名 (必要時のみ)]** 欄に、ドメイン名を入力します。

   ご利用のIPv6プロバイダーのドメイン名を入力できます。 ここにはIPv4プロバイダーのドメイン名を入力しないでください。 例えば、ご利用のプロバイダーのメールサーバーがmail.xxx.yyy.zzzである場合は、「xxx.yyy.zzz」をドメイン名として入力します。 プロバイダーからドメイン名を提供されている場合は、それをこの欄に入力します。 例えば、Earthlink Cableではホームのホスト名が必要であり、Comcastではドメイン名が提供されることがあります。

8. [IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] のラジオボタンを選択します。
   - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
   - **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

9. [IPアドレスの割当て] のラジオボタンを選択します。
   - **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上の機器に詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
   - **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

   この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。

10. (オプション) **[このインターフェイスIDを使う]** チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。

    ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。

11. **[適用]** ボタンをクリックします。

    設定が保存されます。

IPv6 PPPoEインターネット接続の設定

PPPoE IPv6インターネット接続を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。

   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
   [IPv6] ページが表示されます。

5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[PPPoE]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。

   以下の項目の情報がルーターによって自動的に検出されます。

   - **ルーターのIPv6アドレス (WAN側)**: この欄には、ルーターのWAN (またはインターネット) インターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン (_) によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
   - **ルーターのIPv6アドレス (LAN側)**: この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン (_) によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. **[ログイン]** 欄に、プロバイダー接続のログイン情報を入力します。
   これは通常、メールアドレスで使用する名前です。 例えば、お使いの主要メールアカウントがJerAB@ISP.comである場合は、この欄に「JerAB」と入力します。 一部のISP (Mindspring、Earthlink、T-DSLなど) では、ログインするときに完全なメールアドレスを使用する必要があります。 ISPで完全なメールアドレスが必要な場合は、この欄にそのアドレスを入力します。

7. **[パスワード]** 欄に、プロバイダー接続のパスワードを入力します。
8. **[サービス名]** 欄に、サービス名を入力します。
   プロバイダーからサービス名を提供されていない場合は、この欄を空白のままにします。

注 **[接続モード]** ドロップダウンリストのデフォルト設定は、安定したIPv6接続を保つために[常時接続] になっています。 ルーターが接続を終了することはありません。 例えばモデムの電源が切れて接続が終了した場合、ルーターは、PPPoE接続が再び使用可能になるとすぐに接続の再確立を試みます。

---

9. [IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] のラジオボタンを選択します。
   - **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
   - **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

10. [IPアドレスの割当て] のラジオボタンを選択します。
    - **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上の機器に詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
    - **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。

11. (オプション) **[このインターフェイスIDを使う]** チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。
    ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。

12. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

MTUサイズの管理

MTUは、ネットワークデバイスが転送する最大データパケットを指します。

MTUの概念

あるネットワークデバイスがインターネットを介して別のネットワークデバイスと通信する場合、データパケットは途中多数のデバイスを経由していきます。 この経由点にあるデバイスで使用するMTU(maximum transmission unit) 設定が他のデバイスより低い場合、データパケットは分割またはフラグメンテーション化 (断片化) され、最小MTUのデバイスと通信できるようになります。

ほとんどのNETGEARのデバイスに最適なMTUはデフォルト値です。 状況によっては、この値を変更するとある問題は解決されますが、別の問題が生じる可能性もあります。

次のような状況が発生した場合を除き、MTUは変更しないでください。

- プロバイダーまたは別のインターネットサービスに接続中に問題が発生し、プロバイダーまたはNETGEARのテクニカルサポートからMTU設定の変更が推奨された場合。 次のようなページを開く際にMTUの変更が必要になることがあります。
  - 安全なWebサイトが開かない、またはWebページの一部しか表示されない
  - Yahooメール
- VPNを使用しており、重大なパフォーマンス上の問題が発生している場合。
- パフォーマンス向上のためにMTUを最適化するプログラムを使用し、これによって接続またはパフォーマンスに問題が発生した場合。

MTUの問題が懸念される場合、一般的な解決策としてMTUを1400に変更します。 試してみる場合は、MTUを最大値の1500から問題が解消するまで徐々に下げることができます。 次の表に、一般的なMTUサイズと用途を示します。

表 2 : 一般的なMTUサイズ

MTU	用途
1500	イーサネットパケットの最大サイズ。 この設定は、PPPoEまたはVPNを使用しない接続で一般的であり、NETGEARのルーター、アダプター、スイッチのデフォルト値です。
1492	PPPoE環境で使用。

表 2 : 一般的なMTUサイズ (続き)

MTU	用途
1472	pingに使用する最大サイズ。 (これより大きなパケットは断片化されます。)
1468	一部のDHCP環境で使用。
1458	PPPoA環境で使用。
1436	PPTP環境で、またはVPNで使用。

MTUサイズの変更

警告

MTU設定が正しくないと、インターネットの通信に問題が発生する可能性があります。 例えば、特定のWebサイト、Webサイト内のフレーム、セキュリティで保護されたログインページ、FTPまたはPOPサーバーにアクセスできなくなることがあります。 プロバイダー接続で必要なことが確実な場合のみ、MTUを変更してください。

MTUサイズを変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [WAN設定]** を選択します。
   [WAN設定] ページが表示されます。
5. **[MTUサイズ]** 欄に、64～1500の値を入力します。
   ほとんどのイーサネットネットワークの場合、通常のMTU (maximum transmit unit) 値は1500バイト、PPPoE接続の場合は1492バイト、PPTP接続の場合は1436です。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

パフォーマンスの最適化

4

この章では、ルーターのパフォーマンスを最適化し、ルーターでトラフィックフローを管理する方法について説明します。

この章には次の内容が含まれます。

- *QoSを使用してトラフィックを最適化*
- *デフォルトおよびカスタムQoSルールの管理*
- *アップリンク帯域幅制御の管理*
- *Wi-FiマルチメディアのQoSの管理*
- *Universal Plug and Playによるネットワーク接続の改善*

QoSを使用してトラフィックを最適化

QoS (Quality of Service) を使用して、インターネットトラフィック、アプリケーションおよびサービスに異なる優先度を割り当てることができます。 ルーターには、デフォルトのQoSルールが用意されています。 カスタムQoSルールを追加でき、デフォルトQoSルールとカスタムQoSルールの両方を管理できます (*デフォルトおよびカスタムQoSルールの管理*（40ページ）を参照)。

ストリーミングインターネットを使用する場合は、QoSを有効にすることをお勧めします。 ただし、QoSがビデオストリーミングに高い優先度を割り当てると、同時に残りのインターネットトラフィックの優先順位が低くなります。 つまり、インターネットからのコンテンツのダウンロードなど、ほかのタスクに時間がかかるようになります。

デフォルトのQoSルールをデフォルトの優先度で表示し、QoSをオンにします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [QoS設定]** を選択します。
   [QoS設定] ページが表示されます。

   カスタムルールを追加しなかった場合または優先度を変更しなかった場合、QoSルール表には、最も高いキュー (左端の列) から最も低い優先度 (右端の列) まで、デフォルトのQoSルールとそのデフォルトの優先度キューが表示されます。
5. **[インターネットアクセスの QoS を有効にする]** というチェックボックスを選択します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。 ルーターは、QoSルールとその優先度キューに基づいて、トラフィック優先度を割り当てます。

デフォルトおよびカスタムQoSルールの管理

カスタムQoSルールを追加でき、デフォルトQoSルールとカスタムQoSルールの両方を変更および削除できます。 サービスやアプリケーションのQoSルールも追加できますが、ネットワーク上の特定のデバイスのQoSルールも追加できます。

サービスまたはアプリケーションのカスタムQoSルールの追加

トラフィックの優先度を割り当てるサービスまたはアプリケーションがデフォルトのQoSルールに含まれない場合は、カスタムQoSルールを追加できます。

サービスまたはアプリケーションのカスタムQoSルールを追加します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [QoS設定]** を選択します。
   [QoS設定] ページが表示されます。
5. **[インターネットアクセスのQoSを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. **[サービスのQoS]** ラジオボタンが選択されていることを確認します。
7. **[アプリケーション]** ドロップダウンリストから **[アプリケーションを追加]** を選択します。
   ページの表示が変更されます。
8. 次の表に示すように、サービスまたはアプリケーションの新しいQoSルールを指定します。

項目	説明
優先度	
QoS ポリシー	QoSルールの名前を入力します。
優先度	サービスまたはアプリケーションに割り当てる優先度 (**最高**、**高**、**普通**または**低**) を選択します。 優先度の選択は、QoSルール表のキュー列に対応しています。
特定ポート範囲	
接続タイプ	サービスまたはアプリケーションに関連付けられるプロトコル(**[TCP]** または **[UDP]**) を選択します。 不明な場合は、**[TCP/UDP]** を選択してください。
開始ポート	サービスまたはアプリケーションの開始ポート番号を入力します。
終止ポート	サービスまたはアプリケーションの終了ポート番号を入力します。

9. [QoS - 優先度ルール] ページで **[適用]** ボタンをクリックします。
   QoSルール表に新しいQoSルールが追加されます。
10. [QoS設定] ページで、**[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

デバイスのカスタムQoSルールの追加

ネットワーク上のデバイスにトラフィックの優先度を割り当てることができます。

デバイスのQoSルールを追加します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [QoS設定]** を選択します。
   [QoS設定] ページが表示されます。
5. **[インターネットアクセスのQoSを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. **[デバイスのQoS]** ラジオボタンを選択します。
   ページの表示が変更されます。
7. MACデバイスリストでデバイスのラジオボタンを選択して、欄に自動的に入力するか (デフォルトでは、各デバイスに通常の優先度が割り当てられています)、デバイスの設定を指定します (次の表を参照)。

項目	説明
QoS ポリシー	QoSルールの名前を入力します。
MAC アドレス	デバイスのMACアドレスを入力します。
デバイス	デバイスの名前を入力します。
優先度	サービスまたはアプリケーションに割り当てる優先度 (**最高**、**高**、**普通**または**低**) を選択します。 優先度の選択は、QoSルール表のキュー列に対応しています。

8. **[追加]** ボタンをクリックします。
   QoSルール表に新しいQoSルールが追加されます。
9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

QoSルールを変更するか、ルールの優先度を変更する

既存のデフォルトまたはカスタムQoSルールを変更できます。 デフォルトのルールでは、優先度のみを変更できます。 カスタムルールでは、優先度およびその他の設定を変更できます。

QoSルールを変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [QoS設定]** を選択します。
   [QoS設定] ページが表示されます。
5. **[インターネットアクセスのQoSを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. QoSルール表で、サービス、アプリケーションまたはデバイスをクリックして選択します。
   [編集] ボタンが使用可能になります。
7. **[編集]** ボタンをクリックします。
   [QoS優先度ルール] ページが表示されます。
8. 設定を変更します。
   設定の詳細については、*サービスまたはアプリケーションのカスタムQoSルールの追加*（40ページ）または*デバイスのカスタムQoSルールの追加*（42ページ）を参照してください。
9. [QoS - 優先度ルール] ページで **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。 優先度を変更した場合、QoSルールが [QoS設定] ページのQoSルール表の別の列に表示されます。

QoSルールの削除

個々のカスタムまたはデフォルトのQoSルールを削除できます。

QoSルールを削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [QoS設定]** を選択します。
   [QoS設定] ページが表示されます。

5. **[インターネットアクセスのQoSを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. QoSルール表で、サービス、アプリケーションまたはデバイスをクリックして選択します。
   [削除] ボタンが使用可能になります。
7. **[削除]** ボタンをクリックします。
   QoSルールが削除されます。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

すべてのQoSルールの削除

すべてのカスタムQoSルールとデフォルトのQoSルールを完全に削除できます。

警告
すべてのQoSルールを削除すると、カスタムQoSルールとデフォルトのQoSルールの両方が完全に削除されます。 デフォルトのQoSルールを戻す唯一の方法は、ルーターを工場出荷時の状態に戻すことです。

すべてのQoSルールを削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [QoS設定]** を選択します。
   [QoS設定] ページが表示されます。
5. **[インターネットアクセスのQoSを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。

警告
[すべて削除] ボタンをクリックすると、すべてのデフォルトおよびカスタムQoSルールが完全に削除されます。

6. **[すべて削除]** ボタンをクリックします。
   すべてのQoSルールが完全に削除されます。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

アップリンク帯域幅制御の管理

アップリンク帯域幅制御によって、インターネット接続でサポートできる最大アップリンク帯域幅を確認し、最大アップリンク帯域幅を指定できます。

最大アップリンク帯域幅を指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [QoS設定]** を選択します。
   [QoS設定] ページが表示されます。
5. **[インターネットアクセスのQoSを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. インターネット接続でサポートされるアップリンク帯域幅を確認するには、**[スピードテスト]** ボタンをクリックします。
   速度テストでアップリンク帯域幅が確認され、サポートされているアップリンク帯域幅が表示されます。
7. **[アップリンクの帯域幅 最大]** 欄に、指定するアップリンク帯域幅の最大値を入力します。
8. 関連するメニューから **[Kbps]** または **[Mbps]** を選択します。
9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

Wi-FiマルチメディアのQoSの管理

Wi-FiマルチメディアQoS (WMM QoS) は、無線接続におけるワイヤレス音声およびビデオトラフィックを優先順位付けします。

WMM QoSは、音声、ビデオ、ベストエフォート、バックグラウンドという4種類のアクセスカテゴリに基づき、さまざまなアプリケーションからのワイヤレスデータパケットを優先順位付けします。 WMM QoSを利用するには、アプリケーションとそのアプリケーションを実行しているクライアントの両方でWMMを有効にする必要があります。 WMMに対応していない従来からのアプリケーションやQoSを必要としないアプリケーションは、ベストエフォートカテゴリに分類され、音声やビデオよりも低い優先度が割り当てられます。

WMM QoSは、ルーターで自動的に有効になります。 状況によっては、WMMを無効にすることができます。

WMM QoSを管理します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [QoS設定]** を選択します。
   [QoS設定] ページが表示されます。
5. 次のようにして、WMM QoSを有効または無効にします。
   - 2.4 GHz無線のWMM QoSを無効にするには **[WMM (Wi-Fiマルチメディア) 設定を有効にする (2.4 GHz b/g/n)]** チェックボックスの選択を解除します。
   - 2.4 GHz無線のWMM QoSを有効にするには **[WMM (Wi-Fiマルチメディア) 設定を有効にする (2.4 GHz b/g/n)]** チェックボックスを選択します。
     デフォルトでは、2.4 GHz無線のWMM QoSは有効になっています。
   - 5 GHz無線のWMM QoSを無効にするには **[WMM (Wi-Fiマルチメディア) 設定を有効にする (5GHz a/n)]** チェックボックスの選択を解除します。
   - 5 GHz無線のWMM QoSを有効にするには **[WMM (Wi-Fiマルチメディア) 設定を有効にする (5GHz a/n)]** チェックボックスを選択します。
     デフォルトでは、5 GHz無線のWMM QoSは有効になっています。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

Universal Plug and Playによるネットワーク接続の改善

UPnP (Universal Plug and Play) は、PCや周辺機器、家電製品などの機器を接続するだけでネットワーク上での利用を可能にするための技術です。 UPnP機器は、ネットワーク上のその他の登録済みUPnP機器から自動的にサービスを検出することができます。

マルチプレイヤーゲーム、ピアツーピア接続、またはインスタントメッセージングやリモートアシスタンス (Windowsの機能) といったリアルタイム通信のアプリケーションを使用する場合は、UPnPを有効にしてください。

UPnPを有効にします。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [UPnP]** を選択します。
   [UPnP] ページが表示されます。

5. **[UPnP起動]** チェックボックスを選択します。
   デフォルトではこのチェックボックスは選択されています。 UPnPの自動機器設定を有効、または無効に設定することができます。 **[UPnP起動]** チェックボックスのチェックを外すと、ルーターは他の機器に対し、ルーターのポート転送 (マッピング) などのリソース自動制御を許可しません。

6. 通知間隔 (分) を入力します。
   通知間隔では、ルーターがUPnP情報をブロードキャストする頻度を指定します。 1～1440分の間で設定してください。 デフォルトは30分に設定されています。 間隔を短く設定すると、ネットワークトラフィックは増加しますが、機器の状態を最新に保つことができます。 間隔を長く設定すると、機器の状態の更新間隔は長くなりますが、ネットワークトラフィックを大幅に削減することができます。

7. 通知の有効期限をホップ数で入力します。
   通知の有効期限は各UPnPパケットが送信するホップ(ステップ)数で表します。 ホップ数とは、パケットがルーター間を経由するステップ数です。 ホップ数は1～255の間で設定します。 デフォルトの通知有効期限は4ホップに設定されており、ほとんどのホームネットワークでは問題ありません。 一部の機器が正しくアップデートされていない場合は、この値を上げてみてください。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   UPnPポートマップテーブルには、ルーターにアクセスしているUPnP機器のIPアドレスと機器が開いたポート (内部および外部) が表示されます。 UPnPポートマップテーブルにはどのタイプのポートが開いており、ポートが各IPアドレスに対しアクティブであるかどうかも表示します。

UPnPポートマップテーブルの情報を更新するには、**[更新]** ボタンをクリックします。

基本的なワイヤレスネットワーク設定の管理

5

この章では、ルーターの基本的なワイヤレスネットワーク設定を管理する方法について説明します。

この章には次の内容が含まれます。

- *メインネットワークの基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティの管理*
- *WPSを使ってワイヤレスネットワークにデバイスを追加する*
- *ゲストネットワークの基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティの管理*
- *無線LANの有効化または無効化*

メインネットワークの基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティの管理

ルーターはあらかじめセキュリティが設定されています。 つまり、ネットワーク名(SSID)、ネットワークキー(パスワード)、セキュリティオプションが工場出荷時に設定されています。 セキュリティを高めるため、デフォルトのSSIDとパスワードは、機器ごとに一意です。 デフォルトのSSIDとパスワードは、ルーターのラベルで確認できます。

重要
デフォルトのセキュリティ設定を変更する場合は、新しい設定をメモしておき、簡単に探せる安全な場所に保管してください。

基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティ設定の表示または変更

基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティを表示または変更できます。 ルーターは、802.11b/g/nデバイス用の2.4 GHz帯と802.11a/n/acデバイス用の5 GHz帯を同時にサポートするデュアルバンドの無線LANアクセスポイントです。

ヒント ルーターのメインネットワークの無線LAN設定を変更する場合は、有線接続を使用してください。 これは、新しい無線LAN設定が有効になるときに無線LAN接続が切断されることを避けるためです。

基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティを表示または変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[ワイヤレス]** を選択します。
   [ワイヤレスネットワーク] ページが表示されます。
5. 基本的な無線LAN設定とセキュリティ設定を表示または変更できます。
   次の表に、[ワイヤレスネットワーク] ページの項目を示します。

項目	説明
地域を選択	
地域	ルーターを使用する地域が表示されます。 **注** ドロップダウンリストにリストされている地域以外の地域でルーターを使用することは適法ではない可能性があります。 お住まいの国または地域がリストに含まれていない場合は、地域の代理店までお問い合わせください。
ワイヤレスネットワーク (2.4 GHz b/g/n)	
ネットワーク名 (SSID)	SSIDは、2.4 GHzワイヤレスネットワーク名です。 SSIDを変更していない場合は、デフォルトのSSIDが表示されます。 デフォルトのSSIDは、ルーターのラベルにも印刷されています。 **注** SSIDを変更する場合は、この欄に (最大) 32文字の名前を入力します (大文字と小文字は区別されます)。
チャンネル	**[チャンネル]** ドロップダウンリストから **[自動]** (自動チャンネル選択の場合) を選択するか、個別のチャンネルを選択します。 デフォルトの値は [自動] です。 **注** 一部の地域では、利用できないチャンネルがあります。 干渉 (接続が失われたり、データ転送速度が低下したりする) が発生しない限り、チャンネルを変更しないでください。 このような状況が発生した場合は、別のチャンネルを試してみてください。 **注** 複数のWiFiアクセスポイント (AP) を使用している場合は、近隣のAPに異なるチャンネルを選択することで干渉を緩和してください。 近隣のAPと4チャネル以上間隔を空けることを推奨します (たとえば、チャネル1と5、または6と10を使用してください)。

(続き)

項目	説明
モード	**[モード]** ドロップダウンリストから、次のいずれかのモードを選択します。 • **最大54 Mbps**: 従来型モードです。 このモードでは、802.11n、802.11gおよび802.11bデバイスがネットワークに接続できます。ただし、802.11nデバイスの動作が最大54 Mbpsに制限されます。 • **最大145 Mbps**: 近隣のワイヤレスネットワークとの干渉を低減する、ネイバーフレンドリーなモードです。 このモードでは、802.11n、802.11gおよび802.11bデバイスがネットワークに接続できます。ただし、802.11nデバイスの動作が最大145 Mbpsに制限されます。 • **最大300 Mbps**: ハイパフォーマンスモードです。 このモードでは、802.11n、802.11gおよび802.11bデバイスがネットワークに接続できます。802.11nデバイスは最大300 Mbpsで動作できます。 このモードがデフォルトです。 **注** WPA-PSKセキュリティでサポートされる速度は最大54 Mbpsです。 デバイスがより高速な速度に対応している場合でも、WPA-PSKセキュリティでは速度が54 Mbpsに制限されます。
SSID ブロードキャストを有効にする	デフォルトでは、ルーターは、SSIDをブロードキャストして、スキャンされたネットワークリストに含まれるWiFi名(SSID)をWiFiステーションが検出できるようにします。SSIDブロードキャストをオフにするには、**[SSIDブロードキャストを有効にする]**チェックボックスのチェックを外します。 SSIDブロードキャストをオフにすることで追加の無線LANセキュリティが提供されますが、ユーザーがルーターのワイヤレスネットワークに接続するにはSSIDを知っている必要があります。
20/40 MHzの共存を有効にする	デフォルトでは、無線LAN速度が遅くなる代わりに20/40MHzの共存を有効にして、環境内の無線LANネットワーク間で干渉が発生しないようにしています。 環境内に他の無線LANネットワークが存在しない場合は、**[20/40 MHzの共存を有効にする]** チェックボックスのチェックを外すことにより、サポートされている最高速度で無線LANを動作させることができます。

(続き)

項目	説明
セキュリティオプション この情報は、2.4 GHzワイヤレスネットワークに適用されます。	
無線LANセキュリティを変更する場合は、ルーターのワイヤレスネットワークに対する次のいずれかの無線LANセキュリティオプションを選択します。 • **なし**: データは暗号化されません。 すべての無線LAN子機が無線LANネットワークに接続できます。 オープンなワイヤレスネットワークを使用しないことを推奨します。 • **WEP**: WEP (Wired Equivalent Privacy) セキュリティは従来の認証およびデータ暗号化モードであり、その後継となるのがWPA-PSKおよびWPA2-PSKです。 [WEP] オプションは、**[モード]** ドロップダウンリストで **[最大54 Mbps]** を選択した場合にのみ表示されます。 • **WPA2-PSK [AES]**: これはデフォルトの設定です。 このタイプのセキュリティでは、WPA2をサポートする無線LAN子機が、ルーターの2.4 GHzワイヤレスネットワークに接続できます。 パスフレーズを変更していない場合は、デフォルトのパスフレーズが表示されます。 デフォルトのパスフレーズは、ルーターのラベルに印刷されています。 WPA2は安全な接続を提供しますが、古いWiFiデバイスの中にはWPA2を検出できずWPAのみをサポートするものがあります。 ネットワークにこのような古い機器が含まれている場合は、[WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]] セキュリティを選択してください。 パスフレーズを変更する場合は、**[パスフレーズ]** 欄に8～63文字のフレーズを入力します。 ユーザーがルーターのワイヤレスネットワークに接続するには、このパスフレーズを入力する必要があります。 • **WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]**: このタイプのセキュリティでは、WPAまたはWPA2をサポートする無線LAN子機が、ルーターの2.4 GHzワイヤレスネットワークに接続できます。 ただし、WPA-PSK [TKIP] はWPA2-PSK [AES] よりも安全性が低く、WiFiデバイスの速度が54 Mbpsに制限されます。 このタイプのセキュリティを使用するには、**[パスフレーズ]** 欄に8～63文字のフレーズを入力します。 ユーザーがルーターのワイヤレスネットワークに接続するには、このパスフレーズを入力する必要があります。 • **WPA/WPA2エンタープライズ**: このタイプのセキュリティでは、ワイヤレスネットワークがRADIUSサーバーにアクセスできる必要があります。	
ワイヤレスネットワーク (5 GHz a/n/ac)	
ネットワーク名 (SSID)	SSIDは、5 GHz WiFi周波数名です。 SSIDを変更していない場合は、デフォルトのSSIDが表示されます。 デフォルトのSSIDは、ルーターのラベルにも印刷されています。 **注** SSIDを変更する場合は、この欄に (最大) 32文字の名前を入力します (大文字と小文字は区別されます)。

(続き)

項目	説明
チャンネル	**[チャンネル]** ドロップダウンリストから、5 GHz SSIDの個別のチャンネルを選択します。 デフォルトのチャンネルは、**[地域]** ドロップダウンリストで選択した項目に応じて異なります。 **注** 一部の地域では、利用できないチャンネルがあります。 干渉 (接続が失われたり、データ転送速度が低下したりする) が発生しない限り、チャンネルを変更しないでください。 このような状況が発生した場合は、別のチャンネルを試してみてください。 **注** 複数のWiFiアクセスポイント (AP) を使用している場合は、近隣のAPに異なるチャンネルを選択することで干渉を緩和してください。 近隣のAPとのチャンネル間隔を4チャンネルにすることを推奨します。
モード	適切な **[モード]** ドロップダウンリストから、5 GHz SSIDの次のいずれかのモードを選択します。 R6350: • **最大400 Mbps**: 従来型モードです。 このモードでは、802.11ac、802.11nおよび802.11aデバイスがネットワークの5 GHz帯の選択された無線LANネットワークに接続できます。ただし、802.11acデバイスと802.11nデバイスの動作が最大400 Mbpsに制限されます。 • **最大800 Mbps**: 近隣のワイヤレスネットワークとの干渉を低減する、ネイバーフレンドリーなモードです。 このモードでは、802.11ac、802.11nおよび802.11aデバイスがネットワークの5GHz帯の選択された無線LANネットワークに接続できます。ただし、802.11acデバイスの動作が最大800 Mbpsに制限されます。 • **最大1450 Mbps**: ハイパフォーマンスモードです。 このモードでは、802.11ac、802.11nおよび802.11aデバイスがネットワークの5 GHz帯の選択された無線LANネットワークに接続できます。802.11acデバイスは最大1450 Mbpsで動作できます。 このモードがデフォルトです。 R6850: • **最大400 Mbps**: 従来型モードです。 このモードでは、802.11ac、802.11nおよび802.11aデバイスがネットワークの5 GHz帯の選択された無線LANネットワークに接続できます。ただし、802.11acデバイスと802.11nデバイスの動作が最大400 Mbpsに制限されます。 • **最大800 Mbps**: 近隣のワイヤレスネットワークとの干渉を低減する、ネイバーフレンドリーなモードです。このモードでは、802.11ac、802.11nおよび802.11aデバイスがネットワークの5GHz帯の選択された無線LANネットワークに接続できます。ただ、802.11acデバイスの動作が最大800 Mbpsに制限されます。 • **最大1733 Mbps**: ハイパフォーマンスモードです。 このモードでは、802.11ac、802.11nおよび802.11aデバイスがネットワークの5 GHz帯の選択された無線LANネットワークに接続できます。802.11acデバイスは最大1733 Mbpsで動作できます。このモードがデフォルトです。

(続き)

項目	説明
SSID ブロードキャストを有効にする	デフォルトでは、5 GHz帯のSSIDの場合、ルーターはSSIDをブロードキャストして、スキャンされたネットワークリストに含まれるWiFi名 (SSID) をWiFiステーションが検出できるようにします。 SSIDブロードキャストをオフにするには、**[SSIDブロードキャストを有効にする]** チェックボックスのチェックを外します。 SSIDブロードキャストをオフにすることで追加の無線LANセキュリティが提供されますが、ユーザーがルーターのワイヤレスネットワークに接続するにはSSIDを知っている必要があります。
セキュリティオプション この情報は、5 GHzワイヤレスネットワークに適用されます。	
無線LANセキュリティを変更する場合は、ルーターのワイヤレスネットワークに対する次のいずれかの無線LANセキュリティオプションを選択します。 • **なし**: データは暗号化されません。 すべてのWiFiデバイスが、ワイヤレスネットワークの5 GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに接続できます。 オープンなワイヤレスネットワークを使用しないことを推奨します。 • **WPA2-PSK [AES]**: これはデフォルトの設定です。 このタイプのセキュリティでは、WPA2をサポートする無線LAN子機が、ワイヤレスネットワークの5 GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに接続できます。 パスフレーズを変更していない場合は、デフォルトのパスフレーズが表示されます。 デフォルトのパスフレーズは、ルーターのラベルに印刷されています。 WPA2は安全な接続を提供しますが、古いWiFiデバイスの中にはWPA2を検出できずWPAのみをサポートするものがあります。 ネットワークにこのような古い機器が含まれている場合は、[WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]] セキュリティを選択してください。 パスフレーズを変更する場合は、**[パスフレーズ]** 欄に8〜63文字のフレーズを入力します。 ユーザーがワイヤレスネットワークの5GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに接続するには、このパスフレーズを入力する必要があります。 • **WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]**: このタイプのセキュリティでは、WPAまたはWPA2をサポートする無線LAN子機が、ワイヤレスネットワークの5 GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに接続できます。 ただし、WPA-PSK [TKIP] はWPA2-PSK [AES] よりも安全性が低く、WiFiデバイスの速度が54 Mbpsに制限されます。 このタイプのセキュリティを使用するには、**[パスフレーズ]** 欄に8〜63文字のフレーズを入力します。 ユーザーがワイヤレスネットワークの5GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに接続するには、このパスフレーズを入力する必要があります。 • **WPA/WPA2エンタープライズ**: このタイプのセキュリティでは、ワイヤレスネットワークがRADIUSサーバーにアクセスできる必要があります。	

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

   ネットワークに無線で接続していてSSIDを変更した場合は、ネットワークから切断されます。

7. ネットワークに新しい設定で再び無線接続できることを確認します。
   無線接続できない場合は、次の点を確認してください。
   - PCまたはモバイルデバイスがエリア内の別のワイヤレスネットワークに接続している場合は、そのワイヤレスネットワークとの接続を切った後、ルーターが提供するワイヤレスネットワークに接続します。 一部の無線LAN子機は、最初に検出されたネットワークに自動的に接続します。
   - PCまたはモバイルデバイスが (設定を変更する前の) 古い設定でネットワークに接続しようとしている場合は、ネットワークの現在の設定に合わせてPCまたはモバイルデバイスでワイヤレスネットワークの選択を更新します。

- PCまたはモバイルデバイスが接続デバイスとして表示されていますか? (*ネットワーク上にある機器の表示*（130ページ）を参照してください。)表示されていない場合、ネットワークに接続されていないことを意味します。
- 正しいネットワーク名 (SSID) とパスワードを使用していますか?

WEPレガシー無線LANセキュリティの設定

WEP (Wired Equivalent Privacy) セキュリティは従来の認証およびデータ暗号化モードであり、その後継となるのがWPA-PSKおよびWPA2-PSKです。 WEPでは、無線LANの転送速度が54 Mbpsに制限されます。

ヒント ルーターのメインネットワークの無線LAN設定を変更する場合は、有線接続を使用してください。これは、新しい無線LAN設定が有効になるときに無線LAN接続が切断されることを避けるためです。

WEPセキュリティを設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[ワイヤレス]** を選択します。
   [ワイヤレスネットワーク] ページが表示されます。

   注 ゲストネットワークを設定する場合は、**[ゲストネットワーク]** を選択してください。

5. **[モード]** ドロップダウンリストから、**[最大54 Mbps]** を選択します。
   ページの表示が変更され、**[WEP]** ラジオボタンが表示されます。

   注 ゲストネットワークでWEPセキュリティを設定する場合は、メインネットワークの [モード] を [最大54Mbps] に設定することでゲストネットワークにも [WEP] ラジオボタンが表示されます。

6. [セキュリティオプション] セクションで、**[WEP]** ラジオボタンを選択します。
7. **[認証タイプ]** ドロップダウンリストから、次のいずれかのタイプを選択します。
   - **自動**: クライアントは、オープンシステム認証または共有キー認証のいずれかを使用できます。
   - **共有キー**: クライアントは、共有キー認証のみを使用できます。
8. **[暗号化の強度]** ドロップダウンリストから、暗号化キーのサイズを選択します。

- **64-bit**: 40/64ビット暗号化を使用した標準のWEP暗号化です。
- **128-bit**: 104/128ビット暗号化を使用した標準のWEP暗号化です。 これを選択すると、暗号化セキュリティがより強力になります。

9. **[キー1]**、**[キー2]**、**[キー3]** または **[キー4]** ラジオボタンを選択して、アクティブなキーを指定します。

   アクティブなキーに設定できるキーは1つだけです。 ルーターのワイヤレスネットワークに接続するために、ユーザーは、アクティブなキーとして指定したキーのキー値を入力する必要があります。

10. キーの値を入力します。
    - 64ビットWEPの場合、10桁の16進法数値を入力します (0～9、A～Fの組み合わせ)。 キー値の大文字と小文字は区別されません。
    - 128ビットWEPの場合、26桁の16進法数値を入力します (0～9、A～Fの組み合わせ)。 キー値の大文字と小文字は区別されません。

11. **[適用]** ボタンをクリックします。

    設定が保存されます。

12. ネットワークに新しいセキュリティ設定で再び無線接続できることを確認します。

    無線接続できない場合は、次の点を確認してください。
    - PCまたはモバイルデバイスがエリア内の別のワイヤレスネットワークに接続している場合は、そのワイヤレスネットワークとの接続を切った後、ルーターが提供するワイヤレスネットワークに接続します。 一部の無線LAN子機は、最初に検出されたネットワークに自動的に接続します。
    - PCまたはモバイルデバイスが (設定を変更する前の) 古い設定でネットワークに接続しようとしている場合は、ネットワークの現在の設定に合わせてPCまたはモバイルデバイスでワイヤレスネットワークの選択を更新します。
    - PCまたはモバイルデバイスが接続デバイスとして表示されていますか? (*ネットワーク上にある機器の表示*（130ページ）を参照してください。)表示されていない場合、ネットワークに接続されていないことを意味します。
    - 正しいワイヤレスネットワーク名 (SSID) とパスワードを使用していますか?

WPA/WPA2エンタープライズ無線LANセキュリティの設定

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Service) は、一元的なAAA (Authentication, Authorization, and Accounting) 管理を実現するエンタープライズレベルの方法です。 ルーターがWPAおよびWPA2エンタープライズ無線LANセキュリティを提供するためには、ルーターが提供する無線LANネットワークがRADIUSサーバーにアクセスできる必要があります。

ヒント ルーターのメインネットワークの無線LAN設定を変更する場合は、有線接続を使用してください。これは、新しい無線LAN設定が有効になるときに無線LAN接続が切断されることを避けるためです。

WPAおよびWPA2エンタープライズセキュリティを設定します。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。

   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[ワイヤレス]** を選択します。
   [ワイヤレスネットワーク] ページが表示されます。

注 ゲストネットワークを設定する場合は、**[ゲストネットワーク]** を選択してください。

---

5. [ワイヤレスネットワーク (2.4 GHz b/g/n)] セクションまたは [ワイヤレスネットワーク (5 GHz a/n/ac)] セクションの下の [セキュリティオプション] セクションで、**[WPA/WPA2エンタープライズ]** ラジオボタンを選択します。
6. [WPA/WPA2エンタープライズ] セクションで、次の表の説明に従って設定を入力します。

項目	説明
暗号化モード	**[暗号化モード]** メニューから、エンタープライズモードを選択します。 • **WPA [TKIP] +WPA2 [AES]**: このタイプのセキュリティでは、WPAまたはWPA2をサポートする無線LAN子機が、ルーターのワイヤレスネットワークに接続できます。 デフォルトのモードです。 • **WPA2 [AES]**: WPA2は安全な接続を提供しますが、古いWiFiデバイスの中にはWPA2を検出できずWPAのみをサポートするものがあります。 ネットワークにこのような古いデバイスが含まれている場合は、[WPA [TKIP] + WPA2 [AES]] セキュリティを選択してください。
グループキー更新間隔	RADIUSグループキーを更新する間隔を秒単位で入力します。 デフォルトの間隔は3600秒です。
RADIUSサーバーIPアドレス	無線LANネットワークが接続できるRADIUSサーバーのIPv4アドレスを入力します。
RADIUSサーバーポート	認証のためにRADIUSサーバーにアクセスするときに使用するルーターのポート番号を入力します。 デフォルトのポート番号は1812です。
RADIUSサーバー共有秘密キー	無線LANユーザーの認証時にルーターとRADIUSサーバーとの間で使用される共有シークレット (RADIUSパスワード) を入力します。

7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

8. ネットワークに新しいセキュリティ設定で再び無線接続できることを確認します。
   無線接続できない場合は、次の点を確認してください。
   - PCまたはモバイルデバイスがエリア内の別のワイヤレスネットワークに接続している場合は、そのワイヤレスネットワークとの接続を切った後、ルーターが提供するワイヤレスネットワークに接続します。 一部のモバイルデバイスは、最初に検出された、無線LANセキュリティのないオープンネットワークに自動的に接続します。

- PCまたはモバイルデバイスが (設定を変更する前の) 古い設定でネットワークに接続しようとしている場合は、ネットワークの現在の設定に合わせてPCまたはモバイルデバイスでワイヤレスネットワークの選択を更新します。
- PCまたはモバイルデバイスが接続デバイスとして表示されていますか? (*ネットワーク上にある機器の表示*（130ページ）を参照してください。)表示されていない場合、ネットワークに接続されていないことを意味します。
- 正しいネットワーク名 (SSID) とパスワードを使用していますか?

WPSを使ってワイヤレスネットワークにデバイスを追加する

WPS (Wi-Fi Protected Setup) を使用すると、ワイヤレスネットワークのネットワークキーやパスワードを入力しなくても、PCやモバイルデバイスなどの無線LAN子機をルーターのネットワークに接続することができます。 代わりに**WPS**ボタンを使うかPINを入力して接続します。

プッシュボタン方式を使用する場合は、接続しようとするPCまたはデバイスが物理的なボタンまたはソフトウェアボタンを備えている必要があります。 PIN方式を使用する場合は、接続しようとするPCまたはデバイスのPINを知っておく必要があります。

WPSは、WPAおよびWPA2無線LANセキュリティに対応しています。 ルーターネットワークがオープンな場合 (ルーターのデフォルト設定ではない、無線LANセキュリティが設定されていない状態)、WPSを使用して接続するとルーターネットワークにWPAとWPA2の無線LANセキュリティが自動的に設定され、ランダムなパスフレーズが生成されます。 このパスフレーズは表示できます (*メインネットワークの基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティの管理*（49ページ）を参照してください)。

プッシュボタン方式

プッシュボタン方式を使用して無線LAN子機をルーターのワイヤレスネットワークに接続するには、接続しようとする無線LAN子機に物理的なボタンまたはソフトウェアボタンがある必要があります。 物理的なボタンまたはソフトウェアボタンを使用して、無線LAN子機を、ゲストのワイヤレスネットワークではなくメインのワイヤレスネットワークにのみ参加させることができます。

プッシュボタン方式を使用して、無線LAN子機をルーターのワイヤレスネットワークに接続します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [WPSウィザード]** を選択します。
   ページにWPSについての説明が表示されます。
5. **[次へ]** ボタンをクリックします。
   デフォルトで **[プッシュボタン (推奨)]** ラジオボタンが選択されています。
6. 画面上の ボタンをクリックするか、ルーターの右側のパネルにある**WPS**ボタンを押します。

2分の間に、ルーターは無線LAN子機の検出を試みます。

この間、ルーターの天面の無線LAN LEDが点滅します。

7. 2分以内に、無線LAN子機の**WPS**ボタンを押します。これでパスワードを入力せずに、ルーターのワイヤレスネットワークに接続します。
   ルーターがWPS接続を確立すると、無線LAN LEDが点灯し、[WPSクライアントを追加] ページに確認メッセージが表示されます。

8. 無線LAN子機がルーターのメインワイヤレスネットワークに接続していることを確認するには、**[基本] > [接続デバイス]** の順に選択します。
   無線LAN子機が画面に表示されます。

PIN方式

PIN方式を使用して無線LAN子機をルーターのワイヤレスネットワークに接続するには、接続しようとしている無線LAN子機のPINを知っておく必要があります。

PIN方式を使用して、無線LAN子機をルーターのワイヤレスネットワークに接続します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [WPSウィザード]** を選択します。
   ページにWPSについての説明が表示されます。

5. **[次へ]** ボタンをクリックします。
   [WPSクライアントを追加] ページの表示が変更されます。

   デフォルトで **[プッシュボタン (推奨)]** ラジオボタンが選択されています。

6. **[PIN番号]** ラジオボタンを選択します。
7. **[クライアントのPINを入力]** 欄に、無線LANデバイスのPIN番号を入力します。
8. **[次へ]** ボタンをクリックします。
   4分の間に、ルーターは無線LAN子機の検出を試みます。

   この間、ルーターの天面の無線LAN LEDが点滅します。

9. 4分以内に、無線LAN子機のWPSソフトウェアを使用して、ネットワークに接続します。
   ルーターがWPS接続を確立すると、無線LAN LEDが点灯し、[WPSクライアントを追加] ページに確認メッセージが表示されます。

10. 無線LAN子機がルーターのメインワイヤレスネットワークに接続していることを確認するには、**[基本] > [接続デバイス]** の順に選択します。

無線LAN子機が画面に表示されます。

ゲストネットワークの基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティの管理

ゲストネットワークでは、訪問者はパスワードを使用せずに、または別のパスワードを使用して、インターネットを使用できます。 デフォルトでは、ゲストネットワークは無効になっています。 WiFi周波数ごとにゲストネットワークを有効にして設定することができます。 ルーターでは、802.11n、802.11gおよび802.11bデバイスの場合は2.4 GHz帯、802.11ac、802.11n、および802.11aデバイスの場合は5 GHz帯を同時にサポートします。

ゲストネットワークのWiFiモードは、メインネットワークのWiFiモードに依存します。 たとえば、メインネットワークのWiFiモードを2.4 GHz帯で最大54 Mbpsに設定した場合、ゲストネットワークも2.4 GHz帯で最大54 Mbpsモードで動作します。 WiFiモードの設定については、*基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティ設定の表示または変更*（49ページ）を参照してください。 同様に、チャンネルもメインネットワークに対して選択したチャンネルに依存します。

ルーターは、次の名前 (SSID) を持つ2つのデフォルトゲストネットワークを提供します。

- **2.4 GHz帯**: NETGEAR_Guest
- **5 GHz帯**: NETGEAR-5G_Guest

デフォルトでは、これらのネットワークは、セキュリティで保護されていないオープンネットワークとして設定されていますが、無効になっています。 一方または両方のネットワークを有効にすることができます。 これらのネットワークのSSIDを変更することもできます。

ゲストネットワークを設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[ゲストネットワーク]** を選択します。
5. ゲストネットワークを有効にし、次の表の説明に従って無線LAN設定を入力します。

項目	説明
ワイヤレスネットワーク (2.4 GHz b/g/n)	
ネットワーク名 (SSID)	SSIDは、2.4 GHz WiFi周波数名です。 SSIDを変更していない場合は、デフォルトのSSID (NETGEAR_Guest) が表示されます。 ゲストネットワークの2.4GHz帯のSSIDを変更するには、この欄に名前を最大32文字で入力します (大文字と小文字は区別されます)。

(続き)

項目	説明
ゲストネットワークを有効にする	デフォルトでは、ゲストネットワークは無効になっています。 2.4 GHz WiFi周波数のゲストネットワークを有効にするには、**[ゲストネットワークを有効にする]** チェックボックスを選択します。
SSID ブロードキャストを有効にする	デフォルトでは、ルーターは、2.4 GHz WiFi周波数のSSIDをブロードキャストします。ゲストネットワークの2.4 GHz WiFi周波数のSSIDブロードキャストをオフにするには、**[SSIDブロードキャストを有効にする]** チェックボックスのチェックを外します。
ゲストが相互に表示され、ローカルネットワークにアクセスすることを許可	デフォルトでは、ゲストネットワークの2.4 GHz WiFi周波数に接続されている無線LAN子機は、メインネットワークに接続されている無線LAN子機または有線デバイスにアクセスできません。 メインネットワークへのアクセスを許可するには、**[ゲストが相互に表示され、ローカルネットワークにアクセスすることを許可]** チェックボックスを選択します。
セキュリティオプション	
無線LANセキュリティを変更する場合は、2.4 GHz帯のゲストワイヤレスネットワークに対する次のいずれかの無線LANセキュリティオプションを選択します。 • **なし**: データは暗号化されません。 すべてのWiFiデバイスが、ゲストワイヤレスネットワークの2.4 GHz帯に接続できます。 これは、ゲストネットワークのデフォルト設定です。 • **WEP**: WEP (Wired Equivalent Privacy) セキュリティは従来の認証およびデータ暗号化モードであり、その後継となるのがWPA-PSKおよびWPA2-PSKです。 **[WEP]** オプションは、メインネットワークのWiFiモードを2.4 GHz帯で最大54 Mbpsに設定した場合にのみ表示されます (*基本的な無線LAN設定と無線LANセキュリティ設定の表示または変更*（49ページ）を参照してください)。 • **WPA2-PSK [AES]**: WPA2は安全な高速接続を提供しますが、古いWiFiデバイスの中にはWPA2を検出できずWPAのみをサポートするものがあります。 802.11nデバイスがゲストネットワークの2.4 GHz帯に最高速度で接続できるようにするには、[WPA2-PSK [AES]] セキュリティを選択します。 ネットワークにWPA2をサポートしていない古いデバイスが含まれている場合は、[WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]] セキュリティを選択してください。 WPA2セキュリティを使用するには、**[パスフレーズ]** 欄に8〜63文字のフレーズを入力します。 ユーザーがゲストワイヤレスネットワークの2.4 GHz帯に接続するには、このパスフレーズを入力する必要があります。 • **WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]**: このタイプのセキュリティでは、WPAまたはWPA2をサポートする無線LAN子機が、ゲストネットワークの2.4 GHz帯に接続できます。 ただし、WPA-PSK [TKIP] はWPA2-PSK [AES] よりも安全性が低く、WiFiデバイスの速度が54 Mbpsに制限されます。 WPA + WPA2セキュリティを使用するには、**[パスフレーズ]** 欄に8〜63文字のフレーズを入力します。 ユーザーがゲストワイヤレスネットワークの2.4 GHz帯に接続するには、このパスフレーズを入力する必要があります。	
パスフレーズ	ユーザーが2.4 GHz帯のゲストネットワークにアクセスできるようにするためのパスフレーズです。 パスフレーズは、パスワードまたはキーとも呼ばれます。
ワイヤレスネットワーク (5 GHz a/n/ac)	
ネットワーク名 (SSID)	SSIDは、5 GHz WiFi周波数名です。 SSIDを変更していない場合は、デフォルトのSSID (NETGEAR-5G_Guest) が表示されます。 ゲストネットワークの5 GHz帯のSSIDを変更するには、この欄に名前を最大32文字で入力します (大文字と小文字は区別されます)。

(続き)

項目	説明
ゲストネットワークを有効にする	デフォルトでは、ゲストネットワークは無効になっています。 5 GHz帯のSSIDのゲストネットワークを有効にするには、**[ゲストネットワークを有効にする]** チェックボックスを選択します。
SSID ブロードキャストを有効にする	デフォルトでは、5 GHz帯のSSIDの場合、ルーターはSSIDをブロードキャストして、スキャンされたネットワークリストに含まれるWiFi名 (SSID) をWiFiステーションが検出できるようにします。 ゲストネットワークの5 GHz WiFi周波数のSSIDブロードキャストをオフにするには、適切な **[SSIDブロードキャストを有効にする]** チェックボックスのチェックを外します。
ゲストが相互に表示され、ローカルネットワークにアクセスすることを許可	デフォルトでは、ゲストネットワークの5GHz帯のSSIDに接続されているWiFiクライアントは、メインネットワークに接続されているWiFiデバイスまたは有線デバイスにアクセスできません。 メインワイヤレスネットワークへのアクセスを許可するには、適切な **[ゲストが相互に表示され、ローカルネットワークにアクセスすることを許可]** チェックボックスを選択します。
セキュリティオプション	
5GHz帯のSSIDの無線LANセキュリティを変更する場合は、ゲストネットワークのSSIDに対する次のいずれかの無線LANセキュリティオプションを選択します。 • **なし**: データは暗号化されません。 すべてのWiFiデバイスが、ゲストネットワークの5 GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに接続できます。 これは、ゲストネットワークのデフォルト設定です。 • **WPA2-PSK [AES]**: WPA2は安全な高速接続を提供しますが、古いWiFiデバイスの中にはWPA2を検出できずWPAのみをサポートするものがあります。 802.11acデバイスと802.11nデバイスがゲストネットワークの5GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに最高速度で接続できるようにするには、[WPA2-PSK [AES]] セキュリティを選択します。 ネットワークにWPA2をサポートしていない古いデバイスが含まれている場合は、[WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]] セキュリティを選択してください。 WPA2セキュリティを使用するには、**[パスフレーズ]** 欄に8〜63文字のフレーズを入力します。 ユーザーがゲストネットワークの5GHz帯のワイヤレスネットワークに接続するには、このパスフレーズを入力する必要があります。 • **WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]**: このタイプのセキュリティでは、WPAまたはWPA2をサポートする無線LAN子機が、ゲストネットワークの5GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに接続できます。 ただし、WPA-PSK [TKIP] はWPA2-PSK [AES] よりも安全性が低く、WiFiデバイスの速度が54 Mbpsに制限されます。 WPA + WPA2セキュリティを使用するには、**[パスフレーズ]** 欄に8〜63文字のフレーズを入力します。 ユーザーがゲストネットワークの5 GHz帯に接続するには、このパスフレーズを入力する必要があります。	
パスフレーズ	ユーザーがゲストネットワークの5GHz帯の選択されたワイヤレスネットワークに接続できるようにするためのパスフレーズです。 パスフレーズは、*パスワード*または*キー*とも呼ばれます。

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

7. ゲストネットワークに再び無線接続できることを確認します。
   無線接続できない場合は、次の点を確認してください。

- PCまたはモバイルデバイスがエリア内の別のワイヤレスネットワークに接続している場合は、そのワイヤレスネットワークとの接続を切った後、ルーターが提供するワイヤレスネットワークに接続します。 一部の無線LAN子機は、最初に検出されたネットワークに自動的に接続します。
- PCまたはモバイルデバイスが接続デバイスとして表示されていますか? (*ネットワーク上にある機器の表示*（130ページ）を参照してください。)表示されていない場合、ネットワークに接続されていないことを意味します。
- 正しいネットワーク名 (SSID) とパスワードを使用していますか?

無線LANの有効化または無効化

無線LANを有効化または無効化します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択します。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
5. [ワイヤレスネットワーク (2.4 GHz b/g/n)] セクション、[ワイヤレスネットワーク (5 GHz a/n/ac)] セクション、またはその両方のセクションで、以下のいずれかを実行します。
   - **無線機能をオフにします**: **[ワイヤレスルーターの無線を有効にする]** チェックボックスのチェックを外します。
     無線LAN LEDが消灯します。
   - **無線機能をオンにします**: **[ワイヤレスルーターの無線を有効にする]** チェックボックスを選択します。
     無線LAN LEDが点灯します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

インターネットアクセスの管理

6

インターネットからの望ましくない侵入からホームネットワークを保護するようにルーターを設定することができます。

この章には次の内容が含まれます。

- *ペアレンタルコントロールの設定*
- *ネットワークへのアクセスの許可または禁止*
- *キーワードを使用したインターネットサイトのブロック*
- *サービスおよびアプリケーションのシンプルな送信ファイアウォールルールの管理*
- *キーワードに基づくブロックと送信ファイアウォールルールのスケジュールの設定*
- *セキュリティイベントのメール通知の設定*

ペアレンタルコントロールの設定

ペアレンタルコントロールを設定するには、モバイルデバイスにNETGEARgenieアプリをダウンロードする必要があります。 NETGEARgenieアプリの詳細については、*NETGEAR.com/genie*にアクセスしてください。

ペアレンタルコントロールを設定して有効にした後は、デスクトップNETGEARgenieアプリのネットワークマップのページからネットワーク上の各デバイスのウェブフィルタリングレベルを変更することができます。

ペアレンタルコントロールを設定します。

1. モバイルデバイスをルーターの無線LANネットワークに接続します。
2. モバイルデバイスでApp StoreまたはGoogle Playを起動して、NETGEARgenieアプリをダウンロードします。
3. NETGEAR genieアプリを起動します。
   ダッシュボードが表示されます。
4. **[ペアレンタルコントロール]** をタップします。
   [ペアレンタルコントロール] ページが表示されます。
5. OpenDNSアカウントにログインするには、**[ログイン]** ボタンをタップしてOpenDNSユーザー名を入力してから **[ログイン]** ボタンをタップします。
   ペアレンタルコントロールが自動的に有効になります。
6. OpenDNSアカウントを作成するには、**[アカウント作成]** をタップして各欄に値を入力し、**[サインアップ]** ボタンをタップします。
   アカウントが作成され、ペアレンタルコントロールが自動的に有効になります。
   NETGEAR genieアプリを使用してペアレンタルコントロールを設定する方法の詳細については、*downloadcenter.netgear.com/*から入手できる*genieモバイルアプリのユーザーマニュアル*を参照してください。

ネットワークへのアクセスの許可または禁止

アクセス制御を使用して、ネットワークへのアクセスを禁止または許可することができます。

アクセス制御を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セキュリティ] > [アクセス制御]** を選択します。
   [アクセス制御] ページが表示されます。

5. **[アクセス制御を有効にする]** チェックボックスを選択します。

   アクセスルールを指定して**[許可]** ボタンと**[禁止]** ボタンを使用するには、このチェックボックスを選択する必要があります。このチェックボックスのチェックを外すと、デバイスが禁止リストに含まれていても、すべてのデバイスに接続が許可されます。

6. アクセスルールを選択します。

   - **すべての新しいデバイスに接続を許可**: この設定では、新しく追加したデバイスはお使いのネットワークにアクセスできます。 機器のMACアドレスをこのページに入力する必要はありません。 このラジオボタンは選択されたままにすることを推奨します。
   - **すべての新しいデバイスの接続を禁止**: この設定では、新しいデバイスを追加した場合、そのデバイスからお使いのネットワークにアクセスするには、有線接続と無線接続のデバイスのMACアドレスを許可リストに入力する必要があります。

   アクセスルールは、以前に禁止または許可されたデバイスには影響しません。アクセスルールは、これらの設定の適用後に、ネットワークに接続するデバイスにのみ適用されます。

7. 接続されていない、許可または禁止されている機器を表示するには、以下のいずれかのリンクをクリックします。

   - **現在ネットワークに接続されていない、許可されたデバイスのリストを表示する**
   - **現在ネットワークに接続されていない、ブロックされたデバイスのリストを表示する**

   リストが表示されます。

8. 現在使用しているWiFi対応PCやモバイルデバイスのネットワークアクセスを引き続き許可するには、該当するPCや機器の横にあるチェックボックスを選択し、**[許可]** ボタンをクリックします。

9. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ネットワークアクセス制御の有効化と管理

アクセス制御を有効にする場合は、新しいデバイスによるネットワークへのアクセスを許可するか、またはブロックするかを選択する必要があります。 デフォルトでは、現在接続されているデバイスはネットワークへのアクセスが許可されます。ただし、これらのデバイスがネットワークにアクセスするのをブロックすることもできます。

ネットワークアクセス制御を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セキュリティ] > [アクセス制御]** を選択します。
   [アクセス制御] ページが表示されます。
5. **[アクセス制御を有効にする]** チェックボックスを選択します。
   アクセスルールを指定して**[許可]** ボタンと**[禁止]** ボタンを使用するには、このチェックボックスを選択する必要があります。 **[アクセス制御を有効にする]** チェックボックスの選択を解除すると、デバイスがブロックされたデバイスのリストに含まれていても、すべてのデバイスに接続が許可されます。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。
7. 新しい機器のアクセスルールを選択します。
   - **すべての新しいデバイスに接続を許可**: この設定では、新しく追加したデバイスはお使いのネットワークにアクセスできます。 機器のMACアドレスをこのページに入力する必要はありません。 このラジオボタンは選択されたままにすることを推奨します。
   - **すべての新しいデバイスの接続を禁止**: この設定では、新しいデバイスを追加した場合、そのデバイスからお使いのネットワークにアクセスするには、有線接続と無線接続のデバイスのMACアドレスを許可リストに入力する必要があります。 詳細については、*ネットワークのアクセス制御リストの管理*（68ページ）を参照してください。

   アクセスルールは、以前に禁止または許可されたデバイスには影響しません。 アクセスルールは、これらの設定の適用後に、ネットワークに接続するデバイスにのみ適用されます。
8. 現在接続されているPCやデバイスのアクセスを管理するには、次の操作を実行します。
   - すべての新しいデバイスの接続をブロックした場合、現在使用しているPCまたはデバイスのネットワークアクセスを引き続き許可するには、表内の該当するPCまたはデバイスの横にあるチェックボックスを選択し、**[許可]** ボタンをクリックします。
   - 現在接続されている他のPCやデバイスを引き続き許可またはブロックするには、表内の該当するPCまたはデバイスの横にあるチェックボックスを選択し、**[許可]** ボタンまたは **[禁止]** ボタンをクリックします。
9. **[適用]** ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

ネットワークのアクセス制御リストの管理

アクセス制御を使用して、ネットワークへのアクセスを禁止または許可することができます。アクセス制御リスト (ACL) は、ネットワーク全体へのアクセスが許可またはブロックされた有線デバイスと無線LANデバイスのMACアドレスに対して動作します。

ルーターは、ネットワークに接続されているデバイスのMACアドレスを検出し、ネットワークに接続されていたデバイスのMACアドレスを一覧表示することができます。

ネットワークデバイスはそれぞれMACアドレスを持っています。これは、16進文字0～9、a～f、A～F (大文字または小文字) のみを含む12文字の一意な物理アドレスで、各文字はコロンで区切られています (00:09:AB:CD:EF:01など)。 通常、MACアドレスは、WiFiカードまたはネットワークインターフェイス機器のラベルに記載されています。 このラベルを確認できない場合は、PCのネットワーク設定ユーティリティを使ってMACアドレスを表示できます。 また、ルーターのWebページでMACアドレスを探すこともできます (*ネットワーク上にある機器の表示*（130ページ）を参照)。

許可リストへの機器の追加または許可リストからの機器の削除

すべての新しいデバイスのネットワークへのアクセスをブロックするアクセスリストを設定する場合は、ネットワークへのアクセスを許可するデバイスを指定する必要があります。

許可する機器を追加または削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セキュリティ] > [アクセス制御]** を選択します。
   リストが表示されます。
5. **[現在ネットワークに接続されていない、許可されたデバイスのリストを表示する]** リンクをクリックします。
   リストが表示されます。

   接続されていない一方でネットワークへのアクセスが許可されているデバイスの、検出されたデバイス名、MACアドレスおよび接続タイプが表に表示されます。
6. デバイスを許可リストに追加するには、次の操作を実行します。
   a. **[追加]** ボタンをクリックします。
      [Add Allowed Device] ページが表示されます。
   b. 許可する機器のMACアドレスと機器名を入力します。
   c. [Add Allowed Device] ページで、**[適用]** ボタンをクリックします。

デバイスが [アクセス制御] ページの許可リストに追加されます。

7. デバイスを許可リストから削除するには、次の操作を実行します。

   a. デバイスのチェックボックスを選択します。

   b. **[削除]** ボタンをクリックします。
      機器が許可リストから削除されます。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

禁止リストへのデバイスの追加または禁止リストからのデバイスの削除

すべての新しいデバイスにネットワークへのアクセスを許可するアクセスリストを設定する一方で、特定のデバイスがネットワークにアクセスするのをブロックするには、ブロックするデバイスを指定する必要があります。

ブロックするデバイスを追加または削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セキュリティ] > [アクセス制御]** を選択します。
   リストが表示されます。
5. **[現在ネットワークに接続されていない、ブロックされたデバイスのリストを表示する]**リンクをクリックします。
   リストが表示されます。

   接続されておらず、ネットワークへのアクセスがブロックされているデバイスの、検出されたデバイス名、MACアドレスおよび接続タイプが表に表示されます。
6. デバイスを禁止リストに追加するには、次の操作を実行します。

   a. **[追加]** ボタンをクリックします。
      ページが表示されます。

   b. ブロックする機器のMACアドレスとデバイス名を入力します。

   c. **[適用]** ボタンをクリックします。
      デバイスが [アクセス制御] ページの禁止リストに追加されます。
7. デバイスを禁止リストから削除するには、次の操作を実行します。

a. デバイスのチェックボックスを選択します。

b. **[削除]** ボタンをクリックします。
機器が禁止リストから削除されます。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

キーワードを使用したインターネットサイトのブロック

キーワードとドメイン (Webサイト) に基づくブロックを使用して、特定のタイプのHTTPトラフィックがネットワークにアクセスするのを防ぐことができます。デフォルトでは、キーワードに基づくブロックは無効になっており、ドメインはブロックされません。

ブロックの設定

特定のキーワードとドメインのブロックが継続的またはスケジュールに従って実行されるように設定できます。

禁止キーワードとドメイン名を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サイト]** を選択します。
[禁止サイト] ページが表示されます。
5. キーワードに基づくブロックのオプションを指定します。
   - **スケジュール指定**: 設定したスケジュールに従って、キーワードに基づくブロックを使用します。詳細については、*キーワードに基づくブロックと送信ファイアウォールルールのスケジュールの設定*（76ページ）を参照してください。
   - **常にブロック**: キーワードに基づくブロックを継続的に使用します。
6. **[ここにキーワードまたはドメイン名を入力します。]** の欄に、キーワードまたはドメインを入力します。
以下は入力例です。

   - http://www.badstuff.com/xxx.htmlをブロックする場合は、XXXを指定します。
   - .eduや.govなどのドメインサフィックスがあるサイトだけを許可したい場合は、.comを指定します。
   - すべてのインターネットアクセスをブロックするには、ピリオド (.) を入力します。

7. **[キーワードの追加]** ボタンをクリックします。
   キーワードまたはドメインが **[これらのキーワードを含むサイトをブロック]** 欄 (禁止リストとも呼ばれます) に追加されます。

8. さらにキーワードやドメインを追加するには、 *手順 6*と *手順 7*を繰り返します。
   キーワードリストは、最大32個まで追加することができます。

9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

禁止リストからのキーワードまたはドメインの削除

禁止リストに登録されているキーワードまたはドメインが不要になった場合は、キーワードまたはドメインを削除できます。

禁止リストからキーワードまたはドメインを削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サイト]** を選択します。
   [禁止サイト] ページが表示されます。

5. **[これらのキーワードを含むサイトをブロック]** 欄で、キーワードまたはドメインを選択します。
6. **[キーワードの削除]** ボタンをクリックします。
   キーワードまたはドメインが禁止リストから削除されます。

7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

禁止リストからのすべてのキーワードとドメインの削除

禁止リストからすべてのキーワードとドメインを同時に削除することができます。

禁止リストからすべてのキーワードとドメインを同時に削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サイト]** を選択します。
   [禁止サイト] ページが表示されます。

5. **[リストの消去]** ボタンをクリックします。
   すべてのキーワードとドメインが禁止リストから削除されます。

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

信頼できるPCの指定

1台の信頼できるデバイスをブロックおよびログから除外することができます。 除外するデバイスには固定 (静的) IPアドレスを割り当てる必要があります。

信頼できるデバイスを指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サイト]** を選択します。
   [禁止サイト] ページが表示されます。
5. 下にスクロールして、**[信頼できるIPアドレスにブロックサイトへのアクセスを許可する]**チェックボックスを選択します。
6. **[信頼できるIPアドレス]** 欄に、信頼できる機器のIPアドレスを入力します。
   IPアドレスの最初の3オクテットは、自動的に設定され、[LAN設定] ページでルーターに割り当てられているIPアドレスに依存します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

サービスおよびアプリケーションのシンプルな送信ファイアウォールルールの管理

ファイアウォールは、あるネットワーク (自身のLANなどの信頼できるネットワーク) を別のネットワーク (インターネットなどの信頼できないネットワーク) から保護しながら、両者間の通信を可能にします。

ルーターには、インターネット (つまりWAN) へのアクセスをすべて許可するという、デフォルトの送信ファイアウォールルールが1つ用意されています。 単純なルールを追加して、インターネット上の特定のサービスおよびアプリケーションへのアクセスを防止できます。 さらに、ルールをあるユーザー、一定範囲のユーザー、またはLAN上のすべてのユーザーに適用するかを指定できます。

ルーターは、送信ルールで使用できるデフォルトのサービスおよびアプリケーションを多数表示します。 カスタムサービスまたはアプリケーションの送信ファイアウォールルールを追加することもできます。

特定のキーワード、URL、またはサイトのブロックについては、*キーワードを使用したインターネットサイトのブロック*（70ページ）を参照してください。 このタイプのブロックは、送信ファイアウォールのもう一つの側面です。

注 サービスブロックは、送信ファイアウォールルールを適用することと同じです。

送信ファイアウォールルールの追加

送信ファイアウォールルールを追加して、インターネット上の特定のサービスまたはアプリケーションへのアクセスを防止できます。

送信ファイアウォールルールを追加します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サービス]** を選択します。
   [禁止サービス] ページが表示されます。
5. [サービスブロック] セクションで、ルーターが送信ルールを適用する方法を指定します。
   - **スケジュール指定**: 設定したスケジュールに従って、キーワードに基づくブロックを使用します。 詳細については、*キーワードに基づくブロックと送信ファイアウォールルールのスケジュールの設定*（76ページ）を参照してください。
   - **常にブロック**: キーワードに基づくブロックを継続的に使用します。
6. サービス一覧の下にある **[追加]** ボタンをクリックします。
   [ブロックサービスの設定] ページが表示されます。

7. **[サービスタイプ]** メニューから、このルールの対象となるサービスまたはアプリケーションを選択します。

   サービスまたはアプリケーションがリストに表示されていない場合は、追加できます (*カスタムサービスまたはアプリケーションの送信ファイアウォールルールの追加*（74ページ）を参照)。

8. IPアドレスに基づいて、ルールの影響を受けるLAN上のデバイスを指定します。
   - **このIPアドレスのみ**: 欄に必要なアドレスを入力して、LAN上の単一のデバイスにルールを適用します。
   - **IPアドレス範囲**: 開始欄と終了欄に必要なアドレスを入力して、ルールをデバイスの範囲に適用します。
   - **すべてのIPアドレス**。 LAN上のすべてのPCおよびデバイスは、このルールの対象です。
     デフォルトで **[すべてのIPアドレス]** ラジオボタンが選択されています。

9. **[追加]** ボタンをクリックします。

   新しいルールが [禁止サービス] ページのサービス表に追加されます。

カスタムサービスまたはアプリケーションの送信ファイアウォールルールの追加

ルーターは、送信ルールで使用できるデフォルトのサービスおよびアプリケーションを多数表示します。サービスまたはアプリケーションが事前定義されていない場合は、送信ルールでカスタムサービスまたはアプリケーションを指定できます。

カスタムサービスまたはアプリケーションの送信ファイアウォールルールを追加します。

1. サービスまたはアプリケーションが使用するプロトコルおよびポート番号または番号の範囲を確認します。

   この情報は通常、サービスまたはアプリケーションの提供者、オンラインユーザーまたはニュースグループに問い合わせることで確認できます。

2. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
3. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。

   ログインウィンドウが開きます。

4. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。

   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

5. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サービス]** を選択します。

   [禁止サービス] ページが表示されます。

6. 送信ファイアウォールルールを初めて追加する場合は、[サービスブロック] セクションで、ルーターが送信ルールを適用する方法を指定します。
   - **スケジュール指定**: 設定したスケジュールに従って、キーワードに基づくブロックを使用します。詳細については、*キーワードに基づくブロックと送信ファイアウォールルールのスケジュールの設定*（76ページ）を参照してください。
   - **常にブロック**: キーワードに基づくブロックを継続的に使用します。

7. サービス一覧の下にある **[追加]** ボタンをクリックします。
   [ブロックサービスの設定] ページが表示されます。

8. **[サービスタイプ]** メニューから **[User Defined (ユーザー定義)]** を選択します。
9. 次の表の説明に従って、新しい送信ルールを指定します。

項目	説明
プロトコル	サービスまたはアプリケーションに関連付けられるプロトコル (**[TCP]** または **[UDP]**) を選択します。 不明な場合は、**[TCP/UDP]** を選択してください。
開始ポート	サービスまたはアプリケーションの開始ポートを入力します。
終止ポート	サービスまたはアプリケーションがポートの範囲を使用している場合は、その範囲の終止ポートを入力します。 サービスまたはアプリケーションが1つのポートを使用している場合は、**[開始ポート]** 欄に入力したポート番号を繰り返します。
サービスタイプ/ユーザー定義	カスタムサービスまたはアプリケーションの名前を入力します。

10. IPアドレスに基づいて、ルールの影響を受けるLAN上のデバイスを指定します。
    - **このIPアドレスのみ**: 欄に必要なアドレスを入力して、LAN上の単一のデバイスにルールを適用します。
    - **IPアドレス範囲**: 開始欄と終了欄に必要なアドレスを入力して、ルールをデバイスの範囲に適用します。
    - **すべてのIPアドレス**: LAN上のすべてのPCおよびデバイスは、このルールの対象です。
      デフォルトで **[すべてのIPアドレス]** ラジオボタンが選択されています。

11. **[追加]** ボタンをクリックします。
    新しいルールが [禁止サービス] ページのサービス表に追加されます。

送信ファイアウォールルールの変更

既存の送信ファイアウォールルールを変更できます。

送信ファイアウォールルールを変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サービス]** を選択します。

[禁止サービス] ページが表示されます。

5. サービス一覧で、編集したいルールのラジオボタンを選択します。
6. **[編集]** ボタンをクリックします。
   [ブロックサービスの設定] ページが表示されます。
7. 設定を変更します。
   設定については、*カスタムサービスまたはアプリケーションの送信ファイアウォールルールの追加*（74ページ）を参照してください。
8. **[承諾]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。 変更されたルールが、[禁止サービス] ページのサービス一覧に表示されます。

送信ファイアウォールルールの削除

不要になった送信ファイアウォールルールを削除できます。

送信ファイアウォールルールを削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サービス]** を選択します。
   [禁止サービス] ページが表示されます。
5. サービス一覧で、削除したいルールのラジオボタンを選択します。
6. **[削除]** ボタンをクリックします。
   サービス一覧からルールが削除されます。

キーワードに基づくブロックと送信ファイアウォールルールのスケジュールの設定

キーワードに基づくブロックと送信ファイアウォールルールに適用できるスケジュールを設定できます。

スケジュールでは、これらの機能をアクティブにする曜日と時間を指定できます。 スケジュールを設定した後でアクティブにする場合、キーワードブロック (*ブロックの設定*（70ページ）を参照)、送信ファイアウォールルール (*サービスおよびアプリケーションのシンプルな送信ファイアウォールルールの管理*（73ページ）を参照)、またはその両方にそれを適用する必要があります。 スケジュールを設定しない場合、これらの機能の有効/無効を切り替えることしかできません。 デフォルトではスケジュールは設定されていません。

スケジュールを設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [セキュリティ] > [スケジュール]** を選択します。
   [スケジュール] ページが表示されます。
5. ブロックのスケジュールをセットアップします。
   - **ブロックする曜日**: 特定の曜日を選択するか、または **[毎日]** を選択します。
     デフォルトで **[毎日]** のチェックボックスが選択されています。
   - **ブロックする時間帯**: 24時間表記でブロックの開始時刻と終了時刻を選択するか、24時間ブロックする場合は **[終日]** チェックボックスを選択します。
     デフォルトで **[終日]** のチェックボックスが選択されています。
6. **[タイムゾーン]** からお住まいの地域のタイムゾーンを指定します。
7. 夏時間 (サマータイム) を適用する地域に住んでいる場合は、**[夏時間に自動調整する]** を選択します。

   注 ルーターが内部時計をインターネット上のタイムサーバーと同期していて、正しいタイムゾーンを選択している場合、**[現在時刻]** 欄に正確な日付と時刻が表示されます。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

セキュリティイベントのメール通知の設定

ルーターアクティビティのログをメールでルーターから受け取ることができます。ログには、ルーターアクティビティと、ブロックされているサイトまたはサービスにアクセスしようとしたセキュリティイベントが記録されます。

メール通知を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [セキュリティ] > [メール]** を選択します。
   [メール] ページが表示されます。

5. **[メール通知を有効にする]** チェックボックスを選択してください。
6. **[このメールアドレスに送る]** 欄に、ログと警告の送信先メールアドレスを入力します。
   このメールアドレスは、差出人アドレスにも使用されます。 この欄が空白の場合は、ログメッセージと警告メッセージは送信されません。

7. **[送信メールサーバー]** 欄に、プロバイダーの送信 (SMTP) メールサーバーの名前を入力します (mail.myISP.comなど)。
   この情報は、メールソフトの設定ウィンドウに表示される場合があります。 この欄を空白のままにした場合は、ログメッセージと警告メッセージは送信されません。

8. **[送信メールサーバーポート番号]** 欄に、ポート番号を入力します。
   ポート番号がわからない場合は、デフォルトのポート番号をそのままにしておきます。

9. 送信メールサーバーで認証が必要な場合は、**[メールサーバーの認証]** チェックボックスを選択し、以下の操作を実行します。

   a. **[ユーザー名]** 欄に、送信メールサーバーのユーザー名を入力します。
   b. **[パスワード]** 欄に、送信メールサーバーのパスワードを入力します。

10. 誰かがブロックされているサイトにアクセスしようとしたら警告を送信するには、**[すぐに警告を送信]** チェックボックスを選択します。
    誰かがブロックされているサイトにアクセスしようとすると、メールによる警告がすぐに送信されます。

11. スケジュールに基づいてログを送信するには、以下の設定を指定します。

    a. **[スケジュールに基づきログを送信]** ドロップダウンリストから、スケジュールタイプを選択します。
    b. **[日]** ドロップダウンリストから、曜日を選択します。
    c. **[時刻]** ドロップダウンリストから時刻を選択し、**[午前]** または **[午後]** ラジオボタンを選択します。

12. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

    設定したスケジュールに基づいて、ログが自動的に送信されます。 指定した時刻の前にログがいっぱいになった場合、そのログは送信されます。 そのログは送信後にルーターのメモリから消去されます。 ルーターがログをメール送信できずにログバッファーがいっぱいになった場合、ルーターがログを上書きします。

ルーターに接続されたUSBストレージドライブの共有

7

この章では、ルーターに接続されたストレージドライブにアクセスして管理する方法について説明します。ReadySHAREを使用すると、ルーターに接続されたUSBストレージドライブにアクセスして共有することができます。 (専用のドライバーを使用するストレージドライブとは互換性がなく、使用できません。)

注 ルーターのUSBポートは、フラッシュドライブやハードドライブといったUSBストレージドライブ、またはプリンターを接続するためにのみ使用できます。ルーターのUSBポートにPC、USB モデム、CD ドライブ、 DVD ドライブを接続しないでください。

この章には次の内容が含まれます。

- *USBドライブの要件*
- *ルーターへのUSBストレージドライブの接続*
- *ルーターに接続されたストレージドライブへのアクセス*
- *WindowsネットワークドライブへのUSBドライブの割り当て*
- *ReadySHARE Vaultを使用したWindows PCのバックアップ*
- *Time Machineを使用したMacのバックアップ*
- *ストレージドライブへのアクセスの管理*
- *ネットワーク内でFTPアクセスを有効にする*
- *ストレージドライブのネットワークフォルダーの表示または変更*
- *USBストレージドライブへのネットワークフォルダーの追加*
- *USBストレージドライブでのネットワークフォルダーの編集*
- *USBストレージドライブの安全な取り外し*

ReadySHAREの機能の詳細については、*http://www.netgear.jp/solutions/homesolutions/readyshare/*を参照してください。

USBドライブの要件

ルーターでは、ほとんどのUSB対応の外付けフラッシュドライブおよびハードドライブを使用できます。ルーターでサポートされるUSBドライブの最新リストについては、*kb.netgear.com/app/answers/detail/a_id/18985/~/readyshare-usb-drives-compatibility-list*を参照してください。

一部のUSBフラッシュドライブおよびハードドライブは、USBストレージドライブにアクセスするためにPCにドライバーをロードする必要があります。 このようなUSBストレージ機器はルーターでは使用できません。

ルーターの読み書きのフルアクセスは、次のファイルシステムで対応しています。

- FAT16
- FAT32
- NTFS
- NTFS (圧縮形式が有効)
- Ext2
- Ext3
- Ext4
- HFS
- HFS+

ルーターへのUSBストレージドライブの接続

ReadySHAREを使うと、ルーターのポートに接続されたUSBストレージドライブにアクセスして共有することができます。 (専用のドライバーを使用するUSBストレージドライブとは互換性がなく、使用できません。)

USBドライブを接続します。

1. USBストレージドライブをルーターのUSBポートに差し込みます。
2. USBストレージドライブに電源が付属している場合は、電源を接続します。
   その電源はUSBストレージドライブをルーターに接続するときに使用する必要があります。

   USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。 デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBストレージドライブを利用できます。

ルーターに接続されたストレージドライブへのアクセス

ネットワーク上のPCや無線LAN子機から、ルーターに接続されたストレージドライブにアクセスできます。

ルーターに接続されたストレージドライブへのWindows PCからのアクセス

Windows PCからUSBストレージドライブにアクセスします。

1. USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続します。
2. USBストレージドライブに電源が付属している場合は、電源を接続します。

   USBストレージドライブをルーターのポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBストレージドライブを利用できます。

3. **[スタート] > [ファイル名を指定して実行]** を選択します。
4. ダイアログボックスに「**\\readyshare**」と入力します。
5. **[OK]** ボタンをクリックします。

   自動的にウィンドウが開いて、USBストレージドライブ上のファイルとフォルダーが表示されます。

ルーターに接続されたストレージドライブへのMacからのアクセス

ネットワーク上のPCや無線LAN子機から、ルーターに接続されたストレージドライブにアクセスできます。

Macからストレージドライブにアクセスします。

1. USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続します。
2. USBストレージドライブに電源が付属している場合は、電源を接続します。

   USBストレージドライブをルーターのポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBストレージドライブを利用できます。

3. ネットワークに接続されたMacで、**[移動] > [サーバーへ接続]** を選択します。

   [サーバーへ接続] ウィンドウが開きます。

4. **[サーバーアドレス]** 欄に、「**smb://readyshare**」と入力します。
5. メッセージが表示されたら、**[ゲスト]** ラジオボタンを選択します。

   ルーターでアクセス制御を設定し、Macにネットワークへのアクセスを許可した場合は、**[登録ユーザー]** ラジオボタンを選択し、名前に「**admin**」、パスワードにルーターの管理者パスワードを入力します。アクセス制御に関する詳細は、*ネットワークへのアクセスの許可または禁止*（65ページ）を参照してください。

6. **[接続]** ボタンをクリックします。

   自動的にウィンドウが開いて、USBストレージドライブ上のファイルとフォルダーが表示されます。

Windowsネットワークドライブへの USBドライブの割り当て

USBストレージデバイスをWindowsネットワークドライブに割り当てます。

1. USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続します。
2. USBストレージドライブに電源が付属している場合は、電源を接続します。

   USBストレージドライブをルーターのポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBストレージドライブを利用できます。
3. **[スタート] > [ファイル名を指定して実行]** を選択します。
4. ダイアログボックスに「**\\readyshare**」と入力します。
5. **[OK]** ボタンをクリックします。

   自動的にウィンドウが開いて、USBストレージドライブが表示されます。
6. USBドライブを右クリックし、**[ネットワークドライブを割り当てる]** を選択します。

   [ネットワークドライブを割り当てる] ウィンドウが開きます。
7. 新しいネットワークフォルダーに割り当てるドライブ文字を選択します。
8. **[完了]** ボタンをクリックします。

   指定したドライブ文字にUSBストレージドライブが割り当てられます。
9. 別のユーザーとしてUSBストレージドライブに接続するには、**[別の資格情報を使用して接続する]** チェックボックスを選択し、**[完了]** ボタンをクリックして、以下の操作を実行します。

   a. ユーザー名とパスワードを入力します。

   b. **[OK]** ボタンをクリックします。

ReadySHARE Vaultを使用したWindows PCのバックアップ

本ルーターにはWindows PC対応の無料のバックアップソフトウェア『ReadySHARE Vault』が付属しています。集中的、継続的、および自動的にバックアップを行うには、USBハードディスクドライブ(HDD)をルーターに接続します。

ReadySHARE Vaultをサポートするの OSは次のとおりです。

- Windows 7
- Windows 8
- Windows 8.1
- Windows 10

Windows PCをバックアップします。

1. USB HDDストレージドライブをルーターのUSBポートに接続します。
2. USBストレージドライブに電源が付属している場合は、電源を接続します。
   その電源はUSBストレージドライブをルーターに接続するときに使用する必要があります。

   USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。 デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBストレージドライブを利用できます。
3. ReadySHARE Vaultを *http://www.netgear.jp/solutions/homesolutions/readyshare/* からダウンロードし、各Windows PCにインストールします。
4. ReadySHARE Vaultを起動します。
5. Dashboard (ダッシュボード) または **[Backup (バックアップ)]** タブを使用して、バックアップを設定および実行します。

Time Machineを使用したMacのバックアップ

Time Machineを使用すると、ルーターのUSBポートに接続されているUSBドライブにMac全体をバックアップできます。 ルーターに有線または無線で接続されているMacから、ストレージドライブにアクセスできます。

MacでのUSBハードドライブの設定

初めてTime Machineバックアップを実行するときは、新しいUSBドライブを使用するか、古いUSBドライブをフォーマットすることを推奨します。 空のパーティションを使用すると、Time Machineを使用したバックアップ中に発生する一部の問題を回避することができます。 ルーターは、GUIDまたはMBRパーティションをサポートします。

USBドライブをフォーマットしてパーティションを指定します。

1. USB HDDをルーターに接続します。
2. USB HDDが電源を使用している場合は、電源を接続します。
   その電源はUSB HDDをルーターに接続するときに使用する必要があります。

   USB HDDをルーターのポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。 デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBドライブを利用できます。
3. Macのデスクトップで右上の虫眼鏡のマークの欄に「**ディスクユーティリティ**」と入力して検索します。
4. ディスクユーティリティを開き、USBドライブを選択して、**[消去]** タブをクリックし、**[消去]** ボタンをクリックします。
5. **[パーティション]** タブをクリックします。
6. **[パーティションのレイアウト]** メニューで、使用するパーティションの数を設定します。
7. **[オプション]** ボタンをクリックします。
   パーティションの方式が表示されます。
8. **[GUIDパーティションテーブル]** または **[マスター・ブート・レコード]** ラジオボタンを選択します。

9. **[フォーマット]** ドロップダウンリストで、**[Mac OS拡張 (ジャーナリング)]** を選択します。
10. **[OK]** ボタンをクリックします。
11. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

大量のデータのバックアップ準備

Time Machineを使用して大量のデータをバックアップする前に、次の手順に従うことをお勧めします。

大量のデータをバックアップする準備をします。

1. MacのOSをアップグレードします。
2. バックアップディスクとローカルディスクを確認し修復します。
3. ローカルディスクのアクセス権を検証、修復します。
4. 省エネルギーを設定します。
   a. **Apple**メニューで、**[システム環境設定]** を選択します。
      [システム環境設定] ページが表示されます。
   b. **[省エネルギー]** を選択します。
      [省エネルギー] ページが表示されます。
   c. **[電源アダプタ]** タブをクリックします。
   d. **[Wi-Fiネットワークアクセスによるスリープ解除]** チェックボックスを選択します。
   e. **戻る矢印**をクリックして変更を保存し、このページを終了します。
5. セキュリティ設定を変更します。
   a. **[システム環境設定]** ページで、**[セキュリティとプライバシー]** を選択します。
      [セキュリティとプライバシー] ページが表示されます。
   b. ページの下部にある **[詳細]** ボタンをクリックします。
      [詳細] ボタンが灰色表示になっている場合は、鍵のアイコンをクリックすると、設定を変更できます。
   c. **[使用しない状態が○分間続いたらログアウト]** チェックボックスの選択を解除します。
   d. **[OK]** ボタンをクリックします。
      設定が保存されます。

Time Machineを使用したUSBドライブへのバックアップ

Time Machineを使用すると、ルーターのUSBポートに接続されているUSBドライブ (HDD) にMac全体をバックアップできます。

MacをUSBドライブにバックアップします。

1. フォーマットとパーティションに互換性があるUSBドライブを用意します。
   詳細については、*MacでのUSBハードドライブの設定*（83ページ）を参照してください。
2. 大量のデータをバックアップする場合は、*大量のデータのバックアップ準備*（84ページ）を参照してください。
3. USB HDDが電源を使用している場合は、電源を接続します。
   その電源はUSB HDDをルーターに接続するときに使用する必要があります。

   USB HDDをルーターのポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。 デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBドライブを利用できます。
4. ネットワークに接続されたMacで、Finderを起動し、**[移動] > [サーバーへ接続]** を選択します。
   [サーバーへ接続] ウィンドウが開きます。
5. 「**smb://routerlogin.net**」と入力し、**[接続]** ボタンをクリックします。
6. メッセージが表示されたら、**[登録ユーザー]** ラジオボタンを選択します。
7. 名前に「**admin**」を、パスワードにルーターの管理者パスワードを入力し、**[接続]** ボタンをクリックします。
   ルーターに接続されているUSBドライブのリストが表示されます。
8. **Apple**メニューで、**[システム環境設定]** を選択します。
   [システム環境設定] ウィンドウが表示されます。
9. **[Time Machine]** を選択します。
   [Time Machine] ウィンドウが表示されます。
10. **[ディスクを選択]** ボタンをクリックし、リストからUSBドライブを選択します。
11. **[ディスクを使用]** ボタンをクリックします。

注 TimeMachineのディスクリストにUSBパーティションが表示されない場合は、MacのFinderに移動し、そのUSBパーティションをクリックしてください。TimeMachineのリストに表示されるようになります。

---

12. メッセージが表示されたら、**[登録ユーザー]** ラジオボタンを選択します。
13. 名前に「**admin**」を、パスワードにルーターの管理者パスワードを入力し、**[接続]** ボタンをクリックします。

設定が完了すると、フルバックアップが自動的にスケジュール設定されます。即座にバックアップできます

ストレージドライブへのアクセスの管理

ルーターのUSBポートに接続されたストレージドライブに、デバイス名、ワークグループおよびネットワークフォルダーを指定できます。

ストレージドライブのアクセス設定を指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE]** を選択します。
   [USBストレージ (詳細設定)] ページが表示されます。
5. ルーターに接続されているUSBドライブにアクセスするために使用する名前を指定するには、**[USB機器へのアクセス (Windows)]** 欄に名前を入力します。
   デフォルトの名前はreadyshareです。
6. USBドライブが属するワークグループの名前を指定するには、**[ワークグループ]** 欄に名前を入力します。
   デフォルトの名前はWorkgroupです。 この名前は、MicrosoftWindowsなどのNetBIOSをサポートするOSのみで使用されます。 ドメインではなくWindowsワークグループを使用している場合は、ここにワークグループ名が表示されます。
7. 次の表に示すように、対応するチェックボックスを選択または選択解除し、ストレージドライブへのアクセスを指定することによって、アクセス方法を有効または無効にします。

アクセス方法	説明
ネットワーク接続	デフォルトで有効です。 「**\\readyshare**」と入力することにより、ネットワーク内のストレージドライブにアクセスできます。**[USB機器へのアクセス(Windows)]** 欄の名前をreadyshareから別の名前に変更した場合、それに応じてリンクも変更されます。 パスワード保護を有効にすることができます。
HTTP	デフォルトで有効です。 「**http://readyshare.routerlogin.net/shares**」と入力することにより、ネットワーク内のUSBドライブにアクセスし、ファイルをダウンロードまたはアップロードできます。 このURLのreadyshareは、**[USB機器へのアクセス(Windows)]** 欄に指定された名前です。**[USB機器へのアクセス(Windows)]** 欄の名前をreadyshareから別の名前に変更した場合、それに応じてリンクも変更されます。 [リンク]列に表示されているリンクをクリックすることもできます。 固定ポート番号は80です。 パスワード保護を有効にすることができます。

(続き)

アクセス方法	説明
HTTPS (インターネット経由)	デフォルトで無効です。 この機能を有効にした場合、リモートユーザーは、「**https://**<*パブリックIPアドレス*>**/shares**」と入力することにより、インターネット経由でUSBドライブにアクセスできます。 <*パブリックIPアドレス*>は、ルーターに割り当てられている外部またはパブリックIPアドレスです(たとえば、1.1.10.102)。 この機能では、ファイルのアップロードのみがサポートされます。 デフォルトのポート番号は443です。この値は変更することができます。 パスワード保護はデフォルトで有効になっています。
FTP	デフォルトで有効です。 「**ftp://readyshare.routerlogin.net/shares**」と入力することにより、ネットワーク内のUSBドライブにアクセスし、ファイルをダウンロードまたはアップロードできます。 このURLのreadyshareは、**[ネットワーク/デバイス名]** 欄に指定された名前です。 **[ネットワーク/デバイス名]** 欄の名前をreadyshareから別の名前に変更した場合、それに応じてリンクも変更されます。 [リンク]列に表示されているリンクをクリックすることもできます。 固定ポート番号は21です。 パスワード保護を有効にすることができます。
FTP (インターネット経由)	デフォルトで無効です。この機能を有効にした場合、リモートユーザーは、「**ftp:**//<*パブリックIPアドレス*>**/shares**」と入力することにより、インターネット経由でUSBドライブにアクセスし、ファイルをダウンロードまたはアップロードできます。 <*パブリックIPアドレス*> は、ルーターに割り当てられている外部またはパブリックIPアドレスです (たとえば、1.1.10.102)。 デフォルトのポート番号は21です。この値は変更することができます。 パスワード保護はデフォルトで有効になっています。 ダイナミックDNSを設定する場合は、URLドメイン名も入力できます。 たとえば、ドメイン名がMyNameであり、NETGEAR DDNSサーバーを使用する場合、インターネットからUSBドライブにアクセスしてファイルをダウンロードまたはアップロードするには、「**ftp://MyName.mynetgear.com**」と入力します。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

ネットワーク内でFTPアクセスを有効にする

ファイル転送プロトコル (FTP) を使用すると、大きなファイルをより高速にダウンロード (受信) およびアップロード (送信) できます。

ネットワーク内でFTPアクセスを有効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE]** を選択します。
   [USBストレージ (詳細設定)] ページが表示されます。

5. **[FTP]** チェックボックスを選択します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

ストレージドライブのネットワークフォルダーの表示または変更

ルーターに接続されているストレージドライブ上のネットワークフォルダーを表示または変更することができます。

ネットワークフォルダーを表示または変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE]** を選択します。
   [USBストレージ (詳細設定)] ページが表示されます。

5. [利用可能なネットワークフォルダー] のセクションまでスクロールし、以下の設定を調整します。

   - **共有名**: デフォルトの共有名はUSB_Storageです。
     名前をクリックするか、ウェブブラウザーのアドレス欄に名前を入力します。 [共有しない] が表示される場合は、デフォルトの共有が削除され、ルートフォルダーにその他の共有が存在しないことを意味します。 この設定を変更するには、リンクをクリックします。
   - **リードアクセス/ライトアクセス**: ネットワークフォルダーのアクセス権とアクセス制御を示します。 [すべてパスワードなし] (デフォルト) は、すべてのユーザーがネットワークフォルダーにアクセスできます。 admin のパスワードは、ルーターにログインするためのパスワードと同じです。
   - **フォルダー名**: ネットワークフォルダーのフルパスです。
   - **ボリューム名**: ストレージドライブのボリューム名です。
   - **[合計の容量] と [空き容量]**: ストレージドライブの現在の利用状況を示します。

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

USBストレージドライブへのネットワークフォルダーの追加

ルーターのUSBポートに接続されているUSBストレージドライブにネットワークフォルダーを追加することができます。

ネットワークフォルダーを追加します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE]** を選択します。
   [USBストレージ (詳細設定)] ページが表示されます。
5. [利用可能なネットワークフォルダー] のセクションで、USBストレージドライブを選択します。
6. **[新規フォルダーの作成]** ボタンをクリックします。
   [新規フォルダーの作成] ウィンドウが開きます。

   このウィンドウが開かない場合は、Webブラウザーでポップアップブロック機能が有効になっている可能性があります。 その場合は、ポップアップを許可するようにブラウザー設定を変更してください。
7. **[USBデバイス]** メニューからUSBドライブを選択します。

   注 USBハブなどを使用して1つのUSBポートに複数のドライブを接続しないでください。
8. **[参照]** ボタンをクリックし、[フォルダー] 欄でフォルダーを選択します。
9. **[共有名]** 欄に、共有名を入力します。
10. **[リードアクセス]** メニューと **[ライトアクセス]** メニューから希望する設定を選択します。
    [すべてパスワードなし] (デフォルト) は、すべてのユーザーがネットワークフォルダーにアクセスできます。 他のオプションでは、管理者だけにネットワークフォルダーへのアクセスが許可されます。 adminのパスワードは、ルーターへのログインに使用するパスワードと同じです。
11. **[適用]** ボタンをクリックします。
    フォルダーがUSBストレージドライブに追加されます。
12. **[ウィンドウを閉じる]** ボタンをクリックします。
    ウィンドウが閉じます。

USBストレージドライブでのネットワークフォルダーの編集

ルーターのUSBポートに接続されているUSBストレージドライブでネットワークフォルダーを編集することができます。

ネットワークフォルダーを編集します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE]** を選択します。
   [USBストレージ (詳細設定)] ページが表示されます。
5. [利用可能なネットワークフォルダー] のセクションで、USBストレージドライブを選択します。
6. **[編集]** ボタンをクリックします。
   [ネットワークフォルダーの編集] ウィンドウが開きます。
7. 必要に応じて設定を変更します。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

USBストレージドライブの安全な取り外し

USBストレージドライブをルーターのUSBポートから物理的に取り外す前に、ルーターにログインし、USBストレージドライブをオフラインにします。

USBストレージドライブを安全に取り外します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE]** を選択します。
   [USBストレージ (詳細設定)] ページが表示されます。
5. [利用可能なネットワークフォルダー] セクションで、USBストレージドライブを選択します。

6. **[USB機器の安全な取り外し]** ボタンをクリックします。
   ドライブがオフラインになります。

7. USBストレージドライブを取り外します。

ダイナミックDNSを使用したインターネットからのUSBストレージドライブへのアクセス

8

ダイナミックDNSを使用すると、外出先でも、ルーターのUSBポートに接続されているUSBドライブにインターネットを使用してアクセスできます。

この章には次の内容が含まれます。

- *ダイナミックDNSの設定と管理*
- *インターネットからのFTPアクセスの設定*
- *個人用FTPサーバー*
- *インターネットからのUSBストレージドライブへのアクセス*

ダイナミックDNSの設定と管理

プロバイダーは、各インターネットアカウントを識別するために、IPアドレスと呼ばれる番号を割り当てます。ほとんどのプロバイダーは動的に割り当てられたIPアドレスを使用します。つまり、IPアドレスはいつでも変更される可能性があるということです。IPアドレスを使用してネットワークにリモートアクセスすることはできますが、大半のユーザーは、自分のIPアドレスが何か、いつこの番号が変更されるかを知りません。

より簡単に接続できるように、ドメイン名を使用してホームネットワークにアクセスできるようにするダイナミックDNSサービスの無料アカウントを取得することができます。このアカウントを使用するには、ダイナミックDNSを使用するようにルーターを設定します。これで、ルーターのIPアドレスが変更されたときには必ずダイナミックDNSサービスプロバイダーに通知されるようになります。ダイナミックDNSアカウントにアクセスすると、ホームネットワークの現在のIPアドレスが検索され、自動的に接続されます。

プロバイダーがプライベートWAN IPアドレス(192.168.x.x、10.x.x.xなど)を割り当てる場合、プライベートアドレスはインターネット上でルーティングされないため、ダイナミックDNSサービスを使用できません。

インターネットからのFTPアクセスの設定

FTPアクセスを設定します。

1. ネットワークに接続されているPCやネットワークデバイスでウェブブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE]** を選択します。
   [USBストレージ (詳細設定)] ページが表示されます。
5. **[FTP (インターネット経由)]** チェックボックスを選択します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。
7. 管理者にアクセスを制限するには、[利用可能なネットワークフォルダー] セクションでデバイスを選択します。
   1つのデバイスのみが接続されている場合は、自動的に選択されます。
8. **[編集]** ボタンをクリックします。
   [編集] ページが表示されます。
9. **[リードアクセス]** ドロップダウンリストで、**[ルーター管理者]** を選択します。

10. **[ライトアクセス]** ドロップダウンリストで、**[ルーター管理者]** を選択します。
11. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

個人用FTPサーバー

カスタマイズされた無料のURLを使用すると、外出先からでもダイナミックDNS経由でFTPを使用してネットワークにアクセスできます。FTPサーバーを設定するには、NETGEARダイナミックDNS(DDNS)サービスアカウントに登録してアカウント設定を指定する必要があります。*新しいダイナミックDNSアカウントの設定*（94ページ）を参照してください。

注 基本DDNSとログイン、パスワードのみに対応するルーターは安全でない可能性があります。接続をセキュリティ保護するには、DDNSとVPNトンネルを併用することができます。

個人用FTPサーバーの設定

個人用アカウントを設定し、FTPを使用します。

1. NETGEARダイナミックDNSドメイン名を取得します。
   詳細については、*新しいダイナミックDNSアカウントの設定*（94ページ）を参照してください。
2. インターネットに接続していることを確認します。
   ルーターがインターネットへの直接接続を使用している必要があります。インターネットにアクセスするために別のルーターに接続することはできません。
3. ストレージデバイスをルーターに接続します。
4. USBストレージドライブに電源が付属している場合は、電源を接続します。
   その電源はUSBストレージドライブをルーターに接続するときに使用する必要があります。

   USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBストレージドライブを利用できます。
5. ルーターでFTPアクセスを設定します。
   インターネットからのFTPアクセスの設定（93ページ）を参照してください。
6. *インターネットに接続されたPCを使って、FTP経由で*ftp://yourname.mynetgear.comを使用してルーターに接続できます。

新しいダイナミックDNSアカウントの設定

ダイナミックDNSを設定し、無料のNETGEARアカウントに登録します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [ダイナミックDNS]** を選択します。
   [ダイナミックDNS] ページが表示されます。
5. **[ダイナミックDNSサービスを利用する]** チェックボックスを選択します。
6. **[サービスプロバイダ]** ドロップダウンリストで、**[NETGEAR]** を選択します。
   別のサービスプロバイダーを選択できます。
7. [NETGEAR DDNSアカウントまたはNO-IP DDNSアカウントを持っていますか？] ラジオボタンで **[いいえ]** を選択します。
8. **[ホスト名]** の欄に、URLに使用する名前を入力します。
   ホスト名は、ドメイン名と呼ばれることもあります。 無料のURLは、指定したホスト名を含み、mynetgear.comで終わります。 例えば、*MyName*.mynetgear.comと指定します。
9. **[メール]** の欄に、アカウントのメールアドレスを入力します。
10. **[パスワード (6～32文字)]** の欄に、アカウントのパスワードを入力します。
11. **[登録]** ボタンをクリックします。
12. 画面に表示される指示に従って、NETGEARダイナミックDNSサービスを登録します。

すでに作成したDNSアカウントの指定

すでにダイナミックDNSアカウントをNETGEARのNo-IPまたはDynに作成した場合は、そのアカウントを使用するようにルーターを設定できます。

すでにアカウントを作成した場合にダイナミックDNSを設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [ダイナミックDNS]** を選択します。
   [ダイナミックDNS] ページが表示されます。
5. **[ダイナミックDNSサービスを利用する]** チェックボックスを選択します。
6. **[サービスプロバイダ]** ドロップダウンリストで、プロバイダーを選択します。
7. **[はい]** ラジオボタンを選択します。
   ページが変更され、**[状態を表示]**、**[キャンセル]**、**[適用]** ボタンが表示されます。

8. **[ホスト名]** の欄に、アカウントのホスト名 (ドメイン名と呼ばれることもあります) を入力します。
9. No-IPまたはDynのアカウントの場合は、**[ユーザー名]** の欄に、アカウントのユーザー名を入力します。
10. No-IPのNETGEARアカウントの場合は、**[メール]** の欄に、アカウントのメールアドレスを入力します。
11. **[パスワード (6～32文字)]** の欄に、DDNSアカウントのパスワードを入力します。
12. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。
13. ルーターでダイナミックDNSサービスが有効であることを確認するには、**[状態を表示]**ボタンをクリックします。
    メッセージにダイナミックDNSのステータスが表示されます。

ダイナミックDNS設定の変更

ダイナミックDNSアカウントの設定を変更することができます。

設定を変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [ダイナミックDNS]** を選択します。
   [ダイナミックDNS] ページが表示されます。
5. 必要に応じてDDNSアカウント設定を変更します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

インターネットからのUSBストレージドライブへのアクセス

外出先にいるときでも、インターネットからUSBストレージドライブにアクセスできます。

リモートPCからストレージドライブにアクセスします。

1. ホームネットワーク上にないPCやモバイル端末でWebブラウザーを起動します。
2. 自宅のルーターに接続します。
   - ダイナミックDNSを使用して接続するには、DNS名を入力します。
     ダイナミックDNSアカウントを使用するには、[ダイナミックDNS]ページにアカウント情報を入力する必要があります。 *ダイナミックDNSの設定と管理*（93ページ）を参照してください。
   - ダイナミックDNSを使用せずに接続するには、ルーターのインターネットポートのIPアドレスを入力します。

   ルーターのインターネットIPアドレスは、基本ホームページで確認できます。

FTPを使用して、ルーターに接続されているUSBドライブ上のファイルを共有できます。

メディアサーバーとしてのルーターの使用 9

この章には次の内容が含まれます。

- *ReadyDLNAメディアサーバーの設定*
- *iTunesサーバーを使用したストレージドライブからの音楽再生*

ReadyDLNAメディアサーバーの設定

デフォルトでは、ルーターはReadyDLNAメディアサーバーとして動作するよう設定されています。ReadyDLNAメディアサーバーを使用すると、Xbox360、Playstation、NETGEARメディアプレイヤーなどのDLNA/UPnP AV対応メディアプレイヤーで動画や写真を表示することができます。

メディアサーバー設定を指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE] > [メディアサーバー]** を選択します。
   [メディアサーバー (設定)] ページが表示されます。
5. 設定を指定します。

   - **メディアサーバーを有効にする**:ルーターをメディアサーバーとして有効にするには、このチェックボックスを選択します。
   - **Enable TiVo support:** TiVoは日本では対応していません。
   - **iTunesサーバー (音楽のみ) を有効にする**:ホームシェアリングを使用し、WindowsPCまたはMacのiTunesを使って、ルーターに接続されているUSBドライブから音楽を再生する場合は、このチェックボックスを選択します。 詳細については、*iTunesを使用したルーターのiTunesサーバーの設定*（100ページ）を参照してください。
   - **メディアサーバー名**: **[デバイス名を変更するにはここをクリック]** リンクからメディアサーバー名を変更します。

     注 メディアサーバー名を変更した場合は、ReadySHAREストレージフォルダーのアクセスパスを新しい名前に変更するか、アクセスパスを`\\readyshare`のままにすることができます。

   - **コンテンツスキャン**: ルーターは、新しいファイルがReadySHARE USBストレージドライブに追加されると、メディアファイルを自動的にスキャンします。 **[リードアクセス]** で「**すべてパスワードなし**」に設定されている共有フォルダーのみでメディアファイルをスキャンできます。 すぐに新しいメディアファイルをスキャンするには、**[メディアファイルを再度スキャンする]** ボタンをクリックします。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

iTunesサーバーを使用したストレージドライブからの音楽再生

iTunesサーバーを使用すると、Windows PCまたはMacのiTunesを使うか、iPhoneまたはiPadのApple Remoteアプリを使って、ルーターのUSBポートに接続されているUSBドライブから音楽を再生することができます。 iPhoneまたはiPadからApple Remoteアプリを使用して、Apple TVやAirPlay対応レシーバーなどのAirPlay対応機器で音楽を再生することもできます。

サポートされる音楽ファイルのフォーマットはMP3、AAC、およびFLACです。 サポートされる音楽ファイルの最大数は10,000です。

iTunesを使用したルーターのiTunesサーバーの設定

ホームシェアリングを使用すると、Windows PCまたはMacのiTunesを使って、ルーターに接続されているUSBドライブから音楽を再生することができます。 ホームシェアリングを設定するには、Appleのアカウントと、PCにインストールされた最新バージョンのiTunesが必要です。

ルーターのiTunesサーバーを設定してiTunesで音楽を再生します。

1. USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続します。
2. USBストレージドライブに電源が付属している場合は、電源を接続します。
   その電源はUSBストレージドライブをルーターに接続するときに使用する必要があります。

   USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。 デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBストレージドライブを利用できます。
3. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
4. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
5. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
6. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE] > [メディアサーバー]** を選択します。
   [メディアサーバー (設定)] ページが表示されます。
7. **[iTunesサーバー (音楽のみ) を有効にする]** チェックボックスを選択します。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。
9. Windows PCまたはMacで、iTunesを起動します。
10. **[ファイル] > [ホームシェアリング] > [ホームシェアリングをオンにする]** を選択します。
    ホームシェアリングのページが表示されます。
11. Apple IDのメールアドレスとパスワードを入力します。

12. **[ホームシェアリングをオンにする]** ボタンをクリックします。
    ホームシェアリングが有効になっている場合、**[Home Sharing]** アイコンがiTunesに表示されます。

13. メニューの **[Home Sharing]** アイコンをクリックし、ルーターを選択します。
    ルーターに接続されているUSBドライブの音楽がiTunesに表示されます。

Remoteアプリを使用したルーターのiTunesサーバーの設定

AppleRemoteアプリを使用すると、iPhoneまたはiPadで、ルーターに接続されているUSBドライブから音楽を再生することができます。

ルーターのiTunesサーバーを設定してiPhoneまたはiPadで音楽を再生します。

1. USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続します。
2. USBストレージドライブに電源が付属している場合は、電源を接続します。
   その電源はUSBストレージドライブをルーターに接続するときに使用する必要があります。

   USBストレージドライブをルーターのUSBポートに接続すると、共有の準備が整うまでに最大で2分程かかります。デフォルトでは、LAN上にあるすべてのPCからUSBストレージドライブを利用できます。

3. iPhoneまたはiPadをルーターの無線LANネットワークに接続します。
4. Apple社のApp StoreからRemoteアプリをダウンロードします。
5. iPhoneまたはiPadからRemoteアプリを起動します。
6. Remoteアプリで、**[Add a Device]** ボタンをクリックします。
   Remoteアプリにパスコードが表示されます。

7. ルーターにパスコードを指定してiTunesサーバーを設定します。

   a. ルーターのネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでウェブブラウザーを開きます。

   b. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
      ログインウィンドウが開きます。

   c. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
      ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

      管理者ページの基本ホームページが表示されます。

   d. **[高度] > [USBストレージ] > [ReadySHARE] > [メディアサーバー]** を選択します。
      [メディアサーバー (設定)] ページが表示されます。

   e. **[iTunesサーバー (音楽のみ) を有効にする]** チェックボックスを選択します。

   f. **[適用]** ボタンをクリックします。

   g. パスコードを入力します。

   h. **[コントロールを許可]** ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

iPhoneまたはiPadがルーターとペアリングされ、iTunesサーバーの準備が整います。 Remoteアプリにルーターが表示されます。

8. Remoteアプリで、iPhoneまたはiPadが接続されているルーターをタップします。
   ルーターに接続されているUSBドライブの音楽がアプリに表示されます。

WANおよびLANネットワーク設定の管理 10

この章では、ルーターのWANおよびLANネットワーク設定を管理する方法について説明します。

この章には次の内容が含まれます。

- *ワイヤレス転送速度の変更*
- *WANセキュリティ設定の管理*
- *デフォルトDMZサーバーの設定*
- *IGMPプロキシの管理*
- *VPNパススルーの管理*
- *NATフィルタリングの管理*
- *SIP Application-Level Gatewayの管理*
- *LAN IPアドレス設定の管理*
- *ルーター情報プロトコル設定の管理*
- *DHCPサーバーアドレスプールの管理*
- *予約LAN IPアドレスの管理*
- *内蔵DHCPサーバーの無効化*
- *ルーター名の変更*
- *カスタムの静的ルートの設定および管理*
- *ポートグループまたはVLANタググループのブリッジの設定*

ワイヤレス転送速度の変更

高速送信のデータ転送速度は通常、メガビット/秒 (Mbps) で示されます。

ワイヤレス転送速度を変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[ワイヤレス]** を選択します。
   [ワイヤレス設定] ページが表示されます。
5. 2.4 GHzワイヤレス帯の場合は、[ワイヤレスネットワーク (2.4 GHz b/g/n)] セクションで、**[モード]** ドロップダウンリストから設定を選択します。
6. 5 GHzワイヤレス帯の場合は、[ワイヤレスネットワーク(5 GHz a/n/ac)] セクションで、**[モード]** ドロップダウンリストから設定を選択します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

WANセキュリティ設定の管理

WANセキュリティ設定には、Syn flood攻撃、Smurf攻撃、Ping of Deathなどの攻撃からLANを保護できるポートスキャン保護とDoS (サービス拒否) 保護が含まれます。 デフォルトでは、DoS保護が有効になっていて、ポートスキャンは拒否されます。

また、ルーターがWAN (インターネット) ポートへのpingに応答するように設定することもできます。 ルーターの検出を許可します。 診断ツールとしてのみ、または特別な理由がある場合のみ、この機能を有効にしてください。

デフォルトのWANセキュリティ設定を変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [WAN設定]** を選択します。

[WAN設定] ページが表示されます。

5. ポートスキャンを有効にし、DoS保護を無効にするには、**[ポートスキャンとDoS保護を無効にする]** チェックボックスを選択します。
6. ルーターがpingに応答するようにするには、**[インターネットポートへのPingに応答する]** チェックボックスを選択します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

デフォルトDMZサーバーの設定

デフォルトDMZサーバー機能は、NATと互換性のないオンラインゲームやビデオ会議アプリケーションを使用しているときに便利です。 ルーターは、このようなアプリケーションの一部を認識して正しく処理するようにプログラムされていますが、正しく機能しないアプリケーションもあります。 ローカルPCのIPアドレスをデフォルトDMZサーバーとして入力していれば、そのPCでアプリケーションを正しく実行できる場合もあります。

警告
DMZサーバーにはセキュリティ上のリスクがあります。 デフォルトDMZサーバーとして指定されたPCは、ファイアウォールの保護を失い、インターネットの危険にさらされることになります。 万が一障害が発生すると、DMZサーバーのPCはネットワーク上の他のPCを攻撃するために使われる可能性もあります。

通常、インターネットからの受信トラフィックがローカルPCや、[ポート転送/ポートトリガー] ページで設定したサービスに反応しない限り、ルーターはそのトラフィックを検出して破棄します。 トラフィックを破棄する代わりに、トラフィックをネットワーク上のPCに転送するように指定できます。 そのようなPCは、デフォルトDMZサーバーと呼ばれます。

デフォルトDMZサーバーを設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [WAN設定]** を選択します。
   [WAN設定] ページが表示されます。
5. **[デフォルトDMZサーバー]** チェックボックスを選択します。
6. IPアドレスを入力します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

IGMPプロキシの管理

IGMPプロキシを使用すると、ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のPCが、対象となるマルチキャストトラフィックをインターネットから受信できるようになります。 この機能が必要ない場合は、デフォルト設定である無効のままにしてください。

IGMPプロキシを有効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [WAN設定]** を選択します。
   [WAN設定] ページが表示されます。
5. **[IGMPプロキシを無効にする]** チェックボックスのチェックを外します。
   デフォルトでは、**[IGMPプロキシを無効にする]** チェックボックスが選択され、IGMPプロキシが無効になっています。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

VPNパススルーの管理

VPNパススルーを使用すると、LAN (ローカルエリアネットワーク) 上のPCは、IPSec、PPTPまたはL2TP接続経由でインターネットからVPNトラフィックを受信できます。 通常の状況では、VPNパススルーをデフォルト設定である有効のままにしてください。 VPNパススルーを無効にすると、VPNトラフィックはブロックされます。

VPNパススルーを無効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [WAN設定]** を選択します。
   [WAN設定] ページが表示されます。

5. [VPNパススルー] セクションで、1つまたは複数の **[無効]** ラジオボタンを選択します。
   デフォルトでは、IPSec、PPTPおよびL2TPに対して **[有効]** のラジオボタンが選択されて、VPNパススルーが有効になっています。

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

NATフィルタリングの管理

ネットワークアドレス変換 (NAT) は、ルーターが受信トラフィックを処理する方法を決定します。 [安全] なNATは、LAN上のPCをインターネットからの攻撃から保護しますが、一部のインターネットゲーム、ポイントツーポイントアプリケーション、マルチメディアアプリケーションが動作しなくなることがあります。 [オープン] なNATは、ファイアウォールの安全性が大幅に低下しますが、ほぼすべてのインターネットアプリケーションが動作できます。 デフォルトでは、[安全] なNATに設定されます。

デフォルトのNATフィルタリング設定を変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [WAN設定]** を選択します。
   [WAN設定] ページが表示されます。
5. [NATフィルター] のラジオボタンを選択します。
   - **安全**:安全なファイアウォールを提供し、LAN上のPCをインターネットの攻撃から守ります。ただし、このようなセキュリティが、インターネットゲーム、ポイントツーポイントのアプリケーション、マルチメディアアプリケーションなどの機能を妨げることがあります。 デフォルトでは、**[安全]** ラジオボタンが選択されています。
   - **オープン**: ファイアウォールとしての安全性が低くなりますが、ほぼすべてのインターネットアプリケーションが正しく機能します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

SIP Application-Level Gatewayの管理

SIP (Session Initiation Protocol) のALG (application-level gateway) はデフォルトで有効になっていて、強化されたアドレスおよびポート変換を実現します。 ただし、SIP ALGが有効な場合、一部のVoIPおよび

ビデオトラフィックがうまく動作しないことがあります。 このため、SIP ALGを無効にするオプションがルーターに用意されています。

デフォルトのSIP ALG設定を変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [WAN設定]** を選択します。
   [WAN設定] ページが表示されます。
5. SIP ALGを無効にするには、**[SIP ALGを無効にする]** チェックボックスを選択します。
   SIP ALGはデフォルトで有効になっています。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

LAN IPアドレス設定の管理

ルーターは、LAN側でプライベートIPアドレスを使用し、DHCPサーバーとして動作するようにあらかじめ設定されています。 ルーターのデフォルトLAN IP設定は次のとおりです。

- **LAN IPアドレス** 192.168.1.1 (www.routerlogin.netと同じ)
- **サブネットマスク** 255.255.255.0

これらのアドレスは、プライベートネットワーク内で使用する指定プライベートアドレスの範囲内であり、ほとんどのアプリケーションに適しています。 IPアドレスと組み合わせて、サブネットマスクはどのアドレスがローカルであり、どのアドレスがゲートウェイやルーターを通さなければならないかを機器に知らせることができます。 ネットワーク上の1台以上の機器で使用する特定のIPサブネットが必要な場合、または競合サブネットが同じIPスキームを使用する場合、これらの設定を変更できます。

LAN IPアドレス設定を変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [設定] > [LAN設定]** を選択します。
   [LAN設定] ページが表示されます。
5. **[IPアドレス]** の欄に、ルーターのLAN IPアドレスを入力します。
6. **[サブネットマスク]** の欄に、ルーターのLANサブネットマスクを入力します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

   ルーターのLAN IPアドレスを変更した場合は、この変更が有効になると接続が切断されます。

   再接続するには、ブラウザーを閉じてから再起動し、新しいLAN IPアドレスのルーターにログインします。

ルーター情報プロトコル設定の管理

RIP (ルーター情報プロトコル) は、ルーター同士のルーティング情報のやり取りを可能にします。 デフォルトでは、RIPは特定のRIPバージョンなしで両方向 (受信および送信) で有効になっています。

RIP設定を管理します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [LAN設定]** を選択します。
   [LAN設定] ページが表示されます。
5. **[RIP通知の方向]** ドロップダウンリストからからRIP通知の方向を選択します。
   - **両方**: ルーターは、ルーティングテーブルを定期的にブロードキャストし、受信する情報を追加します。 これはデフォルトの設定です。
   - **送信のみ**:ルーターは、ルーティングテーブルを定期的にブロードキャストしますが、受信するRIP情報を追加しません。
   - **受信のみ**:ルーターは、受信するRIP情報を追加しますが、ルーティングテーブルをブロードキャストしません。
6. **[RIPバージョン]** ドロップダウンリストからRIPバージョンを選択します。
   - **無効**: RIPバージョンは無効です。 これはデフォルトの設定です。
   - **RIPバージョン1**:この形式は、ユニバーサルにサポートされています。 正常なネットワーク設定を使用している場合、ほとんどのネットワークで利用できます。

- **RIPバージョン2**: この形式では、より多くの情報を伝送します。 RIP_2BとRIP_2Mはどちらも RIPバージョン2形式でルーティングデータを送信します。 RIP_2Bはサブネットブロードキャストを使用します。 RIP_2Mはマルチキャストを使用します。

7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

DHCPサーバーアドレスプールの管理

デフォルトで、ルーターはDHCPサーバーとして動作します。 ルーターは、LANと無線LANネットワークに接続しているすべてのPCに対して、IPアドレス、DNSサーバーアドレス、デフォルトゲートウェイのアドレスを割り当てます。 割り当てられるデフォルトゲートウェイアドレスは、ルーターの LAN アドレスです。

これらのアドレスは、ルーターのLAN IPアドレスと同じIPアドレスサブネットに属している必要があります。 デフォルトのDHCPアドレスプールは192.168.1.2～192.168.1.254です。

ルーターは、DHCPを要求するLANデバイスに対し、次のパラメータを提供します。

- 指定した範囲内のIPアドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイIPアドレス (ルーターの LAN IPアドレス)
- DNSサーバーのIPアドレス (ルーターのLAN IPアドレス)

ルーターが割り当てるIPアドレスのプールを指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [LAN設定]** を選択します。
   [LAN設定] ページが表示されます。
5. **[ルーターをDHCPサーバーとして使用する]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
   既定では、このオプションは有効になっています。
6. ルーターが割り当てるIPアドレスの範囲を指定します。

   - **[開始IPアドレス]** の欄に、ルーターと同じサブネット内でIPアドレスプールの開始アドレスを入力します。

このIPアドレスは、ルーターと同じサブネット内にある必要があります。 デフォルトでは、開始IPアドレスは192.168.1.2です。

- **[終止IPアドレス]** の欄に、ルーターと同じサブネット内でIPアドレスプールの終止アドレスを入力します。
  このIPアドレスは、ルーターと同じサブネット内にある必要があります。 デフォルトでは、終止IPアドレスは192.168.1.254です。

7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

予約LAN IPアドレスの管理

LAN上のPCに予約IPアドレスを指定すると、このPCはルーターのDHCPサーバーにアクセスするたびに同じ IP アドレスを受けます。 予約IPアドレスは永久IP設定の必要なPCまたはサーバーに割り当てます。

予約IPアドレスの編集

予約アドレスエントリを編集します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [LAN設定]** を選択します。
   [LAN設定] ページが表示されます。
5. 編集したい予約アドレスの隣のラジオボタンを選択してください。
6. **[編集]** ボタンをクリックします。
   [予約アドレステーブル] ページが表示されます。
7. 設定を変更します。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

予約IPアドレスエントリの削除

予約アドレスエントリを削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [LAN設定]** を選択します。
   [LAN設定] ページが表示されます。
5. 削除したい予約アドレスの隣のラジオボタンを選択してください。
6. **[削除]** ボタンをクリックします。
   アドレスが削除されます。

内蔵DHCPサーバーの無効化

デフォルトで、ルーターはDHCPサーバーとして動作します。 ルーターは、LANに接続しているすべてのデバイスに対して、IPアドレス、DNSサーバーアドレス、デフォルトゲートウェイのアドレスを割り当てます。 割り当てられるデフォルトゲートウェイアドレスは、ルーターのLANアドレスです。

ネットワーク上の別の機器をDHCPサーバーとして使用したり、すべてのPCのネットワーク設定を指定したりすることもできます。

注 DHCPサーバーを無効にしたときにネットワーク上に他の利用可能なDHCPサーバーがない場合は、PCのIPアドレスを手動で設定してPCがルーターにアクセスできるようにする必要があります。

内蔵DHCPサーバーを無効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [LAN設定]** を選択します。
   [LAN設定] ページが表示されます。

5. **[ルーターをDHCPサーバーとして使用する]** チェックボックスのチェックを外します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

ルーター名の変更

ルーターのデフォルトのデバイス名はモデル番号です。

このデバイス名は、ネットワークを参照するとファイルマネージャーに表示されます。

ルーター名を変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [設定] > [LAN設定]** を選択します。
   [LAN設定] ページが表示されます。
5. **[機器名]** 欄に新しい名前を入力します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。
7. **[はい]** ボタンをクリックします。
   ルーターが再起動します。

カスタムの静的ルートの設定および管理

静的ルートは、ルーターに詳細なルーティング情報を提供します。通常は静的ルートを追加する必要はありません。静的ルートを設定する必要があるのは、ネットワークで複数のルーターや複数のIPサブネットを使用しているなどの特殊なケースに限られます。

静的ルートが必要とされる例として、次の場合が考えられます。

- 主要なインターネットアクセスが、プロバイダーへのADSLモデム経由である。
- ホームネットワーク上に、勤務先企業に接続するためのISDNルーターがある。 このルーターのLAN上のアドレスは192.168.1.100である。
- 勤務先企業のネットワークアドレスは134.177.0.0である。

初めてルーターを構成したとき、2つの絶対的な静的ルートが作成されました。 デフォルトのルートは、プロバイダーによりゲートウェイとして作成され、2つ目の静的ルートは、すべての192.168.1.xアドレス

のローカルネットワークに対して作成されました。 この設定では、134.177.0.0ネットワーク上の機器にアクセスしようとすると、ルーターはリクエストをプロバイダーに転送します。 プロバイダはあなたのリクエストを会社へ送りますが、会社のファイアウォールでこのリクエストは拒否されてしまう可能性が高くなります。

この場合、静的ルートを定義し、192.168.1.100にあるISDNルーター経由で134.177.0.0にアクセスすることをルーターに指示する必要があります。 以下に例を示します。

- ターゲットIPアドレスとサブネットマスクで、この静的ルートをすべての134.177.x.xアドレスに適用することを指定します。
- ゲートウェイIPアドレスで、これらのアドレスに対するすべてのトラフィックを192.168.1.100にあるISDNルーターに転送するよう指定します。
- ISDNルーターはLAN上にあるため、メトリック値として1を指定すれば正しく機能します。

静的ルートの設定

宛先IPアドレスへの静的ルートを追加し、サブネットマスク、ゲートウェイIPアドレスおよびメトリックを指定できます。

静的ルートを設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [静的ルート]** を選択します。
   [静的ルート] ページが表示されます。
5. **[追加]** ボタンをクリックします。
   ページの表示が変更されます。
6. ルートをプライベートにするには、**[プライベート]** チェックボックスを選択します。
   プライベート静的ルートはRIPで報告されません。
7. **[適用]**ボタンをクリックした後にルートがアクティブにならないようにするには、**[アクティブ]**チェックボックスのチェックを外します。
   状況に応じて、静的ルートを設定した後、無効にしておくこともできます。 デフォルトでは、**[アクティブ]** チェックボックスが選択されています。この場合、**[適用]** ボタンをクリックすると、ルートがアクティブになります。
8. 次の表の説明に従って設定を入力します。

項目	説明
ターゲットIPアドレス	ルートの最終的な宛先のIPアドレスを入力します。
サブネットマスク	ルートの最終的な宛先のIPサブネットマスクを入力します。 目的地がシングルホストの場合、「**255.255.255.255**」と入力します。
ゲートウェイ IP アドレス	ゲートウェイのIPアドレスを入力します。 ゲートウェイのIPアドレスは、ルーターと同じLANセグメント上にある必要があります。
メトリック	1～15の値を入力します。 この値は、現在のネットワークと目的地の間にあるルーターの数を表します。通常は2または3に設定すれば正しく機能しますが、直接接続の場合は**1**に設定します。

9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。 [静的ルート] ページの表にルートが追加されます。

静的ルートの変更

既存の静的ルートを変更できます。

静的ルートを変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [静的ルート]** を選択します。
   [静的ルート] ページが表示されます。
5. [静的ルート] の表で、目的のルートのラジオボタンを選択します。
6. **[編集]** ボタンをクリックします。
   ページの表示が変更されます。
7. ルートの設定を変更します。
   設定の詳細については、*静的ルートの設定*（114ページ）を参照してください。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   [静的ルート] ページの表のルートが更新されます。

静的ルートの削除

不要になった既存の静的ルートを削除できます。

静的ルートを削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [静的ルート]** を選択します。
   [静的ルート] ページが表示されます。
5. [静的ルート] の表で、目的のルートのラジオボタンを選択します。
6. **[削除]** ボタンをクリックします。
   [静的ルート] ページの表からルートが削除されます。

ポートグループまたはVLANタググループのブリッジの設定

IPTVなどの一部の機器は、ルーターのNAT(ネットワークアドレス変換)サービスまたはファイアウォールの外側では機能しません。 ご利用のプロバイダー (ISP) の要求に基づいて、それらの機器から直接プロバイダーのネットワークに接続する場合は、機器とルーターのインターネットポートの間でブリッジを有効にするか、新しいVLANタググループをブリッジに追加することができます。

注 プロバイダーからIPTVとインターネットサービスのブリッジの設定方法に関する指示がある場合は、その指示に従ってください。

ポートグループのブリッジの設定

ルーターの有線LANポートまたは無線ネットワークに接続されている機器の中にIPTVの機器が含まれている場合は、プロバイダーから、ルーターのインターネットインターフェイス用にポートグループのブリッジを設定するように求められることがあります。

ポートグループのブリッジを設定すると、IPTV機器とルーターのインターネットポートの間で送信されるパケットがルーターのNAT(ネットワークアドレス変換)サービスによって処理されないようにできます。

ポートグループを設定してブリッジを有効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [VLAN/ブリッジ設定]** を選択します。
   [VLAN/ブリッジ設定] ページが表示されます。

5. **[VLANタグを有効にする]** チェックボックスを選択します。
   ページが展開されます。

6. **[ブリッジグループごと]** ラジオボタンを選択します。
   ページの表示が変更されます。

7. [有線機器] のチェックボックスを選択するか、[ワイヤレス] のチェックボックスを選択します。
   - お使いの機器がルーターのLANポートに接続されている場合は、機器が接続されているルーターのLANポートに対応する [有線機器] のチェックボックスを選択します。
   - お使いの機器がルーターの無線LANネットワークに接続されている場合は、機器が接続されているルーターの無線LANネットワークに対応する [ワイヤレス] のチェックボックスを選択します。

   注 少なくとも1つの [有線機器] または [ワイヤレス] のチェックボックスを選択する必要があります。 複数のチェックボックスを選択できます。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

VLANタググループのブリッジの設定

ルーターの有線LANポートまたは無線ネットワークに接続されている機器の中にIPTV機器が含まれている場合は、プロバイダーから、ルーターのインターネットインターフェイス用にVLANタググループのブリッジを設定するように求められることがあります。

IPTVのサービスに加入している場合、ルーターはインターネットトラフィックとIPTVトラフィックの間でVLANタグを区別する必要があることがあります。VLANタググループのブリッジを設定すると、IPTV機器とルーターのインターネットポートの間で送信されるパケットがルーターのNAT (ネットワークアドレス変換) サービスによって処理されないようにできます。

ブリッジにVLANタググループを追加し、VLANタググループごとにVLAN IDと優先度の値を割り当てることができます。

VLANタググループを追加してブリッジを有効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [VLAN/ブリッジ設定]** を選択します。
   [VLAN/ブリッジ設定] ページが表示されます。

5. **[VLANタグを有効にする]** チェックボックスを選択します。
   ページが展開されます。

6. **[VLANタググループごと]** ラジオボタンを選択します。
   ページの表示が変更されます。

   ルーターには、Internetという名前のデフォルトのVLANタググループが含まれています。

7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   [VLAN/IPTV設定] ページが表示されます。

8. 次の表の説明に従って設定を指定します。

項目	説明
名前	VLANタググループの名前を入力します。 使用できるのは最大で10文字です。
VLAN ID	1～4094の値を1つ入力します。
優先度	0～7の値を1つ入力します。
有線LANポートまたは無線LANポートのチェックボックスを選択します。 お使いの機器がルーターのLANポートに接続されている場合は、機器が接続されているルーターのLANポートに対応するポートのチェックボックスを選択します。 お使いの機器がルーターの無線LANネットワークに接続されている場合は、機器が接続されているルーターの無線LANネットワークに対応する無線LANのチェックボックスを選択します。 少なくとも1つの有線LANポートまたは無線LANポートを選択する必要があります。 複数のポートを選択できます。	

9. **[追加]** ボタンをクリックします。
   VLANタググループが追加されます。

10. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存されます。

ルーターの管理

11

この章ルーターでは、ご利用のとホームネットワークを維持管理するためのルーター設定を説明しています。

この章には次の内容が含まれます。

- *ルーターファームウェアのアップデート*
- *管理者パスワードの変更*
- *管理者パスワードの復元の有効化*
- *管理者パスワードの復元*
- *ルーター設定ファイルの管理*
- *LEDの点滅の有効化/無効化、またはLEDのオフ*
- *ルーターを工場出荷時の設定に戻す*
- *ルーターのステータスと統計の表示*
- *アクティビティログの管理*
- *ネットワーク上にある機器の表示*
- *インターネットトラフィックの監視および測定*
- *リモートアクセス*

ルーターファームウェアのアップデート

ルーターにログインして新しいファームウェアが使用可能かどうかを確認することや、特定のファームウェアのバージョンをルーターに手動でロードすることができます。

新しいファームウェアの確認とルーターのアップデート

ルーターのファームウェア (ルーティングソフトウェア) はフラッシュメモリに保存されています。 ルーターの新しいファームウェアが利用可能になると、ルーターの管理ページの上部にメッセージが表示されることがあります。 そのメッセージをクリックしてファームウェアをアップデートすることも、手動で新しいファームウェアが利用可能かどうかを確認してアップデートすることもできます。

注 有線接続を使用してPCをルーターに接続し、ファームウェアを更新することをお勧めします。

最新ファームウェアをチェックし、ルーターを更新します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [管理者] > [ルーターのアップグレード]** を選択します。
   [ファームウェア更新] ページが表示されます。
5. **[確認]** ボタンをクリックします。
   使用可能なファームウェアがある場合は、ルーターに新しいファームウェアをダウンロードするかどうか確認するメッセージが表示されます。
6. **[はい]** ボタンをクリックします。
   ルーターがファームウェアを見つけてダウンロードし、アップデートを開始します。

警告
ファームウェアの破損を回避するため、アップデートを中断しないでください。 例えば、ブラウザーを閉じたり、リンクをクリックしたり、新しいページを読み込んだりしないでください。 ルーターの電源を切らないでください。

アップロードが完了すると、ルーターが再起動します。 アップデートプロセスは通常、約1分かかります。 新しいファームウェアのリリースノートを読み、アップデート後にルーターの再設定が必要かどうかを確認してください。

手動によるルーターへのファームウェアのアップロード

特定のファームウェアのバージョンをアップロードする場合、またはルーターでファームウェアの自動更新に失敗した場合は、次の手順に従います。

注 有線接続を使用してPCをルーターに接続し、ファームウェアをアップロードすることをお勧めします。

ファームウェアファイルをルーターに手動でアップロードします。

1. ルーターのファームウェアを*NETGEAR Download Center*からダウンロードして、デスクトップに保存し、必要に応じて解凍します。

   注 正しいファームウェアファイルでは、`.img`または`.chk`の拡張子が使用されています。

2. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
3. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
4. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
5. **[高度] > [管理者] > [ファームウェア更新]** を選択します。
   [ファームウェア更新] ページが表示されます。
6. **[ファイルを選択]** ボタンをクリックします。
7. PC上のファームウェアファイルを見つけて選択します。

   注 ファームウェアの破損を回避するため、アップデートを中断しないでください。 例えば、ブラウザーを閉じたり、リンクをクリックしたり、新しいページを読み込んだりしないでください。 ルーターの電源を切らないでください。 ルーターの再起動が完了するまで待ちます。 ルーターが再起動しない場合は、[高度] をクリックして [ルーター情報] ページで、新しいファームウェアのバージョンがアップロードされたかどうかを確認してください。

管理者パスワードの変更

管理者のユーザー名adminを使用して、ルーターにログインするためのデフォルトのパスワードを変更することができます。 このパスワードは、ワイヤレスアクセスに使用するパスワードとは異なります。

注 ユーザー名「admin」の管理者パスワードを安全なパスワードに変更してください。どの言語の辞書にある単語も使用せず、大文字と小文字、数字、記号を混在させることを推奨します。 使用できるのは最大で30文字です。

管理者のユーザー名を変更し、パスワードの復元を有効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [管理者] > [新しいパスワード]** を選択します。
   [新しいパスワード] ページが表示されます。
5. **[現在のパスワード]** 欄に古いパスワードを入力します。
6. **[新しいパスワード]** 欄および **[新しいパスワードの再入力]** 欄に新しいパスワードを入力します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

管理者パスワードの復元の有効化

管理者パスワードはルーターのWeb管理画面にログインするために使用されます。 パスワードを忘れた場合に復元できるように、パスワードの復元を有効にすることをお勧めします。 この復元プロセスは、Internet Explorer、Firefox、Chromeのブラウザーでサポートされますが、Safariブラウザーではサポートされません。

パスワードの復元を有効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [管理者] > [新しいパスワード]** を選択します。
   [新しいパスワード] ページが表示されます。
5. **[パスワード復元を有効にする]** チェックボックスを選択します。

6. セキュリティに関する2つの質問を選択し、それらの回答を入力します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

管理者パスワードの復元

パスワード復元機能を設定している場合は、ルーターの管理者パスワードを復元できます。

管理者パスワードを復元します。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. **[キャンセル]** ボタンをクリックします。
   パスワード復元が有効な場合は、ルーターのシリアルナンバーの入力が求められます。

   シリアルナンバーは、ルーターのラベルに記載されています。
4. ルーターのシリアルナンバーを入力します。
5. **[続ける]** ボタンをクリックします。
   セキュリティの質問への回答を求めるウィンドウが開きます。
6. セキュリティの質問に対する保存済みの回答を入力します。
7. **[続ける]** ボタンをクリックします。
   復元されたパスワードが表示されます。
8. **[もう一度ログイン]** ボタンをクリックします。
   ログインウィンドウが開きます。
9. 復元されたパスワードを使って、ルーターにログインします。

ルーター設定ファイルの管理

ルーターの設定は、ルーターの設定ファイルに保存されています。 このファイルは、PCにバックアップ(保存) したり、復元したり、工場出荷時の初期設定に戻したりすることができます。

設定のバックアップ

ルーターの設定をバックアップします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [管理者] > [設定のバックアップ]** を選択します。
   [設定のバックアップ] ページが表示されます。
5. **[バックアップ]** ボタンをクリックします。
6. ブラウザーの指示に従ってファイルを保存します。

設定の復元

バックアップした設定を復元します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [管理者] > [設定のバックアップ]** を選択します。
   [設定のバックアップ] ページが表示されます。
5. **[ファイルを選択]** ボタンをクリックし、`.cfg`ファイルを見つけて選択します。
6. **[復元]** ボタンをクリックします。
   ファイルがルーターにアップロードされ、ルーターが再起動します。

警告
復元プロセスを中断しないでください。

LEDの点滅の有効化/無効化、またはLEDのオフ

ルーターにログインして、LEDの点滅を有効または無効にします。 LEDをオフにすることもできます。

ルーターのウェブインターフェースを使用して、LEDの点滅を無効にするか、LEDをオフにします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [LEDコントロール設定]** を選択します。
   [LEDコントロール設定] ページが表示されます。

5. LED制御設定を選択します。

   - **データトラフィック検出時のインターネット LED、LAN LED、ワイヤレス LED、USB LED の点滅を有効にする**:標準のLED動作を許可します。 この設定はデフォルトでは有効になっています。
   - **データトラフィック検出時のインターネット LED、LAN LED、ワイヤレス LED、USB LED の点滅を無効にする**: データトラフィックを検出したときの点滅が無効になります。
   - **電源LED以外のすべてのLEDをオフにする**: 電源LED以外のすべてのLEDがオフになります。

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

ルーターを工場出荷時の設定に戻す

場合によっては(ルーターの設定に行った変更がわからなくなった場合、またはルーターを別のネットワークへ移動した場合など)、設定を消去して、ルーターを工場出荷時の設定にリセットする必要が生じることがあります。

ルーターの現在のIPアドレスがわからない場合は、ルーターを工場出荷時の設定にリセットする前に、IPスキャナーアプリケーションを使用してIPアドレスを検出する操作を試してください。

ルーターを工場出荷時の設定に戻すには、ルーターの背面の**リセット**ボタンまたはルーターの管理者ページからリセットを行います。 ただし、ルーターにアクセスするためのIPアドレスが見つからない場合やパスワードを忘れた場合は、**リセット**ボタンを使用する必要があります。

ルーターを工場出荷時の設定にリセットすると、ユーザー名がadmin、パスワードがpassword、LAN IPアドレスが192.168.1.1 (www.routerlogin.netと同じです) に設定され、DHCPサーバーが有効になります。

リセットボタンの使用

注意

この処理を実行すると、ルーターに設定したすべての設定が消去されます。

ルーターを工場出荷時の設定にリセットします。

1. ルーターの背面で**リセット**ボタンを見つけます。
2. まっすぐにしたペーパークリップを使用して、**リセット**ボタンを10秒以上押し続けます。
3. **リセット**ボタンを離します。

電源LEDが点滅し始めます。 リセットが完了すると、ルーターが再起動します。 この処理には2分ほどかかります。

警告

ファームウェアの破損を回避するため、リセットを中断しないでください。 たとえば、ルーターのWebインターフェイスに接続しているときにブラウザーを閉じたり、リンクをクリックしたり、新しいページを読み込んだりしないでください。 ルーターの電源を切らないでください。 ルーターの再起動が完了するまで待ちます。

設定の消去

注意

この処理を実行すると、ルーターに設定したすべての設定が消去されます。

設定を消去します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [管理者] > [設定のバックアップ]** を選択します。
   [設定のバックアップ] ページが表示されます。
5. **[消去]** ボタンをクリックします。
   設定が工場出荷時の設定にリセットされます。 リセットが完了すると、ルーターが再起動します。 この処理には2分ほどかかります。

警告

ファームウェアの破損を回避するため、リセットを中断しないでください。 例えば、ブラウザーを閉じたり、リンクをクリックしたり、新しいページを読み込んだりしないでください。 ルーターの電源を切らないでください。 ルーターの再起動が完了するまで待ちます。

ルーターのステータスと統計の表示

ルーターとそのポートおよびインターネット接続と無線LANネットワークのステータスに関する情報を表示できます。 さらに、さまざまなポートのトラフィック統計を表示できます。

ルーター、インターネットおよびワイヤレス設定に関する情報の表示

ルーター情報、ポートのステータスおよび無線LAN設定を表示できます。

ルーター、インターネット、モデムおよび無線LAN設定に関する情報を表示します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度]** タブをクリックします。
   NETGEAR genieの高度なホームページが表示されます。

   このページの情報は、次のカラーコーディングを使用します。

   - 緑色のマークは、インターネット接続が正常であり、問題がないことを示します。 無線LANネットワークの場合、ネットワークが有効で、セキュリティ保護されていることを示します。
   - 赤色のマークは、インターネット接続の設定に問題があるか、接続がダウンしていることを示します。 無線LANネットワークの場合、ネットワークが無効であるかまたはダウンしていることを示します。
   - オレンジ色のマークは、インターネットポートが設定されているが、ケーブルが接続されていないなどの理由でインターネットに接続できないこと、無線LANネットワークが有効になっているが保護されていないこと、またはユーザーの注意が必要なその他の状況を示します。

インターネットポート統計の表示

インターネットポート統計を表示します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度]** タブをクリックします。
   NETGEAR genieの高度なホームページが表示されます。

5. [インターネットポート] のカテゴリで、**[統計を表示]** ボタンをクリックします。
   ウィンドウが開き、以下の情報が表示されます。

   - **システムの稼働時間**: ルーターが最後に再起動されてからの経過時間です。
   - **ポート**: WAN (インターネット) ポート、LAN (イーサネット) ポート、WLANの統計情報です。 各ポートについて、ウィンドウに以下の情報が表示されます。

     - **ステータス**: ポートのリンクステータスです。
     - **送信パケット数**: リセットまたは手動でのクリア後に、このポートで送信されたパケットの数です。
     - **受信パケット数**: リセットまたは手動でのクリア後に、このポートで受信されたパケットの数です。
     - **コリジョン**: リセットまたは手動でのクリア後に、このポートで発生したコリジョンの数です。
     - **送信速度**: WANポートやLANポートで使用された現在の送信速度です。
     - **受信速度**: WANポートやLANポートで使用された現在の受信速度です。
     - **稼働時間**: このポートが接続されてからの経過時間です。
     - **サンプリング間隔**: このページで統計が更新される間隔です。

6. サンプリングの周期を変更するには、**[サンプリング間隔]** 欄に時間を秒単位で入力し、**[間隔の設定]** ボタンをクリックします。
   完全にサンプリングを停止するには、**[停止]** ボタンをクリックします。

インターネット接続ステータスの確認

インターネット接続ステータスを確認します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度]** タブをクリックします。
   NETGEAR genieの高度なホームページが表示されます。

5. [インターネットポート] のカテゴリで、**[接続ステータス]** ボタンをクリックします。
   [接続ステータス] ウィンドウが開き、以下の情報が表示されます。

   - **IPアドレス**: ルーターに割り当てられた IP アドレスです。
   - **サブネットマスク**: ルーターに割り当てられたサブネットマスクです。
   - **デフォルトゲートウェイ**: ルーターが通信するデフォルトゲートウェイの IP アドレスです。
   - **DHCPサーバー**: ルーターに接続されたすべてのPCに対し TCP/IP 構成を提供する DHCP サーバーの IP アドレスです。
   - **DNSサーバー**:ネットワーク名からIPアドレスへの変換機能を提供するDNSサーバーのIPアドレスです。
   - **リース取得**: リースが取得された日付と時刻です。
   - **リース期限**: リースが期限切れになる日付と時刻です。

6. 全項目のステータスを0に戻すには、**[リリース]** ボタンをクリックします。
7. 画面を更新するには、**[更新]** ボタンをクリックします。
8. この画面を終了するには、**[ウィンドウを閉じる]** ボタンをクリックします。

アクティビティログの管理

ログは、ネットワーク上のユーザーがアクセスしたサイトやアクセスしようとしたサイト、その他のルーターアクティビティの詳細な記録です。ログには最大256のエントリが保存されます。ログに記録するアクティビティを管理できます。

ログの表示、メール送信または消去

ログは、表示する以外に、メールで送信したり、消去したりすることができます。

ログを表示、メール送信または消去します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [管理者] > [ログ]** を選択します。
   [ログ] ページには以下の情報が表示されます。

- **アクション**:インターネットアクセスがブロックされた、または許可されたなどの、発生したアクションです。
- **ソース**:このログエントリのターゲットデバイス、アプリケーションまたはWebサイトの名前、IPアドレスまたはMACアドレスです。
- **ターゲット**: このログエントリのターゲットデバイス、アプリケーションまたはWebサイトの名前、IPアドレスまたはMACアドレスです。
- **日付と時刻**: アクションが発生した日付と時刻です。

5. ログ画面を更新するには、**[更新]** ボタンをクリックします。
6. ログを消去するには、**[ログを消去]** ボタンをクリックします。
7. ログを直ちにメールで送信するには、**[ログ送信]** ボタンをクリックします。
   ルーターは、指定されたアドレスにログを電子メールで送信します (*セキュリティイベントのメール通知の設定*（77ページ）を参照)。

ログに記録するアクティビティの指定

ログに記録するアクティビティを指定できます。 これらのアクティビティはログに表示され、syslogサーバー機能を有効にした場合は、syslogサーバーに転送されます。

ログに記録するアクティビティを管理します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [管理者] > [ログ]** を選択します。
   [ログ] ページが表示されます。
5. ログに記録するアクティビティに対応するチェックボックスを選択します。
   デフォルトではすべてのチェックボックスが選択されています。
6. ログに記録しないアクティビティに対応するチェックボックスの選択を解除します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

ネットワーク上にある機器の表示

現在ネットワークに接続されているすべてのPCや機器を表示できます。

ネットワーク上にある機器を表示します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[接続デバイス]** を選択します。
   以下の情報が表示されます。
   - **接続タイプ**: 有線か、または無線(ワイヤレス)の接続です。
   - **機器名**: 機器の名前が認識されている場合は、ここに表示されます。
   - **IPアドレス**: この機器がネットワークに接続したときにルーターから割り当てられたIPアドレスです。 この数値は、機器がネットワークから切断され、再度接続すると変わることがあります。
   - **MAC アドレス**: 各デバイスの一意のMACアドレスで、変更されることはありません。 MACアドレスは通常、製品ラベルに記載されています。
5. ページを更新するには、**[更新]** ボタンをクリックします。

インターネットトラフィックの監視および測定

トラフィックメーターを使用すると、ルーターのインターネットポートを通過するインターネットトラフィックの量を監視したり、トラフィックの量を制御したり、毎月の量を制御したり、またはトラフィック使用状況のライブアップデートを取得することもできます。

トラフィック容量の制限を使用しないトラフィックメーターの開始

上限を設定せずにトラフィックの容量を監視できます。

トラフィックの容量の制限を設定せずにトラフィックメーターを開始または再開します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [トラフィックメーター]** を選択します。
   [トラフィックメーター] ページが表示されます。

5. **[トラフィックメーターを有効にする]** チェックボックスを選択します。
   デフォルトでは、トラフィックの上限は指定されておらず、トラフィック容量は制御されません。
6. [トラフィックカウンター] 欄で、特定の日時に始まるようにトラフィックカウンターを設定します。
7. トラフィックカウンターを直ちに始めるには、**[カウンターをリセットする]**ボタンをクリックします。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存され、ルーターが再起動します。

   [インターネットトラフィック統計] セクションは、データトラフィックの監視に役立ちます。 詳細については、*インターネットトラフィックの容量および統計の表示*（132ページ）を参照してください。

インターネットトラフィックの容量および統計の表示

トラフィックメーターを有効にした場合、インターネットトラフィックの容量と統計を表示できます。

インターネットトラフィックの容量と統計をトラフィックメーターで表示します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [トラフィックメーター]** を選択します。
   [トラフィックメーター] ページが表示されます。
5. [インターネットトラフィック統計] セクションまで下へスクロールします。
   [インターネットトラフィック統計] セクションには、トラフィックカウンターが開始した日時と、トラフィックバランスの状況が表示されます。 表には、接続時間とMB単位のトラフィック容量に関する情報が表示されます。
6. ページの情報を更新するには、**[更新]** ボタンをクリックします。
   情報が更新されます。
7. データトラフィックに関する詳細情報を表示したり、サンプリング間隔を変更するには、**[トラフィックステータス]** ボタンをクリックします。
   [トラフィックステータス] ポップアップウィンドウが表示されます。

容量によるインターネットトラフィックの制限

容量 (MB単位) でトラフィックを記録し制限できます。 これはプロバイダーが容量でトラフィックを測定するときに役立ちます。

容量でインターネットトラフィックを記録し制限します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [トラフィックメーター]** を選択します。
   [トラフィックメーター] ページが表示されます。
5. **[トラフィックメーターを有効にする]** チェックボックスを選択します。
6. **[トラフィック容量の制御]** ラジオボタンを選択します。
7. 対応するメニューから、オプションを選択します。
   - **ダウンロードのみ**: 制限は受信トラフィックにのみ適用されます。
   - **双方向**: 制限は受信と送信双方のトラフィックに適用されます。
8. **[月次制限]** 欄に、月あたりの許可されるMB数を入力します。
9. 新しい接続を作成するとプロバイダーが追加のデータ容量に対して課金する場合は、**[各接続のデータ容量をラウンドアップ]** 欄に、その追加データ容量をMB単位で入力します。
10. [トラフィックカウンター] 欄で、特定の日時に始まるようにトラフィックカウンターを設定します。
11. 月次制限の時間数に達する前にルーターから警告メッセージを発行する場合は、[トラフィック制御] セクションに指定する値を分単位で入力します。
    この設定はオプションです。 残り時間が入力した分数を下回ると、ルーターは警告を発行します。 デフォルトの値は0で、警告メッセージは発行されません。
12. 上限に達したときに行うアクションとして、以下のいずれかを選択します。
    - **インターネットLEDを緑に点滅させます**: この設定はオプションです。 トラフィックの上限に達すると、インターネットLEDが点滅します。
    - **インターネット接続を切断し、無効にする**: この設定はオプションです。 トラフィックの上限に達すると、インターネット接続が切断され無効になります。
13. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存され、ルーターが再起動します。

    [インターネットトラフィック統計] セクションは、データトラフィックの監視に役立ちます。

接続時間によるインターネットトラフィックの制限

接続時間でトラフィックを記録し制限できます。 これはプロバイダーが接続時間を測定するときに役立ちます。

接続時間でインターネットトラフィックを記録し制限します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [トラフィックメーター]** を選択します。
   [トラフィックメーター] ページが表示されます。
5. **[トラフィックメーターを有効にする]** チェックボックスを選択します。
6. **[接続時間制御]** ラジオボタンを選択します。

   注 **[接続時間制御]** ラジオボタンを選択するには、ルーターがインターネットに接続している必要があります。

7. **[月次制限]** 欄に、月あたりの許可される時間数を入力します。

   注 **[月次制限]** 欄に情報を入力するには、ルーターがインターネットに接続している必要があります。

8. [トラフィックカウンター] 欄で、特定の日時に始まるようにトラフィックカウンターを設定します。
9. 月次制限の時間数に達する前にルーターから警告メッセージを発行する場合は、[トラフィック制御] セクションに指定する値を分単位で入力します。
   この設定はオプションです。 残り時間が入力した分数を下回ると、ルーターは警告を発行します。 デフォルトの値は0で、警告メッセージは発行されません。
10. 上限に達したときに行うアクションとして、以下のいずれかを選択します。
    - **インターネットLEDを緑に点滅させるます**: この設定はオプションです。 トラフィックの上限に達すると、インターネットLEDが点滅します。
    - **インターネット接続を切断し、無効にする**: この設定はオプションです。 トラフィックの上限に達すると、インターネット接続が切断され無効になります。
11. **[適用]** ボタンをクリックします。
    設定が保存され、ルーターが再起動します。

    [インターネットトラフィック統計] セクションは、データトラフィックの監視に役立ちます。

トラフィックの上限に達した後のトラフィックメーターのブロック解除

トラフィックの上限に達した後でインターネット接続を切断し無効にするようにトラフィックメーターを設定した場合、トラフィックメーターをブロック解除するまでインターネットにアクセスできません。

注意

プロバイダーがトラフィックの上限を設定している場合は、超過したトラフィックに対して課金されることがあります。

トラフィックメーターをブロック解除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [トラフィックメーター]** を選択します。
   [トラフィックメーター] ページが表示されます。
5. [トラフィック制御] セクションで、**[インターネット接続を切断し、無効にする]** チェックボックスの選択を解除します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存され、ルーターが再起動します。

リモートアクセス

インターネット経由でルーターにアクセスしてルーターの設定を確認または変更することができます。 この機能を使用するには、ルーターのWAN IPアドレスが必要です。

注 ユーザー名「admin」の管理者パスワードを安全なパスワードに変更してください。どの言語の辞書にある単語も使用せず、大文字と小文字、数字、記号を混在させることを推奨します。 使用できるのは最大で30文字です。 *管理者パスワードの変更*（121ページ）を参照してください。

リモート管理の設定

リモート管理を設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [リモート管理]** を選択します。
   [リモート管理] ページが表示されます。
5. **[リモート管理を有効にする]** チェックボックスを選択します。
6. [次のリモートアクセスを許可] セクションで、ルーターのリモート管理にアクセスすることを許可する外部IPアドレスを指定します。

   注 安全性を高めるためには、アクセスをできるだけ限られた外部IPアドレスのみに限定することを推奨します。

   以下のいずれかを選択します。
   - **このコンピューターのみ**: インターネットの1つのIPアドレスからのアクセスを許可します。 アクセスを許可するIPアドレスを入力します。
   - **IPアドレス範囲**: インターネットの一定の範囲のIPアドレスからのアクセスを許可します。 開始IPアドレスと終止IPアドレスを入力し、許可する範囲を定義します。
   - **全員**: インターネットのすべてのIPアドレスからのアクセスを許可します。
7. ルーターのWebインターフェイスにアクセスするためのポート番号を指定します。
   通常のWebブラウザーアクセスでは、標準HTTPサービスのポート80が使用されます。 安全を高めるためには、リモートルーターWebインターフェイス用のカスタムポート番号を入力してください。 1024から65535までの番号を選択してください。ただし、共通サービスポートの番号は使用しないでください。 デフォルトは8443です。これは、HTTP用の一般的な代替ポート番号です。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

リモートアクセスの使用

リモートアクセスを使用します。

1. ホームネットワーク上にないPCやモバイル端末でWebブラウザーを起動します。
2. ルーターのWAN IPアドレスをブラウザーのアドレス欄や場所の欄に入力し、コロン (:) で区切ってからカスタムポート番号を入力します。

例えば、外部アドレスが134.177.0.123で、ポート番号8443を使用する場合、ブラウザーには「**http://134.177.0.123:8443**」と入力します。

高度な無線LAN機能の管理

12

この章では、ルーターの高度な無線LAN機能を管理する方法について説明します。

この章には次の内容が含まれます。

- *無線LANスケジュールの設定*
- *WPS設定の管理*
- *高度な無線LAN設定の管理*
- *ルーターによる無線LANクライアントの管理方法の指定*
- *ルーターと別のデバイスとの間の無線LANブリッジの設定*
- *無線LANアクセスポイントとしてのみのルーターの使用*

無線LANスケジュールの設定

無線LAN接続が不要な間はルーターの無線LAN信号を切断することができる機能です。 例えば、週末不在にする間にオフにすることができます。 WiFi周波数ごとに別個の無線LANスケジュールを設定することができます。

WiFi周波数の無線LANスケジュールを設定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択します。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
5. 2.4 GHz帯または5 GHz帯の [高度なワイヤレス設定] セクションで、**[新しい期間を追加]** ボタンをクリックします。
   [ワイヤレス信号をオフにする時間] ページが表示されます。
6. ドロップダウンリスト、ラジオボタン、チェックボックスを使用して、無線LAN信号をオフにする期間を設定し、スケジュールを反復するかどうかを指定します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
8. **[スケジュールされた無線LAN接続のオフ]**チェックボックスを選択してスケジュールを有効にします。
9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

WPS設定の管理

Wi-Fi Protected Setup (WPS) を使用すると、無線LANのパスワードを入力しなくても無線LANネットワークに参加できます。 WPSのデフォルト設定を変更できます。

WPS設定を管理します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択します。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。

5. ページの下部にある [WPS設定] セクションまで下にスクロールします。
   [ルーターのPIN] 欄に、WPS経由で別のプラットフォームからルーターの無線LAN設定を構成するために使用する固定PINが表示されます。

6. PINを無効にするには、**[ルーターのPINを有効にする]** チェックボックスの選択を解除します。
   デフォルトでは、**[ルーターのPINを有効にする]** チェックボックスが選択され、ルーターのPINが有効になっています。 セキュリティを強化するため、**[ルーターのPINを有効にする]** チェックボックスの選択を解除して、ルーターのPINを無効にすることができます。 ただし、ルーターのPINを無効にしてもWPSは無効になりません。これは、物理**WPS**ボタンを引き続き使用できるためです。

   注 WPS経由でルーターのPINを使用して、ルーターの無線LAN設定に侵入しようとする疑いがルーターで検出されると、PIN機能は自動的に一時的に無効になります。PIN機能を無効にする前にPIN接続の失敗が許可される回数を設定できます。

7. WPSを使用するときに無線LAN設定が自動的に変更されるようにするには、**[既存のワイヤレス設定を適用する]** チェックボックスの一方または両方の選択を解除します。
   デフォルトでは、両方の **[既存のワイヤレス設定を適用する]** チェックボックスが選択されています。これらのチェックボックスは選択されたままにすることを推奨します。 このチェックボックスの選択を解除した場合、次に新しい無線LAN子機がWPSを使用してルーターに接続すると、ルーターの関連付けられている無線LAN設定が変更されて、自動的に生成されたランダムなSSIDとパスフレーズになります。

   [既存のワイヤレス設定を適用する] チェックボックスは、WPSプロセスが無線LANアクセス用の関連付けられているSSIDとパスフレーズを変更できるようにする場合にのみ選択を解除してください。

   警告
   [既存のワイヤレス設定を適用する] チェックボックスの選択を解除している状態で、WPSを使用してPCまたはモバイルデバイスをルーターのワイヤレスネットワークに追加すると、関連付けられたSSIDとパスフレーズが自動的に生成されます。このとき、すでにルーターのワイヤレスネットワークに接続しているその他のデバイスは切断されることがあります。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

高度な無線LAN設定の管理

ほとんどの無線LANネットワークでは高度な無線LAN設定が正常に機能するため、設定を変更する必要はありません。

ヒント ルーターのメインネットワークの無線LAN設定を変更する場合は、有線接続を使用してください。これは、新しい無線LAN設定が有効になるときに無線LAN接続が切断されることを避けるためです。

高度な無線LAN設定を管理します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択します。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
5. 次の表の説明に従って設定を入力します。
   表の説明は、ワイヤレスネットワーク (2.4 GHz b/g/n) セクションとワイヤレスネットワーク (5 GHz a/n/ac) セクションの両方に適用されます。

項目	説明
フラグメンテーション長 (256-2346)	フラグメンテーション長 (デフォルトは2346)、CTS/RTSしきい値 (デフォルトは2347)、およびプリアンブルモード (デフォルトは [ロングプリアンブル]) は、WiFiテストおよび高度な設定用のみに予約されています。 これらの設定は、NETGEARサポートから指示がない限り、またはこれらの設定に関する十分な知識がない限り、変更しないでください。 設定が不適切な場合は、ルーターのWiFi機能が予期せずに無効になることがあります。
CTS/RTSしきい値 (1～2347)	
プリアンブルモード	

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

ルーターによる無線LANクライアントの管理方法の指定

無線LANクライアントとは、ルーターの無線LANネットワークに接続する任意のPCまたはモバイルデバイスです。 ルーターはエアタイムフェアネス、インプリシットビームフォーミングおよびMU MIMOを使用して、無線LANクライアントを管理します。 エアタイムフェアネスとインプリシットビームフォーミング

はデフォルトで有効になっていますが、無効にすることができます。MU-MIMOはデフォルトで無効になっていますが、有効にすることができます。

エアタイムフェアネスの管理

エアタイムフェアネスを有効にすると、すべてのクライアントにネットワーク上で均等に時間を与えます。 ネットワークリソースはデータ量ではなく時間で分割されるため、例えば5つのクライアントが接続されている場合は、それぞれがネットワーク時間を1/5ずつ使うことになります。 そのため、速度の最も遅いクライアントによってスループットが低下してしまうことがなくなります。 この機能はデフォルトで有効になっていますが、無効にすることもできます。

エアタイムフェアネスを無効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択します。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
5. ページの最下部までスクロールし、**[AIRTIME FAIRNESSを有効にする]** チェックボックスの選択を解除します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

   無線LAN経由でネットワークに接続している場合は、ネットワークから切断され、再接続する必要があります。

インプリシットビームフォーミングの管理

インプリシットビームフォーミングは、エクスプリシットビームフォーミングとは対照的です。エクスプリシットビームフォーミングでは、ルーターはクライアントをアクティブに追跡し、クライアントに最も近いルーターアンテナに出力を向けます。エクスプリシットビームフォーミングは、クライアントがビームフォーミングに対応しているかどうかに関わらず動作します。ルーターのインプリシットビームフォーミングは、ビームフォーミングに対応しているクライアントデバイスからの情報を使用して無線LANの通信状況を向上させる技術です。この機能はデフォルトで有効になっていますが、無効にすることもできます。

インプリシットビームフォーミングを無効にする:

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択します。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。

5. ページの最下部までスクロールし、**[Implicit BEAMFORMINGを有効にする]** チェックボックスの選択を解除します。

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

   無線LAN経由でネットワークに接続している場合は、ネットワークから切断され、再接続する必要があります。

MU-MIMOの管理

MU-MIMO (Multiuser multiple input, multiple output) は、MU-MIMOをサポートする複数の無線LANクライアントが同時にデータを転送する場合にパフォーマンスを向上させます。 無線LANクライアントはMU-MIMOをサポートする必要があり、5 GHzの無線LAN帯域に接続する必要があります。 この機能はデフォルトでは無効になっていますが、有効にすることもできます。

MU-MIMOを有効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。

2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。

3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択します。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。

5. ページの最下部までスクロールし、**[MU-MIMOを有効にする]** チェックボックスを選択します。

6. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

   無線LAN経由でネットワークに接続している場合は、ネットワークから切断され、再接続する必要があります。

ルーターと別のデバイスとの間の無線LANブリッジの設定

ルーターを無線LANブリッジとして使用して、複数のデバイスを無線LANで接続できます (たとえば高速な802.11 ac速度で)。 それには、ルーターのほかに、別の無線LANルーターまたはアクセスポイント (AP) が必要です。1つのデバイスはDSLまたはケーブルモデム経由でインターネットに接続され、もう1つは無

線LANブリッジとして機能します。 ルーターをインターネットモデムに接続し、ルーターまたはAPを無線LANブリッジとして使用できます (ルーターまたはAPが無線LANブリッジとして機能できると想定)。 または逆に、ルーターまたはAPをインターネットモデムに接続し、ルーターを無線LANブリッジとして使用できます。

2つのルーターを使用して無線LANブリッジを設定すると、次のような利点があります。

- お使いの機器でギガビット無線LAN速度を利用できます。
- ビデオやゲームなどのアプリケーションでギガビット無線LANを使用できます。
- ワイヤレスリンクを使用してNAS、Smart TV、NeoTV、Blu-rayプレイヤー、ゲームコンソールなどの複数の機器をギガビット無線LAN速度で接続できます。
- 機器ごとに個別の無線LANアダプターを用意する必要がなくなります。

例えば、1台目のルーターは、インターネット接続があるホームオフィスなどの部屋に設置します。

次に、2台目のルーターを無線LANブリッジとして設定し、ホームエンターテインメントの設備の整った部屋などの別の部屋に配置します。 無線LANブリッジとして機能するルーターをSmart TV、DVR、ゲームコンソール、Blu-rayプレイヤーなどにケーブル接続し、802.11ac無線LAN接続を使用して1台目のルーターに接続します。

インターネットモデムに接続されているルーターには特別な設定は必要ありません。無線LANブリッジとして機能するルーターは、ほかの無線LANクライアントと同様に、無線LANクライアントとして既存のSSIDに接続するためです。

ルーターを無線LANブリッジとして設定します。

1. インターネットモデムに接続されているもう1つのルーターの無線LAN設定をメモします。
   SSID、セキュリティモード、ネットワークキー (パスワード)、動作周波数 (2.4 GHzまたは5 GHz) が必要になります。
2. 無線LANブリッジとして設定しているルーターのネットワークに接続されているPCまたはモバイルデバイスからWebブラウザーを起動します。
3. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
4. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
5. **[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択します。
   高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
6. 最下部までスクロールして、**[ほかのモードを使用]** チェックボックスを選択します。
7. **[ブリッジモードを有効にする]** ラジオボタンを選択します。
   ブリッジモードの設定がページに表示されます。
8. **[ブリッジモードワイヤレス設定をセットアップする]** ボタンをクリックします。
   [ワイヤレス設定] ページが表示されます。

9. インターネットモデムに接続されているルーター (つまり、もう*1*つのルーター) の無線LAN設定を入力します。

   a. **[ワイヤレスネットワークを選択してください]** メニューから、もう1つのルーターの無線LAN帯域を選択します。

      802.11 ACモードでは、両方のルーターが同じ5 Ghz帯域を使用する必要があります。

   b. **[ネットワーク名 (SSID)]** 欄に、もう1つのルーターが使用している無線LANネットワーク名 (SSID) を入力します。

   c. [セキュリティオプション] セクションで、もう1つのルーターが使用している無線LANセキュリティのラジオボタンを選択します。

   d. メッセージが表示されたら、パスワード (もう1つのルーターに無線LAN接続するときに使用する無線LANパスワード) を入力します。

10. **[適用]** ボタンをクリックします。

    設定が保存され、ポップアップウィンドウが閉じます。

11. ルーターの名前を変更するには、**[機器名]** 欄に新しい名前を入力します。

    デフォルトでは、機器名はルーターモデルです。 ルーターを無線LANブリッジとして設定し、インターネットモデムに接続されているルーターの名前と区別する場合は、たとえば名前を*無線LANブリッジ*または類似するものに変更できます。

12. 無線LANブリッジとして機能するルーターが、インターネットモデムに接続されているルーターからIPアドレスとDNSアドレスを動的に取得できるようにするには、**[IPアドレスを動的に取得]** および **[DNSアドレスを動的に取得]** チェックボックスを選択したままにします。

    [IPアドレスを動的に取得] および **[DNSアドレスを動的に取得]** チェックボックスは選択したままにすることをお勧めします。 静的IPアドレスを使用する必要があることが確実な場合は、インターネットモデムに接続されているルーターのLAN IPアドレスプールのIPアドレスを使用します。 無線LANブリッジとして機能するルーターの静的IPアドレスを指定するには、次の手順を実行します。

    a. **[IPアドレスを動的に取得]** チェックボックスの選択を解除します。

       [DNSアドレスを動的に取得] チェックボックスの選択は自動的に解除されます。

    b. すべての静的IPアドレス情報および、該当する場合は静的DNSアドレス情報を入力します。

13. **[適用]** ボタンをクリックします。

    設定が保存されます。 ルーターは、新しいIPアドレスで再起動します。

14. 再接続するには、ブラウザーを閉じてから再起動し、「**http://www.routerlogin.net**」と入力してルーターにログインします。

    ルーターが無線LANブリッジとして機能する場合、無線LAN設定は変更できません。そのため、[ワイヤレスネットワーク] ページ (**[基本] > [ワイヤレス]**) の設定はマスクされます。 ただし、設定を元に戻す場合は、高度なワイヤレス設定のページ (**[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]**) で無線LANブリッジオプションを無効にできます (**[ほかのモードを使用]** チェックボックスの選択を解除)。

無線LANアクセスポイントとしてのみのルーターの使用

ルーターは、デフォルトでルーターとしてもAP (アクセスポイント) としても動作します。 ルーターをアクセスポイントとしてのみ動作するように設定することで、別のルーターと同じローカルネットワーク内

で動作させることができます。 ルーターをアクセスポイントとしてのみ動作するように設定した場合、ルーターの多くの機能が無効になります。

ヒント ルーターの機能を変更する場合は、有線接続を使用してください。これは、新しい機能が有効になるときに接続が切断されることを避けるためです。

ルーターをアクセスポイントモードのみに変更します。

1. LANケーブルを使用して、ルーターの背面パネルの黄色のインターネットポートを別のルーターのLANポートに接続します。
2. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
3. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
4. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
5. **[高度] > [高度な設定] > [ワイヤレスアクセスポイント]** を選択します。
   [ワイヤレスアクセスポイント] ページが表示されます。
6. **[アクセスポイントモードを有効にする]** チェックボックスを選択します。
   ページが展開されます。
7. 下にスクロールし、使用するIPアドレス設定のラジオボタンを選択します。
   - **既存のルーターから自動的に取得**:ルーターがアクセスポイントモードで動作しているときに、ネットワーク上の別のルーターがこのルーターにIPアドレスを割り当てます。 これはデフォルトの設定です。
   - **固定IPアドレスを使用 (推奨しません)**: このルーターがアクセスポイントモードで動作しているときに特定のIPアドレスを手動で割り当てる場合は、この設定を使用します。 このオプションを使用するには、ネットワークに関する知識が必要です。

   注 ネットワーク上の他のルーターやゲートウェイとの干渉を避けるため、ルーターごとに異なる無線LAN設定を使用することを推奨します。 他のルーターやゲートウェイの無線LANをオフにし、無線LAN子機のアクセス用にはルーターのみを使用することもできます。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   ルーターのIPアドレスが変更され、切断されます。
9. 再接続するには、Webブラウザーを閉じてから再起動し、「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。

VPNを使用したネットワークへのアクセス 13

OpenVPNソフトウェアを使用すると、VPN (Virtual Private Networking) を介してルーターにリモートアクセスすることができます。 この章では、VPNアクセスを設定して使用する方法について説明します。

この章には次の内容が含まれます。

- *VPN接続の設定*
- *ルーターでのVPNサービスの設定*
- *OpenVPNソフトウェアのインストール*
- *Windows PCでのVPNトンネルの使用*
- *ルーターのUSB対応機器とメディアへのVPNを使用したアクセス*
- *VPNトンネルを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス*

VPN接続の設定

VPN (Virtual Private Network) を利用すると、家にいないときにインターネットを使用して自宅のネットワークに安全にアクセスできます。

このタイプのVPNアクセスは、クライアントとゲートウェイ間のトンネルと呼ばれます。 PCがクライアントで、ルーターがゲートウェイです。 VPN機能を使用するには、ルーターにログインしてVPNを有効にする必要があります。 また、PCにVPNクライアントソフトウェアをインストールして実行する必要があります。

VPNはダイナミックDNS (DDNS) または静的IPアドレスを使用してルーターに接続します。

DDNSサービスを使用するには、ホスト名 (ドメイン名と呼ばれる場合があります) を指定してアカウントを登録します。 このホスト名を使用して、ネットワークにアクセスします。 ルーターは、NETGEAR、No-IP、Dynのアカウントをサポートします。

ご利用のプロバイダー (ISP) から、お使いのインターネットアカウントに静的WAN IPアドレス (50.196.x.xや10.x.x.xなど) が割り当てられている場合、VPNでは、そのIPアドレスを使用してホームネットワークに接続することができます。

ルーターでのVPNサービスの設定

VPN接続を使用する前に、ルーターでVPNサービスを設定する必要があります。

VPNサービスを設定します。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [VPNサービス]** を選択します。
   VPNのページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** チェックボックスを選択します。
   デフォルトで、VPNはUDPサービスタイプを使用し、ポート12974を使用します。 サービスタイプとポートをカスタマイズする場合、NETGEARは、これらの設定を変更してからOpenVPNソフトウェアをインストールすることを推奨します。
6. サービスタイプを変更するには、下にスクロールして、**[TCP]** ラジオボタンを選択します。
7. ポートを変更するには、**[サービスポート]** の欄まで下にスクロールして、使用したいポート番号を入力します。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   変更内容が保存されます。 ルーターでVPNが有効になりますが、VPN接続を使用する前に、OpenVPNソフトウェアをPCにインストールして設定する必要があります。

OpenVPNソフトウェアのインストール

OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各Windows PC、Mac、iOSデバイス、Androidデバイスにインストールする必要があります。

Windows PCへのOpenVPNソフトウェアのインストール

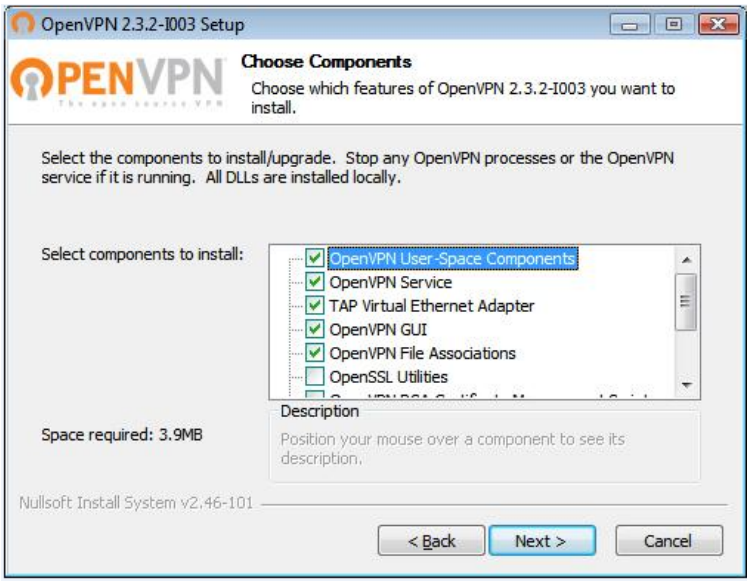
OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各Windows PCにインストールする必要があります。

VPNクライアントソフトウェアをWindows PCにインストールします。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [VPNサービス]** を選択します。
   [VPNサービス] ページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. ページで任意のVPNサービス設定を指定します。
   詳細については、*ルーターでのVPNサービスの設定*（148ページ）を参照してください。
7. **[Windows]** ボタンをクリックし、OpenVPNの設定ファイルをダウンロードします。
8. *openvpn.net/index.php/download/community-downloads.html*(英語) にアクセスし、OpenVPNクライアントユーティリティをダウンロードします。
9. ページの [Windows Installer (Windowsインストーラー)] のカテゴリで、**openVPN-install-xxx.exe** リンクをダブルクリックします。
10. Open VPNソフトウェアをPCにダウンロードしてインストールするには、**openVPN-install-xxx.exe** ファイルをクリックします。
    OpenVPNのインストールウィンドウが開きます。
11. **[Next (次へ)]** ボタンをクリックします。

12. 使用許諾契約書を読み、**[I Agree (同意する)]** ボタンをクリックします。



13. 図に示すようにチェックボックスを選択した状態にして、**[Next (次へ)]** ボタンをクリックします。
14. インストール先フォルダーを指定するには、**[Browse (参照)]** ボタンをクリックし、インストール先フォルダーを選択します。

    [Windowsセキュリティ] ウィンドウが開きます。

15. **[Install (インストール)]** ボタンをクリックします。

    ウィンドウにインストールの進行状況が表示され、その次に、最後のインストールページが表示されます。

16. **[Finish (完了)]** ボタンをクリックします。
17. ダウンロードした設定ファイルを解凍し、VPNクライアントがインストールされている、デバイス上のフォルダーにコピーします。

    Windows64ビットシステムのクライアント機器の場合、VPNクライアントはデフォルトでは`C:\Program files\OpenVPN\config\`にインストールされています。

18. Windowsのクライアントデバイスの場合は、VPNインターフェイス名を**NETGEAR-VPN**に変更します。

    a. PCで、[ネットワーク] ページに移動します。 Windows 10を使用している場合は、**[コントロールパネル] > [ネットワークと共有センター] > [アダプターの設定を変更]** を選択します。

    b. ローカルエリア接続のリストで、デバイス名が**TAP-Windows Adapter**であるローカルエリア接続を見つけます。

    c. そのローカルエリア接続を選択し、接続の名前 (機器名とは異なります) を**NETGEAR-VPN**に変更します。

       VPNインターフェイス名を変更しないと、VPNトンネル接続が失敗します。

Windows PCでのOpenVPNの使用の詳細については、*https://openvpn.net/index.php/open-source/documentation/howto.html#quick* を参照してください (英語)。

MacへのOpenVPNソフトウェアのインストール

OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各Macにインストールする必要があります。

VPNクライアントソフトウェアをMacにインストールします。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [VPNサービス]** を選択します。
   [VPNサービス] ページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. ページで任意のVPNサービス設定を指定します。
   詳細については、*ルーターでのVPNサービスの設定*（148ページ）を参照してください。
7. **[Mac OS X]** ボタンをクリックし、OpenVPNの設定ファイルをダウンロードします。
8. *https://tunnelblick.net/index.html*にアクセスし、Mac OS X用のOpenVPNクライアントユーティリティをダウンロードします。
9. ファイルをダウンロードしてインストールします。
10. ダウンロードした設定ファイルを解凍し、VPNクライアントがインストールされている、デバイス上のフォルダーにコピーします。
    クライアントユーティリティのインストールは、管理者権限を持つユーザーが行う必要があります。

    MacでのOpenVPNの使用の詳細については、*https://openvpn.net/index.php/access-server/docs/admin-guides/183-how-to-connect-to-access-server-from-a-mac.html* を参照してください (英語)。

iOSデバイスへのOpenVPNソフトウェアのインストール

OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各iOSデバイスにインストールする必要があります。

VPNクライアントソフトウェアをiOSデバイスにインストールします。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [VPNサービス]** を選択します。
   [VPNサービス] ページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. ページで任意のVPNサービス設定を指定します。
   詳細については、*ルーターでのVPNサービスの設定*（148ページ）を参照してください。
7. **[スマートフォン用]** ボタンをクリックし、OpenVPNの設定ファイルをダウンロードします。
8. iOSデバイスで、Apple社のApp StoreからOpenVPN Connectアプリをダウンロードしてインストールします。
9. PCで、ダウンロードした設定ファイルを解凍してiOSデバイスに送信します。
   .ovpnファイルを開くと、アプリのリストが表示されます。 OpenVPN Connectアプリを選択して.ovpnファイルを開きます。

   iOSデバイスでのOpenVPNの使用の詳細については、*http://www.vpngate.net/en/howto_openvpn.aspx#ios* を参照してください (英語)。

AndroidデバイスへのOpenVPNソフトウェアのインストール

OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各Androidデバイスにインストールする必要があります。

VPNクライアントソフトウェアをAndroidデバイスにインストールします。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [VPNサービス]** を選択します。
   [VPNサービス] ページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. ページで任意のVPNサービス設定を指定します。
   詳細については、*ルーターでのVPNサービスの設定*（148ページ）を参照してください。
7. **[スマートフォン用]** ボタンをクリックし、OpenVPNの設定ファイルをダウンロードします。
8. Androidデバイスで、Google PlayストアからOpenVPN Connectアプリをダウンロードしてインストールします。

9. PCで、ダウンロードした設定ファイルを解凍してAndroidデバイスに送信します。
10. Androidデバイスでファイルを開きます。
11. OpenVPN Connectアプリを使用して.ovpnファイルを開きます。

    AndroidデバイスでのOpenVPNの使用の詳細については、*http://www.vpngate.net/en/howto_openvpn.aspx#android* を参照してください (英語)。

Windows PCでのVPNトンネルの使用

VPNを使用するようにルーターを設定し、PCにOpenVPNアプリケーションをインストールしたら、インターネット経由でPCからルーターまでVPNトンネルを開くことができます。

VPNトンネルが正しく機能するためには、リモートのルーターのローカルLAN IPアドレスで使われているLAN IP方式が、VPNクライアントPCが接続されているローカルLANのLAN IP方式とは異なっている必要があります。 両方のネットワークが同じLAN IP方式を使用していると、VPNトンネルが確立されたときにOpenVPNソフトウェアで家庭のルーターやホームネットワークにアクセスすることができません。

ルーターのデフォルトのLAN IPアドレス方式は、192.x.x.xです。 最もよく使われるIP方式は、192.x.x.x、172.x.x.x、および10.x.x.xです。 競合が発生する場合は、ホームネットワークのIP方式、またはVPNクライアントPCが属するネットワークのIP方式のいずれかを変更してください。

VPNトンネルを開きます。

1. 管理者権限を使用してOpenVPNアプリケーションを起動します。

   Windowsタスクバーに **[OpenVPN]** アイコンが表示されます。

   ヒント VPNプログラムへのショートカットを作成してから、そのショートカットを使用して設定にアクセスし、**[管理者として実行]** チェックボックスを選択します。こうすると、このショートカットを使用するたびに、OpenVPNが管理者権限で自動的に実行されます。

2. **[OpenVPN]** アイコンを右クリックし、**[接続]** を選択します。

   VPN接続が確立されます。 次のことを実行できます。

   - Webブラウザーを起動し、ルーターにログインする。
   - Windowsファイルマネージャーを使用してルーターのUSB対応機器にアクセスし、ファイルをダウンロードする。

ルーターのUSB対応機器とメディアへのVPNを使用したアクセス

USBデバイスにアクセスし、VPNを使用してWindows PCからファイルをダウンロードします。

1. Windows PCでWindowsファイルマネージャーを開いて、**[ネットワーク]** を選択します。

   注 ネットワークリソースの表示方法については、PCのマニュアルを参照してください。

   ネットワークリソースが表示されます。 **ReadySHARE**のアイコンは [コンピューター] のセクションに表示され、リモートルーターのアイコンは [メディア機器] のセクション (ルーターでDLNAが有効になっている場合) に表示されます。

2. アイコンが表示されていない場合は、**[更新]** ボタンをクリックしてウィンドウを更新します。
   ローカルLANとリモートLANが同じIP方式を使用していると、リモートのルーターアイコンは [メディア機器] や [ネットワーク インフラストラクチャ] のセクションに表示されません。

3. USBドライブにアクセスするには、**[ReadySHARE]** アイコンをクリックします。
4. ルーターのネットワーク上にあるメディアにアクセスするには、リモートルーターのアイコンをクリックします。

VPNトンネルを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス

自宅のホームネットワークにアクセスします。

1. 自宅のホームネットワークへのVPNアクセスを許可するようにルーターを設定します。
   ルーターでのVPNクライアントインターネットアクセスの設定（155ページ）を参照してください。

2. PCで、OpenVPNアプリケーションを起動します。
   Windowsタスクバーに **[OpenVPN]** アイコンが表示されます。

3. アイコンを右クリックし、**[接続]** をクリックします。
4. VPN接続が確立されたら、インターネットブラウザーを開きます。

ルーターでのVPNクライアントインターネットアクセスの設定

デフォルトでは、ルーターはホームネットワークに対するVPN接続のみを許可するように設定されていますが、インターネットアクセスを許可するように設定を変更できます。VPN経由でリモートからインターネットにアクセスすると、インターネットに直接アクセスするより速度が遅い場合があります。

VPNクライアントに自宅のホームネットワークの使用を許可します。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [VPNサービス]** を選択します。
   VPNのページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** ラジオボタンを選択します。
6. [クライアントはアクセスにこのVPN接続を使用します。]セクションまで下にスクロールして、**[インターネットおよびホームネットワーク上のすべてのサイト]** ラジオボタンを選択します。
   ローカルのインターネットサービスを使用する代わりにVPN接続を使用してインターネットにアクセスするときには、ホームネットワークからインターネットサービスを使用します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。
8. **[Windows]** ボタンまたは **[Mac OS X]** ボタンをクリックし、VPNクライアント用の設定ファイルをダウンロードします。
9. 設定ファイルを解凍し、VPNクライアントがインストールされている、デバイス上のフォルダーにコピーします。
   Windows64ビットシステムのクライアント機器の場合、VPNクライアントはデフォルトでは`c:\Program files\OpenVPN\config\`にインストールされています。

ルーターでのVPNクライアントインターネットアクセスの禁止

デフォルトでは、ルーターは、ホームネットワークへのVPN接続だけを許可し、ホームネットワーク用のインターネットサービスへのVPN接続は許可しないように設定されています。 この設定は、インターネットアクセスを許可するように変更しても、元に戻すことができます。

VPNクライアントにホームネットワークへのアクセスのみを許可します。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの基本ホームページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [VPNサービス]** を選択します。
   [VPN] ページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** ラジオボタンを選択します。
6. [クライアントはアクセスにこのVPN接続を使用します。]セクションまで下にスクロールして、**[ホームネットワークのみ]** ラジオボタンを選択します。
   これはデフォルトの設定です。VPN接続は、ホームネットワークに対してのみで、ホームネットワーク用のインターネットサービスに対しては許可されません。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。
8. **[Windows]** ボタンまたは **[Mac OS X]** ボタンをクリックし、VPNクライアント用の設定ファイルをダウンロードします。
9. 設定ファイルを解凍し、VPNクライアントがインストールされている、デバイス上のフォルダーにコピーします。
   Windows64ビットシステムのクライアント機器の場合、VPNクライアントはデフォルトでは`c:\Program files\OpenVPN\config\`にインストールされています。

VPNを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス

外出先でインターネットにアクセスするときには、通常、ローカルのインターネットサービスプロバイダーを使用します。例えば、コーヒーショップでは、その店のインターネットサービスアカウントを使用してWebページを閲覧できるようにするコードが提供されることがあります。

本ルーターでは、外出しているときに、VPN接続を使用して、自分が利用中のインターネットサービスにアクセスできます。家で使用しているインターネットサービスが利用できない場所に旅行する場合などでも使えます。

ポート転送とポートトリガーの管理 14

ポート転送とポートトリガーを使用して、サービスとアプリケーションのインターネットトラフィックのルールを設定できます。 これらの機能を設定するには、ネットワークの知識が必要です。

この章には次の内容が含まれます。

- *サービスとアプリケーションのローカルサーバーへのポート転送の管理*
- *サービスとアプリケーションのポートトリガーの管理*

サービスとアプリケーションのローカルサーバーへのポート転送の管理

サーバーがネットワークの一部である場合、特定のタイプの受信トラフィックがサーバーに到達することを許可できます。例えば、ローカルのWebサーバー、FTPサーバー、ゲームサーバーをインターネットから表示でき、使用できるようにすることもできます。

ルーターは、特定のプロトコルを使用する受信トラフィックを、ローカルネットワーク上のPCに転送できます。アプリケーション用のサーバーの指定が可能で、ルーターがその他の受信プロトコルすべてを転送する宛先となるデフォルトDMZサーバーを指定することもできます(*デフォルトDMZサーバーの設定*（105ページ）を参照してください)。

デフォルトのサービスまたはアプリケーションの受信トラフィックの転送

デフォルトのサービスまたはアプリケーション宛てのトラフィックをネットワーク上のPCに転送できます。

デフォルトのサービスまたはアプリケーションの受信トラフィックを転送します。

1. どのタイプのサービス、アプリケーション、またはゲームを提供するかを決めます。
2. サービスを提供する、ネットワーク上のPCのローカルIPアドレスを調べます。
   サーバーPCは常に同じIPアドレスを受信する必要があります。この設定を指定するには、予約IPアドレス機能を使用します。*予約LAN IPアドレスの管理*（111ページ）を参照してください。
3. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
4. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
5. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
6. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
7. **[ポート転送]** ラジオボタンが選択されていることを確認します。
8. **[サービス名]** メニューで、サービスまたはアプリケーションを選択します。
   追加するサービスまたはアプリケーションがリストに含まれていない場合は、カスタムサービスまたはアプリケーションでポート転送ルールを作成します (*カスタムサービスまたはアプリケーションでのポート転送ルールの追加*（159ページ）を参照してください)。
9. **[内部IPアドレス]** 欄に、サービスを提供するPCまたはアプリケーションを実行するPCのIPアドレスを入力します。
10. **[追加]** ボタンをクリックします。
    設定が保存され、ルールが表に追加されます。

カスタムサービスまたはアプリケーションでのポート転送ルールの追加

ルーターには、ポート転送ルールで使用できるデフォルトのサービスとアプリケーションが用意されています。サービスまたはアプリケーションが事前に定義されていない場合は、カスタムサービスまたはアプリケーションでポート転送ルールを追加できます。

カスタムサービスまたはアプリケーションでポート転送ルールを追加します。

1. サービスまたはアプリケーションが使用するポート番号または番号の範囲を確認します。
   この情報は通常、サービスまたはアプリケーションの提供者、ユーザーグループまたはニュースグループに問い合わせることで確認できます。
2. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
3. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
4. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
5. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
6. **[ポート転送]** ラジオボタンが選択されていることを確認します。
7. **[カスタムサービスの追加]** ボタンをクリックします。
   [ポート転送 - カスタムサービス] ページが表示されます。
8. 次の表に示すように、カスタムサービスまたはアプリケーションで新しいポート転送ルールを指定します。

項目	説明
サービス名	カスタムサービスまたはアプリケーションの名前を入力します。
サービスタイプ	サービスまたはアプリケーションに関連付けられるプロトコル(**[TCP]** または**[UDP]**)を選択します。 不明な場合は、**[TCP/UDP]** を選択してください。
外部ポート範囲	サービスまたはアプリケーションが単一のポートを使用する場合は、**[外部ポート範囲]** 欄にポート番号を入力します。 サービスまたはアプリケーションがポートの範囲を使用する場合は、**[外部ポート範囲]** 欄に範囲を入力します。 1つの範囲を指定するには、ポート番号の間にダッシュを使用します。 複数の範囲を指定するには、範囲をカンマで区切ります。

(続き)

項目	説明
内部ポート範囲	次のどちらかの方法で、内部ポートを指定します。 • 外部ポートと内部ポートが同じ場合は、**[内部ポートに同じポート範囲を使用]** チェックボックスを選択した状態にします。 • サービスまたはアプリケーションが単一のポートを使用する場合は、**[内部ポート範囲]** 欄にポート番号を入力します。 • サービスまたはアプリケーションがポートの範囲を使用する場合は、**[内部ポート範囲]** 欄に範囲を入力します。 1つの範囲を指定するには、ポート番号の間にダッシュを使用します。 複数の範囲を指定するには、範囲をカンマで区切ります。
内部IPアドレス	**[内部IPアドレス]** 欄にIPアドレスを入力するか、表に示されている接続デバイスのラジオボタンを選択します。

9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。 ルールが [ポート転送/ポートトリガー] ページの表に追加されます。

ポート転送ルールの変更

既存のポート転送ルールを変更できます。

ポート転送ルールを変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. **[ポート転送]** ラジオボタンが選択されていることを確認します。
6. 表で、目的のサービスまたはアプリケーション名のラジオボタンを選択します。
7. **[サービスの編集]** ボタンをクリックします。
   [ポート転送 - カスタムサービス] ページが表示されます。
8. 設定を変更します。

設定については、*カスタムサービスまたはアプリケーションでのポート転送ルールの追加*（159ページ）を参照してください。

9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。変更されたルールが[ポート転送/ポートトリガー]ページの表に表示されます。

ポート転送ルールの削除

不要になったポート転送ルールを削除できます。

ポート転送ルールを削除します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. **[ポート転送]** ラジオボタンが選択されていることを確認します。
6. 表で、目的のサービスまたはアプリケーション名のラジオボタンを選択します。
7. **[サービスの削除]** ボタンをクリックします。
   表からルールが削除されます。

(オプション) ローカルWebサーバーの公開

ローカルネットワークでWebサーバーをホストしている場合、ポート転送を使用して、インターネット上の任意のユーザーからのWebリクエストがWebサーバーに到達できるようにします。

ローカルWebサーバーを公開します。

1. Webサーバーに、固定IPアドレスを割り当てるか、DHCPアドレス予約を使用して動的IPアドレスを割り当てます。
   この例では、ルーターは常に、Webサーバーに対してIPアドレス192.168.1.33を指定します。
2. [ポート転送/ポートトリガー]ページで、**192.168.1.33**にあるWebサーバーのローカルアドレスにHTTPサービスを転送するようにルーターを設定します。
   HTTP (ポート80) は、Webサーバーの標準プロトコルです。
3. (オプション) ダイナミックDNSサービスにホスト名を登録し、ルーターの [ダイナミックDNS] ページでその名前を指定します。

ダイナミックDNSによって、Webブラウザーに名前を入力可能になるため、インターネットからサーバーへのアクセスが大幅に容易になります。 この方法を使用しない場合は、プロバイダーが割り当てたIPアドレスを知っておく必要があり、一般に、このアドレスは変化します。

ルーターでのポート転送ルールの実行方法

次の手順は、ポート転送ルールを設定する効果を説明しています。

1. ブラウザーにURLとして「www.example.com」と入力すると、ブラウザーは以下の宛先情報とともにWebページリクエストメッセージを送信します。

   - **ターゲットアドレス**: www.example.comのIPアドレスで、これはルーターのアドレスです。
   - **ターゲットポート番号**: 80です。これがWebサーバープロセスの標準ポート番号です。

2. ルーターはメッセージを受信し、受信ポート80のトラフィックに関するポート転送ルールを見つけます。
3. ルーターはメッセージ内の宛先IPアドレスを192.168.1.123に変更し、メッセージをそのPCに送信します。
4. IPアドレス192.168.1.123にあるウェブサーバーがリクエストを受信し、ルーターに応答メッセージを送信します。
5. ルーターがソースIPアドレスに対するネットワークアドレス変換 (NAT) を実行し、Webページリクエストを送信したPCまたはモバイルデバイスに、インターネット経由で応答を送信します。

サービスとアプリケーションのポートトリガーの管理

ポートトリガーは、以下の場合に役立つ動的なポート転送の拡張機能です。

- アプリケーションがポート転送を複数のローカルPCに対して使用する必要がある (ただし同時には使用しない)。
- アプリケーションが、送信ポートとは異なる受信ポートを開く必要がある。

ポートトリガーの使用時に、ルーターはユーザーが指定した送信「トリガー」ポートからインターネットに向かうトラフィックを監視します。 そのポートからの送信トラフィックについて、ルーターはトラフィックを送信したPCのIPアドレスを保存します。 ルーターは、受信ポートまたはユーザーがルールで指定したポートを一時的に開き、その受信トラフィックを宛先に転送します。

ポート転送では、ポート番号またはポートの範囲から、単一のローカルPCへの静的なマッピングが作成されます。 ポートトリガーは、必要なときに任意のPCに対して動的にポートを開き、必要でなくなったときにポートを閉じることができます。

注 マルチプレイヤーゲーム、ピアツーピア接続、インスタントメッセージングなどのリアルタイムコミュニケーション、リモートアシスタンスといったアプリケーションを使用する場合は、UPnP (Universal Plug-N-Play) を有効にしてください。 *Universal Plug and Playによるネットワーク接続の改善*（46ページ）を参照してください。

ポートトリガールールの追加

ルーターには、ポートトリガールールのデフォルトのサービスやアプリケーションは用意されていません。ポートトリガールールごとにカスタムサービスまたはアプリケーションを定義する必要があります。

ポートトリガールールを追加します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. **[ポートトリガー]** ラジオボタンを選択します。
   ポートトリガー設定が表示されます。
6. **[サービスの追加]** ボタンをクリックします。
   [ポートトリガールール] ページが表示されます。
7. 次の表に示すように、カスタムサービスまたはアプリケーションで新しいポートトリガールールを指定します。

項目	説明
サービス	
サービス名	カスタムサービスまたはアプリケーションの名前を入力します。
サービスユーザー	**[サービスユーザー]** メニューから **[すべて]** を選択するか、**[単一アドレス]** を選択して1台のPCのIPアドレスを入力します。 • **すべて**:これはデフォルト設定で、インターネット上のすべてのPCにこのサービスの使用を許可します。 • **単一アドレス**:サービスは特定のPCに限定されます。この欄にIPアドレスを入力すると、そのIPアドレスをメニューから選択できるようになります。
サービスタイプ	サービスまたはアプリケーションに関連付けられるプロトコル(**[TCP]** または **[UDP]**)を選択します。
トリガーポート	受信ポートを開く送信トラフィックポートの番号を入力します。
必要な受信接続	
サービスタイプ	受信接続に関連付けられるプロトコル (**[TCP]** または **[UDP]**) を選択します。 不明な場合は、**[TCP/UDP]** を選択してください。

(続き)

項目	説明
開始ポート	受信接続の開始ポート番号を入力します。
終止ポート	受信接続の終了ポート番号を入力します。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存され、ルールが [ポート転送/ポートトリガー] ページの [ポートトリガーポートマップ表] に追加されます。

ポートトリガールールの変更

既存のポートトリガールールを変更できます。

ポートトリガールールを変更します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. **[ポートトリガー]** ラジオボタンを選択します。
   ポートトリガー設定が表示されます。
6. [ポートトリガーポートマップ表] で、目的のサービスまたはアプリケーション名のラジオボタンを選択します。
7. **[サービスの編集]** ボタンをクリックします。
   [ポートトリガールール] ページが表示されます。
8. 設定を変更します。
   設定については、*ポートトリガールールの追加*（163ページ）を参照してください。
9. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。 変更されたルールが [ポート転送/ポートトリガー] ページの [ポートトリガーポートマップ表] に表示されます。

ポートトリガールールの削除

不要になったポートトリガールールを削除できます。

ポートトリガールールを削除します。

1. ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. **[ポートトリガー]** ラジオボタンを選択します。
   ポートトリガー設定が表示されます。
6. [ポートトリガーポートマップ表] で、目的のサービスまたはアプリケーション名のラジオボタンを選択します。
7. **[サービスの削除]** ボタンをクリックします。
   [ポートトリガーポートマップ表] からルールが削除されます。

ポートトリガーのタイムアウトの指定

ポートトリガーのタイムアウト時間は、ルーターがアクティビティを検出しないときに受信ポートを開いたままにする時間を制御します。 ルーターはサービスまたはアプリケーションがいつ終了したかを検出できないため、タイムアウト時間が必要になります。

ポートトリガーのタイムアウトを指定します。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. **[ポートトリガー]** ラジオボタンを選択します。
   ポートトリガー設定が表示されます。

6. **[ポートトリガーのタイムアウト時間]** 欄に、最大9999分の値を入力します。
   デフォルトの設定は20分です。

7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

ポートトリガーを無効にする

ポートトリガーはデフォルトで有効になっています。ポートトリガーは、ポートトリガールールを削除することなく、一時的に無効にすることができます。

ポートトリガーを無効にします。

1. ルーターネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザーを開きます。
2. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー]** を選択します。
   [ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. **[ポートトリガー]** ラジオボタンを選択します。
   ポートトリガー設定が表示されます。
6. **[ポートトリガーを無効にする]** チェックボックスを選択します。
   このチェックボックスが選択されていると、ポートトリガールールを指定した場合でも、ルーターはポートトリガールールを適用しません。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
   設定が保存されます。

適用例: インターネットリレーチャットのためのポートトリガー

FTPサーバーやIRCサーバーなどの一部のアプリケーションサーバーは、複数のポート番号に応答を送信します。ポートトリガーを使用すると、特定の送信ポートのセッション開始後に、より多くの受信ポートを開くようにルーターに指示できます。

例となるのはインターネットリレーチャット (IRC) です。 PCは宛先ポート6667でIRCサーバーに接続します。 IRCサーバーはソースポートに応答するだけでなく、ポート113でPCに“識別”メッセージも送信します。 ポートトリガー使用時には、ルーターに、“ユーザーが宛先ポート6667でセッションを開始したら、ポート113上の受信トラフィックが発信元PCに到達することも許可しなければならない”と指示できます。

次の手順は、このポートトリガールールを設定する効果を説明しています。

1. PCで、IRCクライアントプログラムを開いてチャットセッションを開始します。
2. IRCクライアントは、宛先ポート番号として、IRCサーバープロセスの標準ポート番号である6667を使用して、IRCサーバーに対するリクエストメッセージを作成します。 次に、PCがこのリクエストメッセージをルーターに送信します。
3. ルーターは、内部セッションテーブルに、PCとIRC サーバー間の通信セッションについて記述するエントリを作成します。 ルーターは元の情報を保存し、ソースのアドレスとポートについてネットワークアドレス変換 (NAT) を実行して、このリクエストメッセージをインターネット経由でIRCサーバーに送信します。
4. ルーターは、ユーザーのポートトリガールールを認識し、宛先ポート番号6667を観察して、ポート113の受信トラフィックをすべてPCに送信する別のセッションエントリを作成します。
5. IRCサーバーは、NATに割り当てられたソースポート (例: ポート33333) を宛先ポートとして使用してルーターに応答メッセージを送信し、さらに宛先ポート113を使用してルーターに「識別」メッセージを送信します。
6. ルーターは、宛先ポート33333へのメッセージを受信すると、セッションテーブルをチェックし、ポート番号33333のセッションがアクティブかどうかを確認します。 アクティブなセッションを見つけたら、ルーターはNATによって置き換えられた元のアドレス情報を復元し、この応答メッセージをPCに送信します。
7. ルーターは、宛先ポート113への受信メッセージを受信すると、セッションテーブルをチェックし、ポート番号113でPCと関連付けられているアクティブセッションを検出します。 ルーターはメッセージの宛先IPアドレスを、PCのIPアドレスで置き換えて、メッセージをPCに転送します。
8. ユーザーがチャットセッションを終了すると、ルーターは最終的に、通信中にアクティビティのない時間を検出します。 ルーターは次に、セッションテーブルからそのセッションの情報を削除し、ポート番号33333や113では、受信トラフィックが受け入れられなくなります。

トラブルシューティング

15

この章では、ルーターで発生する可能性のある問題の診断と解決に役立つ情報を提供します。 この章で解決策が見つからない場合は、*http://support.netgear.com*にあるNETGEARサポートサイトで製品や連絡先の情報をご確認ください。

この章には次の内容が含まれます。

- *トラブルシューティングのヒント*
- *LEDを使用したトラブルシューティング*
- *ルーターにログインできない*
- *インターネットにアクセスできない*
- *インターネット閲覧のトラブルシューティング*
- *変更が保存されない*
- *無線LAN接続のトラブルシューティング*
- *pingユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング*

トラブルシューティングのヒント

このセクションでは、一般的ないくつかのトラブルシューティングのヒントを示します。

ネットワークを再起動する手順

ネットワークを再起動する必要がある場合は、以下の手順に従います。

1. モデムの電源を切り、電源コードを抜きます。
2. ルーターの電源をオフにします。
3. モデムの電源コードを接続し、電源を入れます。 2分間待ちます。
4. ルーターの電源を入れ、2分間待ちます。

LANケーブルの接続の確認

デバイスの電源が入らない場合、LANケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認します。 LANケーブルがルーターに接続され、モデムがしっかりと接続されており、モデムとルーターの電源が入っている場合、ルーターのインターネットLEDが点灯します。 電源が入っているPCがLANケーブルでルーターに接続されている場合、対応する番号のLANポートLEDが点灯します。

ワイヤレス設定

PCとルーターのWiFi設定が完全に一致しているかどうか確認してください。 ルーターとPCなどの無線LAN子機のネットワーク名 (SSID) とセキュリティ設定が、一致している必要があります。

アクセス制御を設定した場合は、各無線LAN子機のMACアドレスを、ルーターのアクセス制御に追加する必要があります。

ネットワーク設定

子機のネットワーク設定が正しいことを確認します。 有線接続の子機や無線LAN接続の子機は、ルーターと同じネットワーク上のネットワークIPアドレスを使用する必要があります。 最も簡単な方法は、DHCPを使用してIPアドレスを自動的に取得するようにそれぞれの子機を設定することです。

一部のプロバイダーでは、最初にアカウントに登録された子機のMACアドレスを使用する必要があります。 MACアドレスは、[接続デバイス] ページで参照できます。

LEDを使用したトラブルシューティング

デフォルトでは、ルーターはLEDをオンにするよう設定されています。

ルーターの電源を入れたときのLEDの動作

ルーターの電源を入れた後、LEDが以下のように動作することを確認します。

1. 最初に電源を入れたときに、電源LEDが点灯することを確認します。
2. 約2分経過したら、以下のことを確認します。
   - インターネットLEDが点灯している。
   - 無線LANをオフにしていなければ無線LAN LEDが点灯している。

ルーター前面のLEDをトラブルシューティングに使用できます。

電源LEDが消灯または点滅している

これにはいくつかの原因が考えられます。 以下のことを確認してください。

- 電源アダプターがルーターにしっかりと接続されていて、コンセントにしっかり接続されていることを確認します。
- 製品本体に同梱の電源アダプターを使用していることを確認します。
- 電源LEDがゆっくり続けて点滅する場合、ルーターのファームウェアが破損しています。 これは、ファームウェアの更新が妨げられたり、ルーターがファームウェアの問題を検出した場合に起こる可能性があります。 エラーが解決されない場合は、ハードウェアに問題がある可能性があります。 復元の手順やハードウェアの問題に関するサポートについては、*http://www.netgear.jp/supportInfo/*でテクニカルサポートにお問い合わせください。

インターネットまたはLANポートのLEDが消灯している

イーサネット接続が行われたときにLANポートLEDまたはインターネットLEDが点灯しない場合は、以下のことを確認してください。

- LANケーブル接続が、ルーター側とモデムまたはPC側でしっかりと確立されているかどうかを確認してください。
- 接続したモデムやPCの電源が入っていることを確認します。
- 正しいケーブルを使っていることを確認します。

ルーターのインターネットポートをモデムに接続するときには、モデムに付属していたケーブルを使用してください。 このLANケーブルは、標準のストレートケーブルまたはクロスケーブルです。

ルーターにログインできない

ローカルネットワークのPCからルーターにログインできない場合は、以下を点検してください。

- 有線で接続している場合は、PCとルーターの間のケーブルを確認します。
- PCのIPアドレスが、ルーターと同じサブネット上にあることを確認します。 推奨されるアドレス方式を使用している場合、PCのアドレスは192.168.1.2から192.168.1.254までの範囲内になります。

- 子機のIPアドレスが169.254.x.xのように表示される場合、新しいバージョンのWindows OSやMac OSでは、子機がDHCPサーバーに到達できないときにIPアドレスを生成し、割り当てます。 これらの自動生成されたアドレスは169.254.x.xの範囲内になります。 IPアドレスがこの範囲内にある場合は、PCからルーターへの接続を確認し、PCを再起動してください。
- ルーターの IP アドレスが変更され、現在の IP アドレスが分からない場合は、ルーターの設定を工場出荷時の初期設定に戻してください。 初期化すると、ルーターの IP アドレスが192.168.1.1に戻ります。
- ブラウザーでJava、JavaScript、またはActiveXが有効になっていることを確認します。 Internet Explorerを使用している場合は、**[更新]** ボタンをクリックして、Javaアプレットが確実に読み込まれるようにします。
- ブラウザーを終了し、もう一度起動してみてください。
- 正しいログイン情報を使用していることを確認します。ユーザー名は「**admin**」で、デフォルトパスワードは「**password**」です。 この情報を入力するときにCaps Lockがオフになっていることを確認してください。
- ネットワーク上で、ADSLゲートウェイの代替としてNETGEAR ルーターを設定しようとしている場合、ルーターは多くのゲートウェイサービスを実行することができません。例えば、ルーターはADSLデータやケーブルデータをイーサネットネットワーク情報に変換できません。 NETGEARはそのような設定をサポートしていません。

インターネットにアクセスできない

ルーターにアクセスできてもインターネットにはアクセスできない場合は、ルーターがインターネットサービスプロバイダー (ISP) からIPアドレスを取得できるかどうかを確認してください。 プロバイダーが固定 IP アドレスを提供している場合を除き、ルーターはプロバイダーに IP を要求します。 NETGEAR genieの高度なホームページを使用して、リクエストが成功したかどうかを判断できます。

WAN IPアドレスを調べます。

1. ネットワークに接続されているPCや無線LAN子機でウェブブラウザーを開きます。
2. *netgear.com*などの外部サイトを選択します。
3. 「**http://www.routerlogin.net**」と入力します。
   ログインウィンドウが開きます。
4. ルーターのユーザー名とパスワードを入力します。
   ユーザー名は「**admin**」です。 パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

   管理者ページの基本ホームページが表示されます。
5. **[高度]** タブをクリックします。
   NETGEAR genieの高度なホームページが表示されます。
6. インターネットポートのIPアドレスが表示されることを確認します。 0.0.0.0が表示される場合、ルーターはプロバイダーからIPアドレスを取得していません。

ルーターがプロバイダーからIPアドレスを取得できない場合は、ネットワークを再起動することで、ケーブルモデムやDSLモデムに新しいルーターを強制的に認識させる必要が生じることがあります。 詳細については、*ネットワークを再起動する手順*（169ページ）を参照してください。

それでもルーターがプロバイダから IP を取得できない場合、以下のいずれかの問題が考えられます。

- ご利用のプロバイダーではログインプログラムが必要な可能性があります。 プロバイダーに、PPPoE (PPP over Ethernet) やその他のタイプのログインが必要かどうかをお問い合わせください。
- プロバイダーでログインが必要な場合、ログイン名とパスワードが正しく設定されていない可能性があります。
- プロバイダーがご利用のPCのホスト名を調べている可能性があります。 [インターネット設定] ページで、プロバイダーアカウントのPCホスト名をアカウント名として割り当ててください。
- プロバイダーで許可される、インターネットに接続するためのMACアドレスが1つだけで、PCのMACアドレスを調べている場合は、以下のいずれかを実行します。
  - 新しいネットワークデバイスを購入したことをプロバイダーに連絡し、ルーターのMACアドレスを使用するように依頼します。
  - PCのMACアドレスをクローンするよう、ルーターを構成してください。

ルーターがIPアドレスを取得していても、Webページが表示できない場合、以下の1つ以上の原因による可能性があります。

- PCがどのDNSサーバーのアドレスも認識していない可能性があります。
  DNSサーバーは、インターネット名 (wwwアドレスなど) を数値のIPアドレスに変換するインターネット上のホストです。 一般に、プロバイダーはユーザーが使用するために、1台または2台のDNSサーバーのアドレスを提供します。 ルーターの設定中にDNSアドレスを入力した場合は、PCを再起動し、DNSアドレスを確認します。 OSのマニュアルで説明されているように、手動でDNSアドレスを指定してPCを設定できます。
- お使いのPCでルーターがTCP/IPゲートウェイとして設定されていない可能性があります。
  PCがDHCPによってルーターから情報を取得する場合、PCを再起動し、ゲートウェイアドレスを確認します。
- 必要でなくなったログインソフトウェアを実行している可能性があります。
  ご利用のプロバイダがインターネットへのログイン用プログラム (WinPoET など) を提供している場合、ルーターをインストールした後は、このソフトウェアは不要となります。 Internet Explorerに移動し、**[ツール] > [インターネットオプション]** と選択し、**[接続]** タブをクリックして、**[ダイヤルしない]** を選択する必要がある場合があります。 ほかのブラウザーにも類似のオプションが用意されています。

インターネット閲覧のトラブルシューティング

ルーターがIPアドレスを取得できていても、Webページが表示できない場合は、以下の原因による可能性があります。

- トラフィックメーターが有効になっていて、限度に達しました。
  トラフィック制限に達してもトラフィックメーターがインターネットアクセスをブロックしないように設定すれば、インターネットアクセスを再開できます。 プロバイダーが使用制限を設定している場合は、超過分に対して課金されることがあります。
- PCがどのDNSサーバーのアドレスも認識していない可能性があります。 DNSサーバーは、インターネット名 (wwwアドレスなど) を数値のIPアドレスに変換するインターネット上のホストです。
  一般に、プロバイダーはユーザーが使用するために、1台または2台のDNSサーバーのアドレスを提供します。 ルーターの設定中に DNS アドレスを入力した場合は、PCを再起動してください。
  または、お使いのPCのマニュアルを参照し、手動でDNSアドレスを指定してPCを設定できます。

- お使いのPCでルーターがデフォルトゲートウェイとして設定されていない可能性があります。
  PCを再起動し、ルーターアドレス (www.routerlogin.net) がデフォルトゲートウェイアドレスとしてPCに表示されているかどうかを確認します。
- 必要でなくなったログインソフトウェアを実行している可能性があります。 ご利用のプロバイダがインターネットへのログイン用プログラム (WinPoETなど) を提供している場合、ルーターをインストールした後は、このソフトウェアは不要となります。 Internet Explorerに移動し、**[ツール] >[インターネットオプション]** と選択し、**[接続]** タブをクリックして、**[ダイヤルしない]** を選択する必要がある場合があります。 ほかのブラウザーにも類似のオプションが用意されています。

変更が保存されない

ルーターのWebインターフェイスで行った変更がルーターで保存されない場合は、以下を実行します。

- 設定を入力するときには、別のページやタブに移動する前に必ず **[適用]** ボタンをクリックします。そうしないと変更内容が失われます。
- Webブラウザーで **[更新]** ボタンまたは **[再読み込み]** ボタンをクリックします。 変更が行われても古い設定がWebブラウザーのキャッシュに残っている可能性があります。

無線LAN接続のトラブルシューティング

ルーターへの無線LAN接続に問題が発生している場合は、問題の切り分けを行います。

- 使用しているPCや無線LAN子機では、無線LANネットワークが検出されていますか？
  検出されていない場合、ルーターの無線LAN LEDを確認します。
  ルーターのSSIDブロードキャストを無効にした場合、無線LANネットワークは非表示になり、無線LAN子機の一覧に表示されません (デフォルトでSSIDブロードキャストは有効になっています)。
- 無線LAN子機は、無線LANネットワークのために使用しているセキュリティ (WPAやWPA2) をサポートしていますか？
- 現在のルーターの無線LANセキュリティを確認する場合は、LANケーブルを使ってPCをルーターのLANポートに接続します。 次に、ルーターにログインして、**[基本] > [ワイヤレス]** を選択します。

注 設定を変更したら必ず**[適用]** ボタンをクリックしてください。

無線LAN子機がネットワークを検出しても、信号強度が弱い場合は、以下のような状態でないか確認してください。

- ルーターが無線LAN子機から離れすぎている、または近すぎていることはありませんか？ 無線LAN子機はルーターの近くに配置しますが、少なくとも1.8メートルは離して設置し、信号強度が向上するかどうかを確認します。
- ルーターと無線LAN子機の間に、ワイヤレス信号を遮る障害物がありませんか？

pingユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング

ほとんどのネットワーク機器やルーターには、指定した機器にエコー要求パケットを送信するpingユーティリティが用意されています。 エコー要求が送られると、デバイスはエコー応答を返します。 PCまたはワークステーションでpingユーティリティを使用して、簡単にネットワークのトラブルシューティングを行うことができます。

ルーターへのLANのパスのテスト

PCからルーターをPingすることで、ルーターへのLANパスが正しく設定されているかを点検することができます。

Windows PCからルーターにpingします。

1. Windowsツールバーの**[スタート]**ボタンをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]**を選択します。
2. 次の例に示すように、表示される欄に**ping**に続けて、ルーターのIPアドレスを入力します。
   ping www.routerlogin.net
3. **[OK]** ボタンをクリックします。
   次のようなメッセージが表示されます。

   ```
   Pinging <IP address > with 32 bytes of data
   ```

   パスが正しく機能していれば、次のようなメッセージが表示されます。

   ```
   Reply from < IP address >: bytes=32 time=NN ms TTL=xxx
   ```

   パスが正しく機能していない場合は、次のようなメッセージが表示されます。

   ```
   Request timed out
   ```

パスが正しく機能していない場合は、以下のいずれかの問題が発生している可能性があります。

- ケーブルの接続に不具合がある
  有線接続の場合、接続したポートに対応するLANポートLEDが点灯していることを確認してください。
  使用中のネットワーク機器に対して、適切なLEDが点灯していることを確認してください。 ルーターと子機が個別のスイッチに接続されている場合は、子機とルーターに接続されているスイッチポートのリンクLEDが点灯していることを確認してください。
- ネットワーク設定に不具合がある
  イーサネットカードのドライバーソフトウェアとTCP/IPソフトウェアがどちらも子機にインストールされ、設定されていることを確認してください。
  ルーターとPCのIPアドレスが正しく、同じサブネットであることを確認してください。

Windows PCからリモートデバイスへのパスのテスト

Windows PCからリモートデバイスへのパスをテストします。

1. Windowsツールバーの**[スタート]**ボタンをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]**を選択します。
2. Windowsの[ファイル名を指定して実行] ウィンドウで、次のように入力します。

ping -n 10 *<IP address>*

*<IP address>*には、プロバイダーのDNSサーバーのようなリモート機器のIPアドレスが入ります。

パスが正しく機能している場合は、*ルーターへのLANのパスのテスト*（174ページ）に示したようなメッセージが表示されます。

3. 応答が受信されない場合は、以下のことを確認してください。

   - ルーターのIPアドレスがPCのデフォルトゲートウェイとして表示されることを確認します。DHCPがPCのIP設定を割り当てている場合、この情報はPCの[ネットワーク]コントロールパネルには表示されません。ルーターのIPアドレスがデフォルトゲートウェイとして表示されているかどうか確認してください。
   - PCのネットワークアドレス (サブネットマスクによって指定されるIPアドレスの部分) が、リモートデバイスのネットワークアドレスとは異なっていることを確認します。
   - ケーブルモデムまたはDSLモデムが接続されていて、機能していることを確認します。
   - プロバイダーがPCにホスト名を割り当てた場合は、[インターネット設定] ページで、そのホスト名をアカウント名として入力します。
   - プロバイダーが、1台を除くすべてのPCのMACアドレスを拒否している可能性があります。

   多くのプロバイダーは、ブロードバンドモデムのMACアドレスからのトラフィックのみを許可することで、アクセスを制限しています。 一部のプロバイダーではさらに、そのモデムに接続された1台のPCのMACアドレスへのアクセスも制限されます。 ご利用のプロバイダーがそうしている場合は、承認済みPCのMACアドレスの"クローン"または"スプーフィング"を行うようにルーターを設定してください。

補足情報

A

この章には、ルーターの技術情報を記載しています。

この章には次の内容が含まれます。

- *工場出荷時の設定*（177ページ）
- *技術仕様*（180ページ）

工場出荷時の設定

ルーターを工場出荷時のデフォルトに設定を戻すことができます。

ルーターを工場出荷時の設定に戻す方法の詳細については、*ルーターを工場出荷時の設定に戻す*（125ページ）を参照してください。

次の表に、ルーターの工場出荷時の初期設定を示します。

表 3 : ルーターの工場出荷時の初期設定

機能	初期設定
ルーターログイン	
ユーザーログインURL	www.routerlogin.net (または www.routerlogin.com または192.168.1.1)
ユーザー名 (大文字と小文字を区別)	admin
ログインパスワード (大文字と小文字を区別)	セットアップ時に指定
インターネット接続	
MACアドレス	デフォルトのハードウェアアドレスを使う
WAN MTUサイズ	インターネット接続に使用されるプロトコルによって決定 (*MTUサイズの管理*（37ページ）を参照してください)
ポート速度	自動検知
ローカルネットワーク (LAN)	
LAN IP アドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバー	有効
DHCP範囲	192.168.1.2～192.168.1.254
DHCP開始IPアドレス	192.168.1.2
DHCP終止IPアドレス	192.168.1.254
DMZ	無効
タイムゾーン	国、地域によって異なる
タイムゾーンを夏時間に合わせて調整	無効
ファイアウォールおよびWANセキュリティ	
インバウンド (インターネットからの通信)	無効 (ポート80のHTTPポートのトラフィックを除く)

表 3 : ルーターの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能	初期設定
アウトバウンド (インターネットへの通信)	有効 (すべて)
ソースMACフィルタ	無効
ポートスキャンとDoS保護	有効
インターネットポートはPingに応答する	無効
IGMPプロキシ	無効
VPNパススルー	有効
SIP ALG	有効
NATフィルタリング	セキュア
メインWiFiネットワーク	
無線LAN通信	有効
SSID名	ルーターのラベルに表示
セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
無線LANのパスフレーズ	ルーターのラベルに表示
国/地域	日本
RFチャンネル	使用可能なチャンネルは地域によって異なります。
転送速度	自動 処理速度は環境に応じて異なります。ネットワーク状況、作業環境 (ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど) がデータ処理速度に影響します。
接続速度	R6350: 300+1450 R6850: 300+ 1733
伝送電力	100%、設定不可
ゲスト無線LANネットワーク	
無線LAN通信	無効
SSID名	2.4 GHz周波数帯: NETGEAR_Guest 5 GHz周波数帯: NETGEAR-5G_Guest
セキュリティ	なし (オープンネットワーク)

表 3 : ルーターの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能	初期設定
ゲストによるメインネットワークへのアクセスを許可する	無効
全般的な無線LAN設定	
無線送信電力	100%、設定不可
20/40 MHzの共存	有効
フラグメンテーション長	2346
CTS/RTSしきい値	2347
プリアンブルモード	ロングプリアンブル
WPS	
WPS機能	有効
ルーターのPIN	有効 ルーターのWebインターフェイスを参照 (**[高度] > [高度な設定] > [高度なワイヤレス設定]** を選択)。
既存のワイヤレス設定を適用する	有効

技術仕様

表 4 : ルーター仕様

機能	説明
電源アダプター	12V @ 1.5A出力
サイズ	235.51 x 150.76 x 54.5 mm
重量	377 g
動作保証温度	0～40 °C
動作保証湿度	最大90%、結露なきこと
認証	FCC Part 15 Class B
LAN	RJ-45ポートx4、10BASE-T、100BASE-TX、および1000BASE-T対応
WAN	RJ-45ポートx1、10BASE-T、100BASE-TX、および1000BASE-T対応
WiFi	最大無線LAN信号速度はIEEE802.11標準に準拠 NETGEARは、本製品と将来標準化されるいかなる無線LAN規格との互換性も保証しません。 最大1450 Mbps (R6350)/最大1733 Mbps (R6850) の無線LAN速度を実現するには、無線LANデバイスが802.11ac 1450 Mbps (R6350)/1733 Mbps (R6850) に対応している必要があります。
USB	USB 2.0ポート x 1
無線データ速度	自動速度探知
無線LAN規格	IEEE 802.11 b/g/n 2.4 GHz IEEE 802.11 a/n/ac 5.0 GHz
ワイヤレスネットワークごとの最大PC数	ノードごとに生成される無線LANネットワークトラフィック量によって制限 (通常は50～70ノード)

表 4 : ルーター仕様 (続き)

機能	説明
動作周波数範囲	2.4 GHz周波数帯 • 米国: 2.412～2.462 GHz • ヨーロッパ: 2.412～2.472 GHz • オーストラリア: 2.412～2.472 GHz • 日本: 2.412～2.472 GHz 5 GHz周波数帯 • 米国: 5.18～5.24 + 5.745～5.825 GHz • ヨーロッパ: 5.18～5.24 GHz • オーストラリア: 5.18～5.24 + 5.745～5.825 GHz • 日本: 5.18～5.24 GHz
802.11セキュリティ	WPA2-PSK、WPA-PSK、WPA/WPA2 (混在モード)、WPA/WPA2エンタープライズ、およびWEP